

武蔵野市立吉祥寺美術館

事業記録 2002—2022

公益財団法人武蔵野文化事業団事業記録 別冊

公益財団法人 武蔵野文化事業団
武蔵野市立吉祥寺美術館
2022年3月

2002－2011

目次

1	展覧会事業	
1-1	企画展示 企画展示室	4
1-2	常設展示 浜口陽三記念室・萩原英雄記念室	26
2	教育普及事業	
2-1	ワークショップ	28
2-2	学校との連携	35
3	武蔵野美術大賞展	37

1 展覧会事業

1-1 企画展示 企画展示室

	会期	展覧会名
平成13年度(2001)		
1	2002年2月2日(土)～3月26日(火)	開館記念所蔵作品お披露目展 その一 良寛と九浦
平成14年度(2002)		
2	2002年4月1日(月)～5月12日(日)	開館記念所蔵作品お披露目展 その二 油彩
3	2002年5月17日(金)～6月30日(日)	開館記念所蔵作品お披露目展 その三 写実を追い求めた画家 江藤純平展
4	2002年8月3日(土)～9月8日(日)	開館記念所蔵作品お披露目展 その四 一原有徳展 変幻の抽象にみる無垢な作意
5	2002年9月13日(金)～10月27日(日)	開館記念所蔵作品お披露目展 その五 岡田紅陽展 移ろう富士を写す
6	2002年11月30日(土)～12月24日(火)	開館記念所蔵作品お披露目展 その六 書・版画・イラストレーション
7	2003年1月4日(土)～2月23日(日)	萩原英雄 富士・不二・ふじ 故郷を父母を恋うる心の詩
平成15年度(2003)		
8	2003年4月1日(火)～5月25日(日)	受贈記念 イラストレーター 永沢まこと展 ニューヨーク、イタリアそして東京へ
9	2003年5月30日(金)～6月29日(日)	受贈記念 江崎寛友～海に捧ぐ～展
10	2003年8月4日(月)～9月15日(月祝)	アンパンマン絵本原画展
11	2003年9月21日(日)～10月25日(土)	万葉歌を観る 万葉びとのところを映した絵画から
12	2003年10月30日(水)～11月4日(火)	WS 夏休みスケッチ教室“永沢まことの弟子になる！”作品展 永沢まことと小さな弟子たち展
13	2003年12月1日(月)～2004年1月18日(日)	受贈記念 山喜多二郎太展 墨彩に遊ぶ
14	2004年1月23日(金)～2月22日(日)	武蔵野と歩んだ作家たち ～武蔵野市所蔵作品から～
平成16年度(2004)		
15	2004年4月1日(土)～5月23日(日)	博物図譜展 -博物の肖像画-
16	2004年5月29日(土)～6月27日(日)	受贈記念 沢田哲郎展 シルクスクリーンで描く心の風景
17	2004年8月4日(水)～9月12日(日)	手塚治虫の ^{メッセージ} 伝言 -親から子、そして次の世代へ-
18	2004年9月18日(土)～10月26日(火)	白川義員展 前人未到の軌跡
19	2004年12月7日(火)～2005年2月16日(水)	美術をまもる、つたえる 武蔵野市所蔵作品から

平成 17 年度(2005)		
20	2005 年 4 月 7 日(㊦)ー5 月 22 日(㊧)	野田九浦 埋もれた歴史人物画の達人
21	2005 年 5 月 28 日(㊦)ー6 月 26 日(㊧)	所蔵作品展 I 商工会議所会報に登場した 20 点
22	2005 年 8 月 3 日(㊦)ー9 月 25 日(㊧)	亀倉雄策ポスター展
23	2005 年 10 月 1 日(㊦)ー30 日(㊧)	鈴木らかんとらかんスタジオ 1920's ニューヨークの手触り
24	2005 年 12 月 7 日(㊦)ー2006 年 1 月 22 日(㊧)	市民のお宝美術品展
25	2006 年 1 月 28 日(㊦)ー2 月 19 日(㊧)	中川紀元展 ー辰野美術館所蔵作品によるー
26	2006 年 2 月 23 日(㊦)ー2 月 27 日(㊧)	短期集中展示 萩原英雄:ギリシャ神話・イソップ絵噺シリーズ
平成 18 年度(2006)		
27	2006 年 4 月 5 日(㊦)ー5 月 21 日(㊧)	実物とイラストでみる鳥の巣の造形美 ー鈴木まもるコレクションからー
28	2006 年 5 月 27 日(㊦)ー6 月 25 日(㊧)	美術歳時記:夏によせて ー所蔵作品によるー
29	2006 年 8 月 1 日(㊦)ー9 月 10 日(㊧)	永沢まことのアフリカ!アフリカ!展 人間が、動物が、風景がびっくりするほど面白い!
30	2006 年 9 月 16 日(㊦)ー10 月 29 日(㊧)	野町和嘉写真展 イスラーム巡礼
31	2006 年 12 月 6 日(㊦)ー2007 年 1 月 28 日(㊧)	絵本・自然・子ども… いわむらかずおの世界
32	2007 年 2 月 3 日(㊦)ー2 月 25 日(㊧)	岡田紅陽展 富士への憧憬
平成 19 年度(2007)		
33	2007 年 4 月 3 日(㊦)ー5 月 13 日(㊧)	織田一磨展 ー石版に描かれた都市風景ー
34	2007 年 5 月 19 日(㊦)ー7 月 1 日(㊧)	堀田清治展
35	2007 年 8 月 5 日(㊦)ー9 月 9 日(㊧)	味わいの芸術 和菓子
36	2007 年 9 月 15 日(㊦)ー10 月 28 日(㊧)	Genius Party 展 吉祥寺発アニメの想像と創造
37	2007 年 12 月 16 日(㊦)ー2008 年 2 月 11 日(㊧)(㊨)	土門拳写真展 日本のこころ
平成 20 年度(2008)		
38	2008 年 4 月 1 日(㊦)ー6 月 11 日(㊦)	五味太郎作品展 [絵本の時間]
39	2008 年 7 月 26 日(㊦)ー9 月 7 日(㊧)	没後 20 年 清らかな美の系譜 小磯良平展
40	2008 年 9 月 25 日(㊦)ー11 月 2 日(㊧)	萩原英雄追悼展 ー美の遍路ー
41	2008 年 12 月 7 日(㊦)ー2009 年 1 月 18 日(㊧)	年画で迎えるお正月 ベトナム☆民間版画展
42	2009 年 1 月 24 日(㊦)ー3 月 1 日(㊧)	原研哉デザイン展「本」 友人、原田宗典がモノ書きだったおかげで。

平成 21 年度(2009)		
43	2009 年 4 月 4 日(土)－5 月 24 日(日)	動物画の奇才・薮内正幸の世界展
44	2009 年 5 月 30 日(土)－6 月 28 日(日)	旅へ。所蔵品でめぐる異国の風景 併設：新収蔵作品お披露目展
45	2009 年 8 月 8 日(土)－9 月 27 日(日)	上村淳之展 ー喉禽を描くー
46	2009 年 10 月 3 日(土)－11 月 8 日(日)	写真と民俗学 内藤正敏の「めくるめく東北」
47	2009 年 12 月 12 日(土)－2010 年 2 月 21 日(日)	齋藤藤真一展 瞽女と哀愁の旅路
平成 22 年度(2010)		
48	2010 年 4 月 3 日(土)－5 月 23 日(日)	カガヤクシゴト 棟方志功展 ー南砺市立福光美術館所蔵作品よりー
49	2010 年 5 月 29 日(土)－7 月 4 日(日)	小島鼎子展 青龍社とともに歩んだ女性画家
50	2010 年 8 月 7 日(土)－9 月 12 日(日)	知ることとは愛すること 田淵行男写真展
51	2010 年 9 月 18 日(土)－11 月 7 日(日)	草間彌生展 ワタシというナニモノかへの問い
52	2010 年 12 月 3 日(金)－19 日(日)	未来へつなぐ花鳥画 過去 16 回の松伯美術館「花鳥画公募展」を振り返る
53	2010 年 12 月 23 日(木)祝－2011 年 2 月 20 日(日)	『100 かいだてのいえ』のひみつ 岩井俊雄が子どもたちと作る絵本と遊びの世界展
平成 23 年度(2011)		
54	2011 年 4 月 2 日(土)－5 月 15 日(日)	うたう色・あそぶ線 山喜多二郎太展
55	2011 年 5 月 21 日(土)－6 月 13 日(日)	吉祥寺に生きた文化功労者 上條信山 書の世界展
56	2011 年 7 月 9 日(土)－8 月 14 日(日)	古川タク展「あそびココロ」 “1 本の線から”
57	2011 年 8 月 20 日(土)－10 月 10 日(日)祝	生誕 100 年 南桂子展 時をこえて刻まれた思い・まなざし
58	2011 年 11 月 12 日(土)－12 月 25 日(日)	池田満寿夫美術館所蔵 池田満寿夫展 組み合わせられたイメージのなかへ
59	2012 年 1 月 7 日(土)－2 月 19 日(日)	紙上の技法学 筑波大学所蔵 石井コレクション

■第1回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その一
良寛と九浦

2002年2月2日㊥—3月26日㊦

開催日数:51日間

入場者数:6,132人[平均120人/日]

写真家・岡田紅陽の収集による良寛の書と、吉祥寺に居住した日本画家・野田九浦の作品を展示。

■第2回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その二
油彩

2002年4月1日㊧—5月12日㊨

開催日数:41日間

入場者数:2,443人[平均60人/日]

江崎寛友、大津鎮雄、中川紀元、中山巍、鈴木千久馬、堀田清治、藤井令太郎、宮田重雄、安武芳男らの油彩を展示。

■第3回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その三
写実を追い求めた画家 江藤純平展

2002年5月17日㊩—6月30日㊪

開催日数:43日間

入場者数:3,123人[平均73人/日]

岡田三郎助の門下で学び光風会や日展で活躍し、堅実な写実に基づく絵画を残した画家・江藤純平[1898-1987]の油彩を展示。

■第4回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その四
一原有徳展 変幻の抽象にみる無垢な作意

2002年8月3日㊫—9月8日㊬

開催日数:35日間

入場者数:2,205人[平均63人/日]

版画家・一原有徳[1910-2010]の、大作《ZOM Yokohama》を中心に展示。

開館記念「所蔵作品お披露目展」

2002年2月2日㊥—12月24日㊭



武蔵野市立吉祥寺美術館

■第5回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その五
岡田紅陽展 移ろう富士を写す

2002年9月13日㊮—10月27日㊯

開催日数:44日間

入場者数:3,292人[平均75人/日]

富士山の写真家として知られ、武蔵野にゆかりのある岡田紅陽[1898-1972]の写真を展示。

■第6回

開館記念 所蔵作品お披露目展 その六
書・版画・イラストレーション

2002年11月30日㊰—12月24日㊱

開催日数:25日間

入場者数:1,320人[平均53人/日]

野田九浦(日本画・木版)、小島鼎子(日本画)、織田一磨(石版)、永沢まこと(イラスト)などの多彩な作品を展示。

■第7回

開館一周年記念特別展

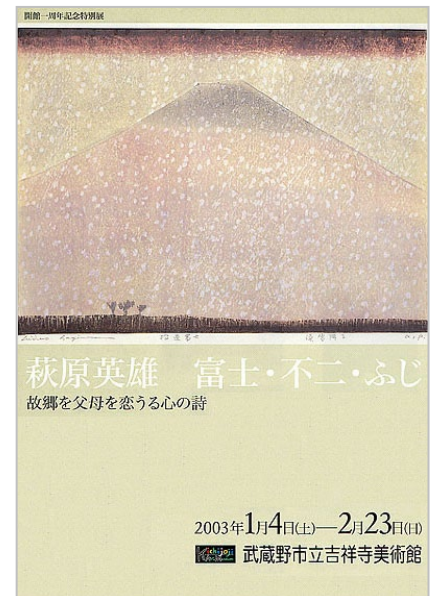
萩原英雄 富士・不二・ふじ 故郷を父母を恋うる心の詩

2003年1月4日(土)―2月23日(日)

開催日数:49日間

入場者数:3,499人[平均71人/日]

油彩画家として出発した萩原英雄[1913-2007]が、自ら考案した版画技法により、30年の歳月をかけて制作した故郷の富士山を主題とした「三十六富士」「拾遺富士」「大富士」の3つの木版画シリーズ全55点を展示。



■第8回

ニューヨーク、イタリアそして東京へ

イラストレーター 永沢まこと展

2003年4月1日(土)―5月25日(日)

開催日数:54日間

入場者数:5,513人[平均102人/日]

協力:草思社プランニング

4/19(土)、5/4(日):永沢まことトークショー&サイン会

武蔵野を拠点に活躍するイラストレーター・永沢まこと[1936-]の東京、ニューヨーク、イタリアなどで描いたスケッチなどに加え、読売新聞の連載「よむひと図鑑」シリーズの原画等を展示。



■第9回

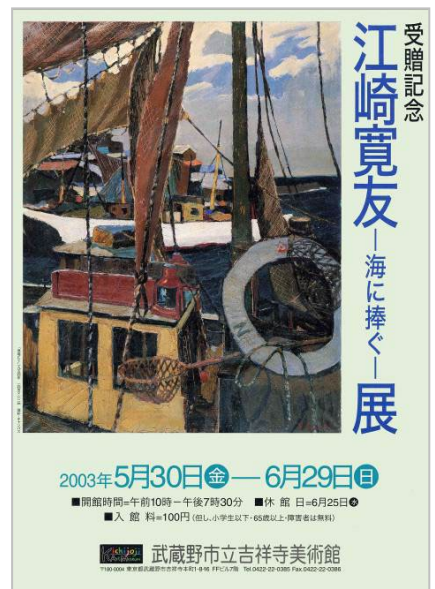
受贈記念 江崎寛友―海に捧ぐ―展

2003年5月30日(金)―6月29日(日)

開催日数:30日間

入場者数:1,466人[平均49人/日]

岐阜に生まれ、太平洋画会や中村不折に学んだ洋画家・江崎寛友[1910-84]は1936年より約25年間、吉祥寺に居を構え、活発な創作活動を行った。本展では、昭和30年代以降の作品を中心にその画業を振り返る。



■第 10 回

アンパンマン絵本原画展

2003 年 8 月 4 日(月)―9 月 15 日(月祝)

開催日数:42 日間

入場者数:8,273 人[平均 197 人/日]

協力:やなせスタジオ、香北町立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム

8/17(日):やなせたかしミニコンサート

1973 年、やなせたかしの手により誕生した「アンパンマン」は、日本中の子どもたちをテレビの前に釘付けにした。本展では「あんぱんまんごりらまん」の原画や「アンパンマンとドキンちゃんのゆめ」の原画に加え、やなせたかしのアクリル画もあわせて展示。



■第 11 回

万葉歌を観る 万葉びとのころを映した絵画から

2003 年 9 月 21 日(日)―10 月 25 日(土)

開催日数:34 日間

入場者数:2,809 人[平均 83 人/日]

協力:奈良県立万葉文化館、高岡市万葉歴史館

9/28(日):講演会「万葉の人々―心とことば―」阿蘇瑞枝(元日本女子大学教授)

かつては日本人のころや生活文化の中の拠り所ともなっていた万葉集。本展では、万葉の詠まれた時代や世界を想像して描かれた絵画 21 点を展示。



■第 12 回

ワークショップ 夏休みスケッチ教室“永沢まことの弟子になる!”作品展
永沢まことと小さな弟子たち展

2003 年 10 月 30 日(土)―11 月 4 日(火)

開催日数:6 日間

入場者数:186 人[平均 31 人/日]

イラストレーター・永沢まことの指導のもと 2 日間にわたり行われたワークショップに参加した生徒らによる作品と、その制作風景を描いた永沢氏のスケッチを展示。井の頭公園にて動物を描き、また屋内で静物の観察をしながら、描くことの楽しみを知ってもらい、その成果を展示。



■第 13 回

受贈記念 山喜多二郎太展 墨彩に遊ぶ

2003 年 12 月 1 日(月)―2004 年 1 月 18 日(日)

開催日数:42 日間

入場者数:2,303 人[平均 55 人/日]

福岡に生まれ、藤島武二や寺崎廣業らに学んだ山喜多二郎太[1897-1965]は、帝展、日展、光風会などで活躍。1950 年以降、武蔵野市に住み、具象と抽象、あるいは油彩と墨彩を自由に行き来しながら独自の画風を築いた。本展では墨彩画約 30 点を中心に油彩画 7 点も展示。



■第 14 回

武蔵野と歩んだ作家たち ~武蔵野市所蔵作品から~

2004 年 1 月 23 日(金)―2 月 22 日(日)

開催日数:30 日間

入場者数:2,114 人[平均 70 人/日]

所蔵品の中から、武蔵野を活動の拠点としてこの地とともに歩んできた、野田九浦(日本画・木版画)、江藤純平(油彩画)、岡田紅陽(写真)、小島鼎子(日本画)の 4 名の作家による作品 17 点を展示。



■第 15 回

博物図譜展 一博物の肖像画一

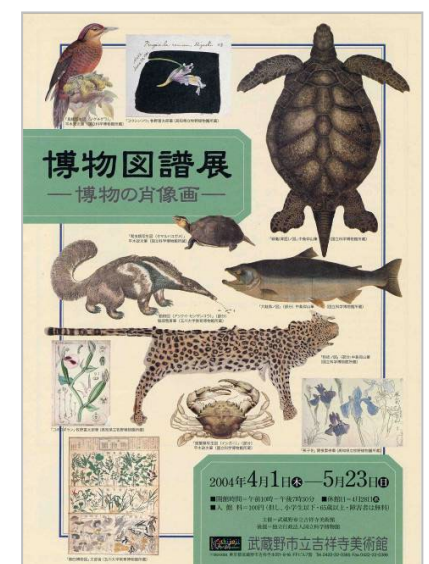
2004 年 4 月 1 日(土)―5 月 23 日(日)

開催日数:52 日間

入場者数:3,496 人[平均 67 人/日]

後援:独立行政法人国立科学博物館

博物図譜は「博物の肖像画」とも称され、単に動植物の姿を写したものにどまらず、芸術作品としての美しさもあわせもつ。江戸末期から近代にかけて描かれた図譜の魅力、国立科学博物館、高知県立牧野植物園、玉川大学教育博物館の所蔵品など 47 点で紹介。



■第 16 回

受贈記念 沢田哲郎展 シルクスクリーンで描く心の風景

2004年5月29日㊥—6月27日㊦

開催日数:30日間

入場者数:1,461人[平均49人/日]

協力:佐藤浩司セリグラフ工房

北海道に生まれ、油彩画を学んだ沢田哲郎[1935-98]は、やがてシルクスクリーンの技法と出会い、水平線を重ねたような独特の画風を築く。風景の中に見出される鮮やかな色層による作品27点を紹介。



■第 17 回

メッセージ 手塚治虫の伝言 一親から子、そして次の世代へ

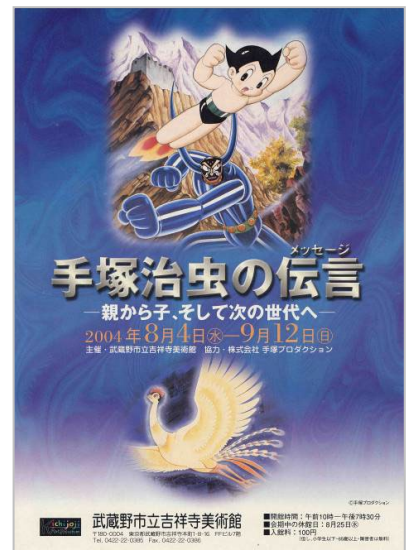
2004年8月4日㊧—9月12日㊨

開催日数:39日間

入場者数:6,339人[平均163人/日]

協力:株式会社手塚プロダクション

「生命の尊さにたいする畏敬の念」を描き続けてきた手塚治虫[1928-89]の作品は約700点にもものぼる。本展では代表作である『鉄腕アトム』と『火の鳥』の直筆原稿や原画などを展示。登場人物を通して語られる作者の未来への伝言に耳を傾ける。



■第 18 回

白川義員展 前人未到の軌跡

2004年9月18日㊩—10月26日㊪

開催日数:38日間

入場者数:7,172人[平均189人/日]

協力:株式会社フレームマン

10/2㊫: 白川義員ギャラリートーク

「地球再発見による人間性回復」を信条に活動を続けてきた写真家・白川義員[1935-]。自然に畏敬の念を抱きつつ、不屈の精神で撮影にのぞむ白川のアλπスから世界百名山までの作品を展示。



■第 19 回

美術をまもる、つたえる 武蔵野市所蔵作品から

2004 年 12 月 7 日(火)―2005 年 2 月 16 日(水)

開催日数:64 日間

入場者数:2,386 人[平均 37 人/日]

協力:山領絵画修復工房

美術館の大きな役割の一つである「保存」。長い年月のうちに状態の劣化は避けられないが、修復によって本来の姿を取り戻した作品も少なくない。普段は人目に触れることのないこの活動の一部を、修復前の写真とあわせ、作品を展示することで美術館の活動を紹介します。



■第 20 回

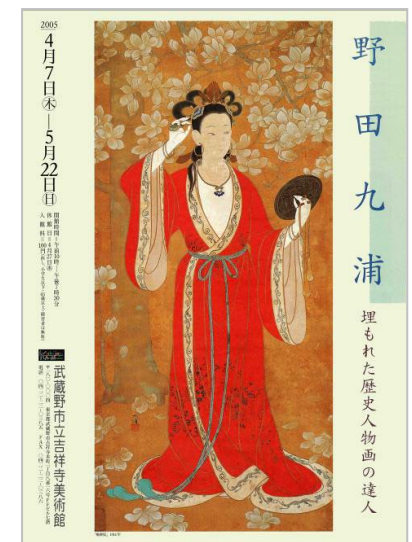
野田九浦 埋もれた歴史人物画の達人

2005 年 4 月 7 日(土)―5 月 22 日(日)

開催日数:45 日間

入場者数:3,056 人[平均 68 人/日]

1907 年第 1 回文展で最高賞を受賞し、以後、帝展、日展などで活躍しながらも、あまりに実直な作風ゆえに美術史の中に埋もれてきた日本画家、野田九浦[1879―1971]。所蔵品の中から歴史人物を描いた作品 22 点を展示し、武蔵野市にゆかりの深い野田九浦の画業を改めて顕彰する。



■第 21 回

所蔵作品展 I ー商工会議所会報に登場した 20 点ー

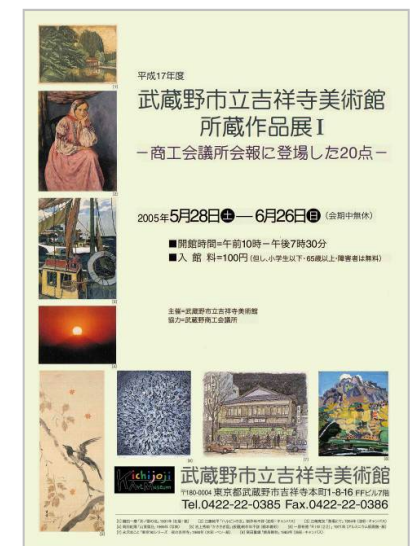
2005 年 5 月 28 日(土)―6 月 26 日(日)

開催日数:30 日間

入場者数:1,254 人[平均 42 人/日]

協力:武蔵野商工会議所

武蔵野商工会議所が毎月 1 回発行しているニュースレターの表紙に、2 年間にわたり掲載されてきた当館所蔵品の中から 15 作家の 20 点を選んで展示。紙上で紹介した作品をあらためて鑑賞してもらう機会とする。



■第22回

亀倉雄策ポスター展

2005年8月3日(水)～9月25日(日)

開催日数:53日間

入場者数:5,046人[平均95人/日]

協力:新潟県立近代美術館・万代島美術館・亀倉雄策資料室

後援:社団法人日本グラフィックデザイナー協会

東京オリンピックのポスターをはじめ、様々な商業ポスターや、ロゴマークのデザインを手がけてきたグラフィックデザイナー・亀倉雄策[1915-97]の代表的なポスター44点を展示し、亀倉の仕事振り返る。



■第23回

鈴木らんとかんスタジオ 1920's ニューヨークの手触り

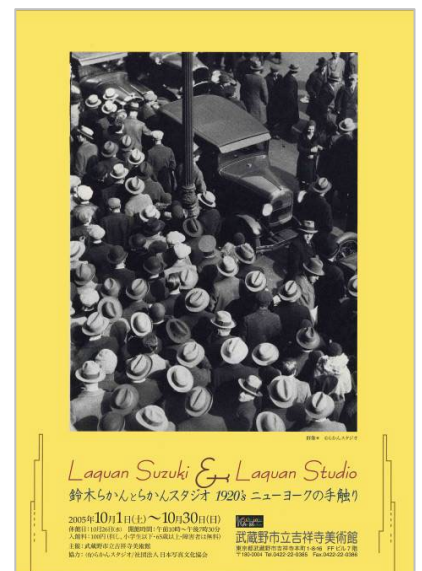
2005年10月1日(土)～30日(日)

開催日数:29日間

入場者数:2,418人[平均83人/日]

協力:(有)らんとかんスタジオ、社団法人日本写真文化協会

横浜で写真を学び、1914年に渡米して中山岩太とともにニューヨークでスタジオを開いた写真家・鈴木清作[1893-1964]は、「らん」と名乗り、様々な人物やシーンをカメラにおさめた。帰国後、吉祥寺にスタジオを構えたらんがかんが撮った肖像写真を中心に約70点を展示。



■第24回

市民のお宝美術品展

2005年12月7日(水)～2006年1月22日(日)

開催日数:39日間

入場者数:3,448人[平均88人/日]

市民や市内の企業が愛蔵する美術品を募集し、寄せられた作品の中から様々なジャンルの34点を展示。市民が育む文化の豊かさを鑑賞する。



■第 25 回

中川紀元展 一辰野美術館所蔵作品による一

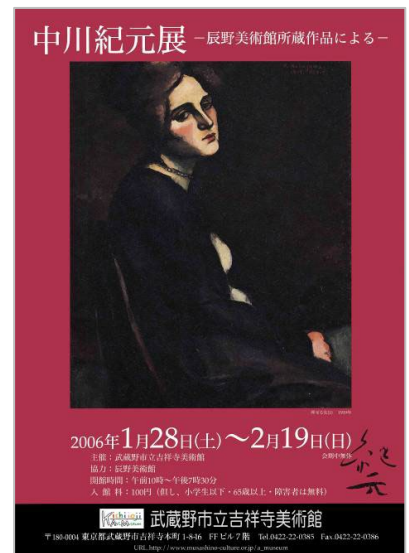
2006年1月28日㊥—2月19日㊦

開催日数:23日間

入場者数:2,089人[平均91人/日]

協力:辰野美術館

東京美術学校に進みながら学校の旧体制になじめずに、パリに渡ってマチスに師事した中川紀元[1892-1972]は、フォーヴな画風で日本の近代画壇に衝撃を与えるなど、つねに前衛的な発想で活動。晩年、武蔵野を拠点とした中川の画業を、故郷・長野県辰野町にある辰野美術館の所蔵品 25 点で振り返る。



■第 26 回

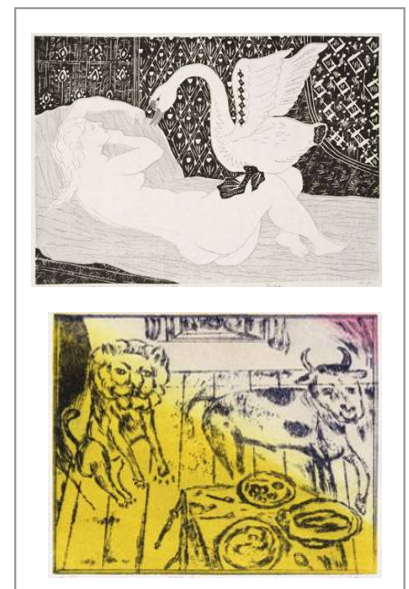
短期集中展示 萩原英雄:ギリシャ神話・イソップ絵噺シリーズ

2006年2月23日㊧—27日㊨

開催日数:5日間

入場者数:174人[平均35人/日]

萩原英雄が、木版画制作を始めて間もない 1955 年から着手し、10 年の歳月をかけて完成させた「ギリシャ神話」シリーズから 42 点と、本来は凸版である木版画にあえて凹版を用いて制作した 1976 年の発表作「イソップ絵噺」シリーズから 51 点をあわせて展示。自ら考案した版画技法を使って独自の木版画の世界を創造してきた萩原の記念碑的なふたつのシリーズを紹介する。



■第 27 回

実物とイラストで見る 鳥の巣の造形美 一鈴木まもるコレクションから一

2006年4月5日㊩—5月21日㊪

開催日数:46日間

入場者数:5,974人[平均130人/日]

5/5㊫㊬: コンサート「空飛ぶ笛～鳥にまつわる素敵なバロック音楽～」
江崎浩司(リコーダー)、長久真実子(チェンバロ)

5/13㊭: 講演会「鳥の巣の造形美」鈴木まもる(絵本作家・鳥の巣収集家)

絵本作家・画家として知られる鈴木まもる[1952-]が約 20 年にわたり収集した鳥の巣のコレクションから、珍しい巣、アフリカで収集した巣などと、同氏の描く「鳥と巣と卵」の細密画を合わせ、約 50 点の資料と水彩画等を展示。



■第28回

美術歳時記:夏によせて 一 所蔵作品による一

2006年5月27日(土)ー6月25日(日)

開催日数:29日間

入場者数:1,845人[平均64人/日]

所蔵作品より「夏」をキーワードに、18作家31点を展示。良寛の書、浜口陽三の見つめた小さな生き物たち、岡田紅陽による富士山の写真など技法も異なる様々な作品の中に「夏」を探す。



■第29回

永沢まことのアフリカ!アフリカ!展

人間が、動物が、風景がびっくりするほど面白い!

2006年8月1日(火)ー9月10日(日)

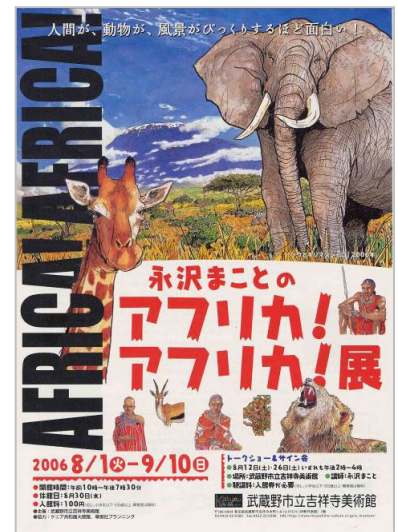
開催日数:40日間

入場者数:7,053人[平均176人/日]

協力:ケニア共和国大使館、草思社プランニング

8/12(土)、8/26(土):永沢まことトークショー&サイン会

2004年に訪れたアフリカで、大自然に暮らすマサイの生活を垣間見た永沢まこと [1936-] がその魅力にとりつかれ描いたイラスト約60点を展示。



■第30回

野町和嘉写真展 イスラーム巡礼

2006年9月16日(土)ー10月29日(日)

開催日数:42日間

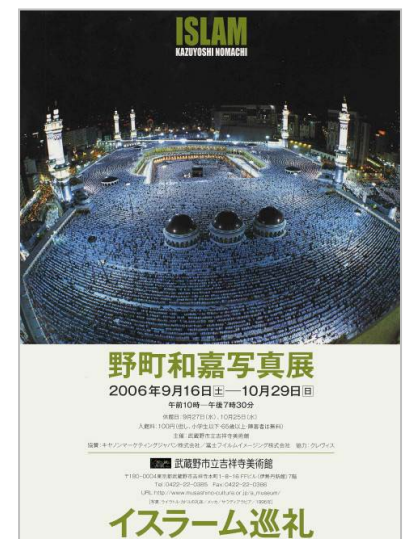
入場者数:6,673人[平均159人/日]

協力:クレヴィス

協賛:キヤノンマーケティングジャパン株式会社、富士フィルムイメージング株式会社

9/23(土)、10/14(土):野町和嘉講演会

世界各地を旅しながら、自然と向き合う人々の暮らしと信仰を撮り続けてきた写真家・野町和嘉 [1946-]。本展では1994年にサウジアラビアからの依頼で撮影を始めたイスラームの巡礼聖地メッカを記録した写真を中心に展示。



■第31回

絵本・自然・子ども...いわむらかずおの世界

2006年12月6日(水)～2007年1月28日(日)

開催日数:45日間

入場者数:9,697人[平均215人/日]

協力:いわむらかずお絵本の丘美術館

12/16(土)、1/14(日):「むさしのおはなし語ろう会」メンバーによる絵本の読み聞かせ
12/23(土)(日):いわむらかずおによる「絵本・自然・子ども」をテーマにしたお話とサイン会

東京藝術大学を卒業後、1970年『ぶくぶくのえほん』で絵本作家としてデビューしたいわむらかずお[1939-]。里山の自然をこよなく愛するその人柄が表れるような絵本の人気シリーズから、原画や関係資料など62点を展示。



■第32回

岡田紅陽展 富士への憧憬

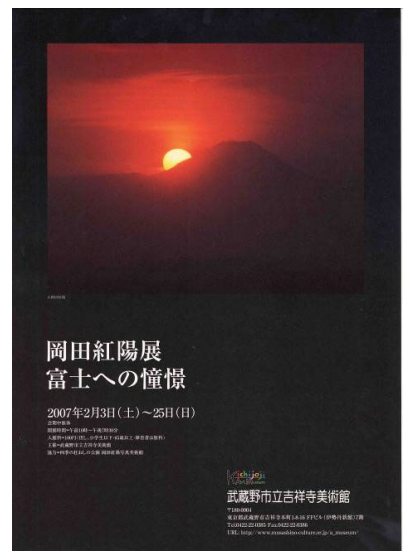
2007年2月3日(土)～2月25日(日)

開催日数:23日間

入場者数:3,675人[平均160人/日]

協力:四季の杜おしの公園 岡田紅陽写真美術館

富士山の写真家として知られる岡田紅陽[1895-1972]が、20歳の頃から生涯追い続けた富士の姿に加え、武蔵野風景、関東大震災、国立公園の記録など、65点の写真と関係資料を紹介。



■第33回

織田一磨展 一石版に描かれた都市風景一

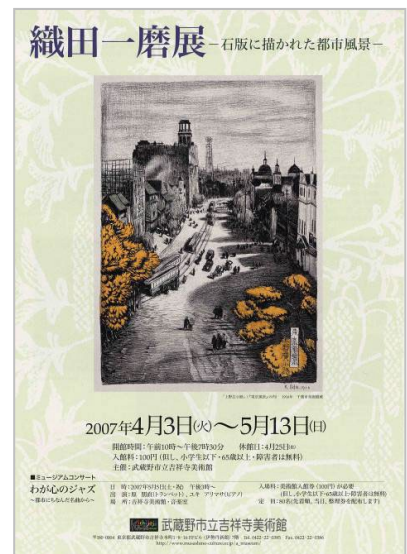
2007年4月3日(火)～5月13日(日)

開催日数:40日間

入場者数:4,218人[平均105人/日]

5/5(土)(日):コンサート「わが心のジャズ～都市にちなんだ名曲から～」
原朋直(トランペット)、ユキ アリマサ(ピアノ)

10代の頃より石版画を学んだ織田一磨[1882-1956]は、都市風俗の描写に優れ、自画自刻自摺を主張して「創作版画」を提唱するなど、版画を芸術の域まで押し上げた。晩年を吉祥寺で過ごし、カフェ文化も主導した織田の代表作を含む約70点の版画や資料にかつての都市の姿を追う。



■第34回

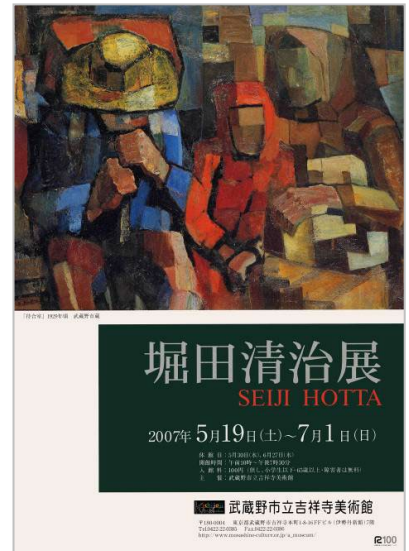
堀田清治展

2007年5月19日㊥—7月1日㊤

開催日数:42日間

入場者数:3,196人[平均76人/日]

高間惣七のもとで油彩画を学んだ堀田清治[1898-1984]は、1920年代の恐慌時代を反映したプロレタリア絵画を制作。その後、武蔵野を拠点に新槐樹社を結成し、宗教や磨崖仏、観音像等を題材に、自らの作風に変化を求め続けた。武蔵野市の所蔵する油彩作品を中心に、柏市教育委員会、多摩市教育委員会所蔵作品をあわせて約30点で制作の変遷をたどる。



■第35回

味わいの芸術 和菓子

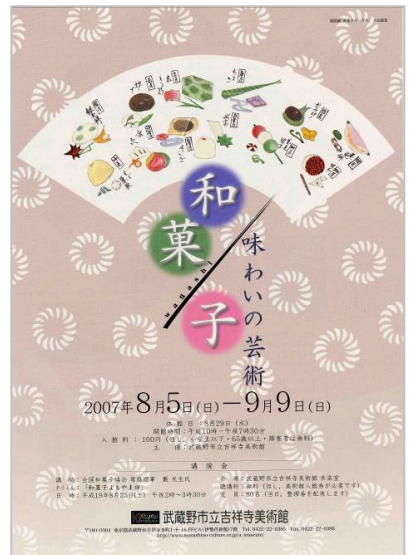
2007年8月5日㊤—9月9日㊤

開催日数:35日間

入場者数:6,541人[平均187人/日]

8/25㊥: 講演会「和菓子よもやま話」 藪光生(全国和菓子協会専務理事)

自然の風物や、四季のある暮らしの豊かさの表現として、また折々の慶事を祝うものとして、日本の自然や文化と寄り添いながら受け継がれてきた伝統の和菓子。これらをアートの視点で捉え、実物や写真、道具、和菓子が登場する浮世絵、パネルなど約30点の資料で歴史的にひも解く。



■第36回

ジーニアス パーティー
Genius Party展 吉祥寺発アニメの想像と創造

2007年9月15日㊥—10月28日㊤

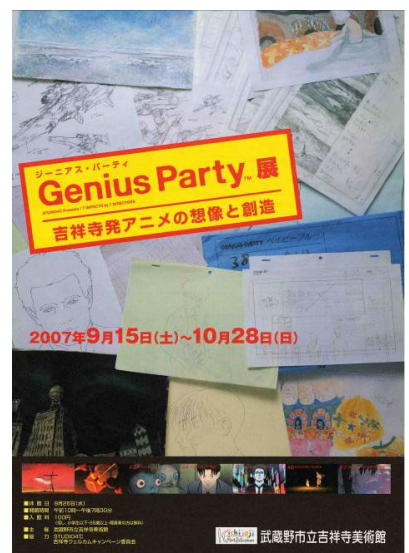
開催日数:43日間

入場者数:4,559人[平均106人/日]

協力:STUDIO4°C、吉祥寺ウェルカムキャンペーン委員会

10/14㊤: 湯浅政明(監督)×竹熊健太郎(評論家)トークイベント

吉祥寺に制作の場をおき、常に斬新なアイデアと高い技術で日本のアニメーションをリードしている STUDIO4°Cのオムニバス映画「Genius Party」に焦点をあて、アニメ制作の現場と個性的な監督らの創造力の源をその制作過程における資料 100 余点で紹介。



■第 37 回

土門拳写真展 日本のこころ

2007年12月16日(日)―2008年2月11日(月)(祝)

前期:12月16日(日)―1月16日(土) 後期:1月17日(土)―2月11日(月)(祝)

開催日数:50日間

入場者数:20,264人[平均405人/日]

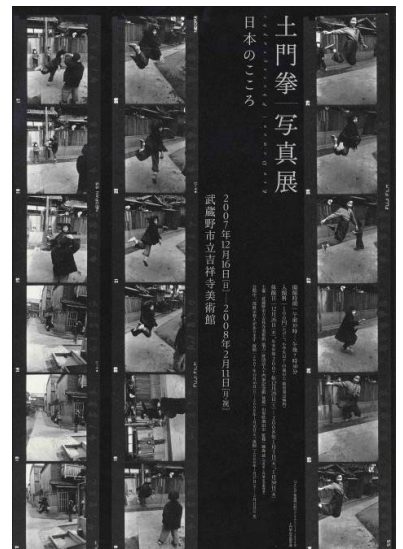
協力:財団法人土門拳記念館 後援:山形県酒田市

監修:藤森武(写真家・土門拳記念館理事)

1/14(月)(祝):講演会「弟子が語る土門拳」藤森武(写真家)

1/27(日):講演会「プレ/ポスト土門拳―写真史の中の土門拳」飯沢耕太郎(写真評論家)

写真家・土門拳[1909-90]の「古事巡礼」「風貌」「筑豊のこどもたち」など代表的なシリーズを紹介する。武蔵野市の友好都市で、土門の出身地でもある山形県酒田市の土門拳記念館の所蔵品から約120点を前期、後期に分けて展示。



■第 38 回

五味太郎作品展 [絵本の時間]

2008年4月1日(火)―6月11日(土)

前期:4月1日(火)―5月7日(土) 後期:5月9日(日)―6月11日(土)

開催日数:69日間

入場者数:18,691人[平均271人/日]

企画協力:メディアリンクス・ジャパン

5/3(土)(祝):コンサート「ピアノとフルートのひととき～音楽が奏でる物語の世界～」
雁部一浩(ピアノ)、北川森央(フルート)

5/4(日):「むざしのおはなし語ろう会」による五味太郎の絵本の読み聞かせ

5/5(月)(祝):五味太郎講演会「絵本の時間」

6/1(日)、7(土)、8(日):担当学芸員によるギャラリートーク

幅広い読者層をもつ絵本作家・五味太郎[1945-]の、絵本の発想から完成までのプロセスを原画やアニメーションで前期・後期にわけて計約140点を展示。



■第 39 回

没後 20 年 清らかな美の系譜 小磯良平展

2008年7月26日(土)―9月7日(日)

開催日数:42日間

入場者数:17,316人[平均412人/日]

協力:神戸市立小磯記念美術館

8/9(土):コンサート「小磯が描いたリュートとともに」
中村忠(バロックフルート)、金子浩(リュート)

8/16(土):武蔵野市国際オルガンコンクールイベントイベント
「ヴァイオリンとポジティブオルガンの出会い」
磯田ひろみ(ヴァイオリン)、川越聡子(ポジティブオルガン)

8/23(土):講演会「小磯良平の魅力」廣田生馬(神戸市立小磯記念美術館学芸員)

日本の近代洋画界を代表する画家・小磯良平[1903-88]の作品より、油彩、デッサン、



版画など初期から晩年までの 33 点を展示。

■第 40 回

萩原英雄追悼展 ー美の遍路ー

2008 年 9 月 25 日(木)ー11 月 2 日(日)

開催日数:38 日間

入場者数:3,766 人[平均 99 人/日]

協力:山梨県立美術館

2007 年 11 月に 94 歳でその生涯をとじた萩原英雄[1913-2007] の木版画のみならず油彩、墨彩、コラージュなどの遺された作品の数々を展示・紹介し、その画業を回顧・顕彰する。



■第 41 回

年画で迎えるお正月 ベトナム☆民間版画展

2008 年 12 月 7 日(日)ー2009 年 1 月 18 日(日)

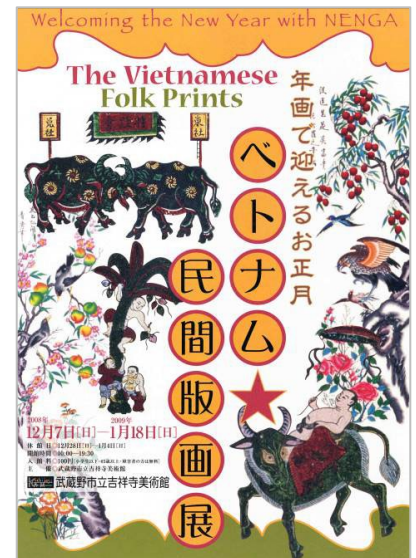
開催日数:35 日間

入場者数:4,527 人[平均 129 人/日]

監修:田所政江(女子美術大学講師)

1/10(土): 講演会「ベトナム民間版画の魅力」 田所政江(女子美術大学講師)

中国から伝わり、招福を願って正月に家庭に飾られる民間伝承の版画「年画」。祭祀、歴史故事、風刺、風俗、花鳥などを題材にした、農村派「ドンホー版画」と都市派「ハンチョン版画」をあわせ約 120 点展示。



■第 42 回

原研哉デザイン展「本」 友人、原田宗典がモノ書きだったおかげで。

2009 年 1 月 24 日(土)ー3 月 1 日(日)

開催日数:35 日間

入場者数:6,422 人[平均 183 人/日]

協力:原研哉+日本デザインセンター原デザイン研究所

1/24(土): オープニング対談 原研哉×原田宗典(作家)

無印良品のアートディレクションや愛知万博のプロモーションなどで知られるグラフィックデザイナー・原研哉[1958-]。本をテーマに、これまでに手がけた小説や作品集の装丁約 120 点を展示。書籍とは紙とは何かといった彼のデザイン哲学を探る。



■第 43 回

動物画の奇才・藪内正幸の世界展

2009 年 4 月 4 日(土)—5 月 24 日(日)

開催日数:50 日間

入場者数:12,784 人[平均 256 人/日]

協力:藪内正幸美術館

後援:財団法人東京動物園協会、東京都井の頭自然文化園、株式会社福音館書店、株式会社岩波書店、サントリー株式会社

4/18(土): 講演会「藪内正幸の世界」 藪内竜太(藪内正幸美術館館長)

5/4(月)(祝): コンサート「モンゴルの風～馬頭琴とホーミーの調べ」
梅木秀徳(馬頭琴・ホーミー奏者)

5/6(水)(祝): トークショー「飼育係による動物のとおきのお話」
小林和夫(東京都井の頭自然文化園副園長)

数々の絵本原画や、サントリー愛鳥キャンペーンのポスター原画等を手掛けた動物画家・藪内正幸の半世紀にわたる仕事の全貌を約 100 点の資料で紹介する。



■第 44 回

旅へ。所蔵品でめぐる異国の風景

2009 年 5 月 30 日(土)—6 月 28 日(日)

開催日数:29 日間

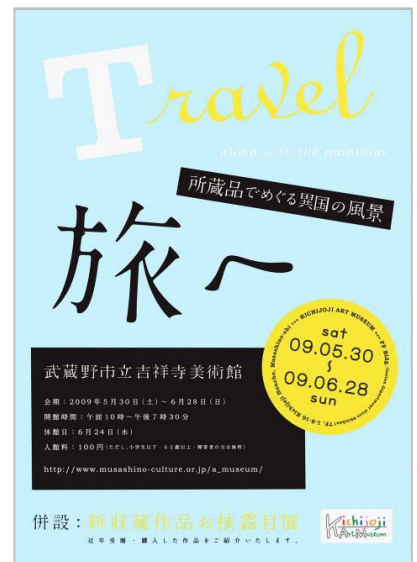
入場者数:3,053 人[平均 105 人/日]

6/7(日)、6/21(日): 担当学芸員によるギャラリートーク

所蔵作品の中から諸外国の風景を描いた油彩画、日本画、版画など 35 点を紹介。ヨーロッパの重厚な街並や、アジアの活気ある街と人々、ニューヨークの片隅から誰も知らない想像の国まで、様々な風景を通して世界一周の旅を楽しむ。

併設:新収蔵作品お披露目展

近年、受贈・購入した、浜口陽三《Three Butterflies》、野田九浦《修道女》、岡田紅陽《井の頭から(仮題)》など 19 点を展示。



■第 45 回

上村淳之展 —唼禽を描く—

2009 年 8 月 8 日(土)—9 月 27 日(日)

開催日数:50 日間

入場者数:9,788 人[平均 196 人/日]

協力:財団法人松伯美術館

8/22(土): コンサート「唼禽を聴く」 箏演奏グループ『和音』

9/5(土): 講演会「何故 花鳥画か」 上村淳之(日本画家、松伯美術館館長)

現代日本の花鳥画家として高い評価を得ている上村淳之[1933-]は、祖母・上村松園、父・上村松篁の三代にわたる日本画家。「唼禽荘」で自ら鳥を飼育し、花鳥画独特の装飾性の中に鳥の生命感と声を表現した作品約 30 点を展示。



■第46回

写真と民俗学 内藤正敏の「めくるめく東北」

2009年10月3日㊥—11月8日㊤

開催日数:36日間

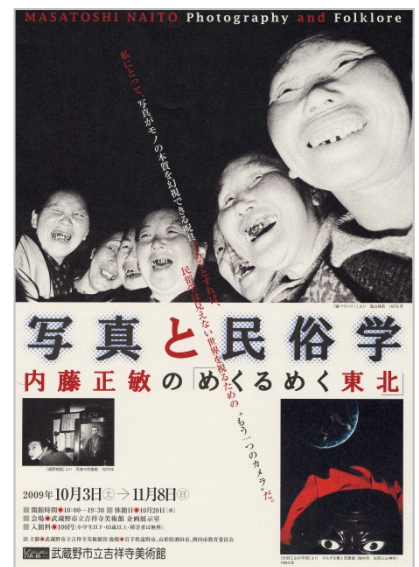
入場者数:4,924人[平均人137/日]

後援:岩手県遠野市、山形県酒田市、酒田市教育委員会

10/3㊥:内藤正敏講演会「出羽三山の宇宙」

11/1㊤:内藤正敏講演会「宮澤賢治と佐々木喜善—東北で生まれた新しい学問」

岩手県遠野市の土着信仰に取材した写真群を作家の文章とともに展示し、写真と民俗学という異なる分野で活躍する内藤正敏[1938-]の抱くふたつの思考とその交叉を描き出す。



■第47回

齋藤真一展 誓女と哀愁の旅路

2009年12月12日㊥—2010年2月21日㊤

前期:12月12日㊥—1月17日㊤ 後期:1月20日㊥—2月21日㊤

開催日数:61日間

入場者数:9,693人[平均159人/日]

協力:財団法人出羽桜美術館、ギャラリー朱雀院、不忍画廊

12/23㊥㊤:朗読と音楽「ひとり、かたり」金沢碧(女優)、佐藤紀雄(ギター)

1/23㊥:講演と朗読「一枚の絵」

野田雄一(富山ガラス工房館長)、廣川奈美子(フリーアナウンサー)

三味線と唄で旅を続ける盲目の旅芸人・誓女(ごぜ)の姿を鮮やかな赫色と繊細な線で描き出し、現代社会で失われていく庶民文化の機微を哀愁を込めて描いた齋藤真一[1922-94]の作品を2期に分けて紹介する。



■第48回

カガヤクシゴト 棟方志功展 —南砺市立福光美術館所蔵作品より—

2010年4月3日㊥—5月23日㊤

開催日数:50日間

入場者数:13,760人[平均275人/日]

協力:南砺市立福光美術館 後援:南砺市、南砺市教育委員会

5/3㊥㊤:対談「棟方志功を語る」

奥野達夫(南砺市立福光美術館館長)

小泉ちよゑ(棟方志功次女、南砺市観光大使)

5/4㊥㊤:吉祥寺音楽祭参加ミュージアムコンサート「チェロとピアノの調べ」

朝吹元(チェロ)、間瀬紀子(ピアノ)

戦後の富山県西砺波郡福光町(現・南砺市福光町)での生活は、棟方志功[1903-75]の制作思想に多大な影響を与えた。後に「世界のムナカタ」と呼ばれるようになる作家の創作の源泉を友好都市・南砺市立福光美術館の作品から紹介。



■第 49 回

小島鼎子展 青龍社とともに歩んだ女性画家

2010年5月29日(土)ー7月4日(日)

開催日数:36日間

入場者数:3,418人[平均95人/日]

生涯を通して、川端龍子率いる青龍社に参加した日本画家・小島鼎子[1898-1964]の、力強さと繊細さが同居する華麗な日本画を所蔵作品の中から紹介する。



■第 50 回

知ることとは愛すること 田淵行男写真展

2010年8月7日(土)ー9月12日(日)

開催日数:36日間

入場者数:5,216人[平均145人/日]

協力:田淵行男記念館、田淵行男記念館開館20周年記念事業実行委員会
後援:安曇野市、安曇野市教育委員会

9/4(土):対談「田淵行男を語る」
田淵穂高(田淵行男長男)、財津達也(田淵行男記念館学芸員)

友好都市・安曇野市の田淵行男記念館が所蔵する、日本を代表する山岳写真家・田淵行男[1905-89]の、雄大な山岳写真と繊細緻密な蝶の写生画を合わせた約60点を通して、世界規模で環境問題に取り組み始めた現代に、自然から読み取り学ぶことを信条とした田淵の業績を紹介する。



■第 51 回

草間彌生展 ワタシというナニモノかへの問い

2010年9月18日(土)ー11月7日(日)

開催日数:49日間

入場者数:20,240人[平均413人/日]

協力:松本市美術館、草間彌生スタジオ

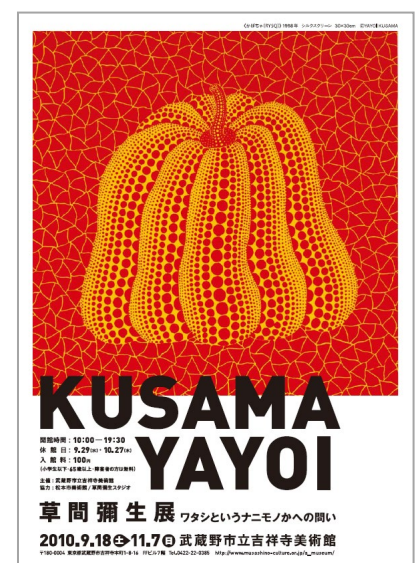
9/25(土):トーク+上映会「前衛芸術家・草間彌生」松本貴子(ドキュメンタリー映画監督)

10/9(土):音楽会「ジョン・ケージの音を通してみる1960年代前衛芸術」
須藤英子(ピアノ・トイピアノ)、松平敬(声)

10/23(土):講演会「草間彌生版画の身体感覚」
綿貫不二夫(画廊「ときの忘れもの」オーナー)

11/3(水):上映会「≡草間彌生～わたし大好き～」

現在も世界的な注目を集める前衛芸術家・草間彌生[1929-]。松本市美術館所蔵作品から、1970年代以降に手掛けたコラージュと版画作品約50点に焦点をあてる。



■第 52 回

未来へつなぐ花鳥画 過去 16 回の松柏美術館「花鳥画公募展」を振り返る

2010 年 12 月 3 日(金)―12 月 19 日(日)

開催日数:17 日間

入場者数:1,761 人[平均約 103 人/日]

共催:財団法人松柏美術館

若手花鳥画家の育成を目指して設立された松柏美術館花鳥画公募展から、過去 16 回の出品作のうち 15 点を紹介する。作品を通して、若き作家たちの活動とともに、自然の神秘や霊性を伝える。



■第 53 回

『100 かいだてのいえ』のひみつ
岩井俊雄が子どもたちと作る絵本と遊びの世界展

2010 年 12 月 23 日(土)祝―2011 年 2 月 20 日(日)

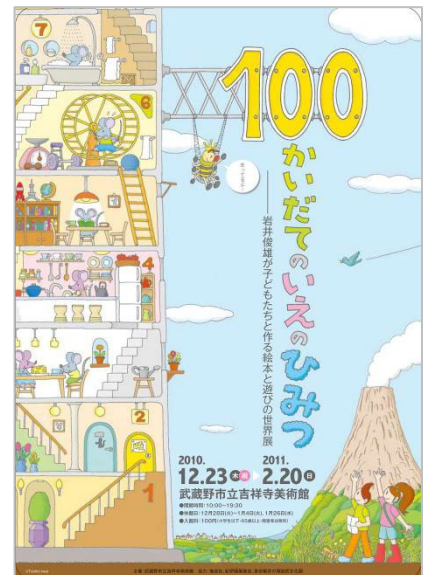
開催日数:51 日間

入場者数:24,975 人[平均約 490 人/日]

協力:偕成社、紀伊國屋書店、東京都井の頭自然文化園

12/23(土)祝: 岩井俊雄オープニングトーク
『100 かいだてのいえ』のひみつのひみつ

メディアアーティスト・岩井俊雄[1962-]が手がけた絵本『100 かいだてのいえ』『ちか100 かいだてのいえ』ができるまでと、その背景にある親子で作ったおもちゃやオリジナルの遊びから、ものづくりの連鎖と広がりを紹介。



■第 54 回

うたう色・あそぶ線 山喜多二郎太展

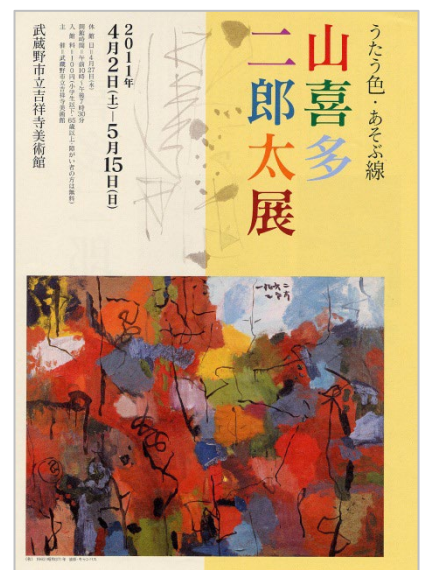
2011 年 4 月 2 日(土)―5 月 15 日(日)

開催日数:43 日間

入場者数:3,295 人[平均 77 人/日]

5/5(土)祝: 演奏会「うたう色・あそぶ音」 重松壮一郎(ピアニスト・作曲家)

西洋と東洋の美術を横断し、自由奔放に制作を楽しんだ山喜多二郎太[1897-1965]の画業を、所蔵作品と関連資料を通して紹介。



■第 55 回

吉祥寺に生きた文化功労者 上條信山 書の世界展

2011 年 5 月 21 日(土)～6 月 13 日(月)

開催日数:23 日間

入場者数:3,617 人[平均 157 人/日]

主催:武蔵野市立吉祥寺美術館、書象会

後援:読売新聞社、(社)全日本書道連盟

6/4(土):講演会「信山の書」 高田墨山(書象会副理事長)

武蔵野の自然を愛し、吉祥寺に 60 年余をすごした上條信山[1907-97]の広い書の世界の中から小品を中心に展示。



■第 56 回

古川タク展「あそびココロ」“1本の線から”

2011 年 7 月 9 日(土)～8 月 14 日(月)

開催日数:32 日間(節電により毎週水曜日臨時休館)

入場者数:5,381 人[平均 168 人/日]

機材協力:キヤノンマーケティングジャパン株式会社、東京工芸大学アニメーション学科

7/9(土):「屋外上映会」会場:コピス吉祥寺 3 階吉祥空園 SORA

7/19(土):対談「漫画、絵本、アニメーションについて気ままに話そう」

古川タク、林静一(画家)

シンプルな線で描かれたユーモア溢れるアニメーションやイラストで知られる古川タク[1941-]の多方面にわたる創作活動を、アニメーション上映のほか、イラスト、絵本原画、インスタレーションなどで紹介。



■第 57 回

生誕 100 年 南桂子展 時をこえて刻まれた想い・まなざし

2011 年 8 月 20 日(土)～10 月 10 日(月祝)

前期:8 月 20 日(土)～9 月 13 日(土) 後期:9 月 17 日(土)～10 月 10 日(月祝)

開催日数:44 日間(節電により 10/5 以外の毎週水曜日臨時休館)

入場者数:8,221 人[平均 187 人/日]

企画運営:財団法人 NHK サービスセンター

企画協力:ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

協力:NHK エデュケーショナル

銅版画家・浜口陽三のパートナーであり、自らも詩情あふれる世界を銅版画に残した南桂子[1911-2004]。生誕 100 年を機に、銅版画を中心に油彩画、デッサン、原版など約 170 点を前後期にわけて紹介。展覧会にあわせて所蔵原版の調査を行い、その技法をひもといた。



■第 58回

池田満寿夫美術館所蔵 池田満寿夫展 組み合わせされたイメージのなかへ

2011年11月12日(土)―12月25日(日)

開催日数:43日間

入場者数:5,147人[平均120人/日]

企画協力:池田満寿夫美術館

11/23(水)Ⓜ:講演会「池田満寿夫・その作品と素顔」 荒井一章(不忍画廊取締役会長)

長野市松代町の池田満寿夫美術館所蔵作品より、池田満寿夫[1934-97]の「組み合わせ」をテーマに構成。繰り返されるモチーフやコラージュ、技法の組み合わせなどから、幻想的な作品の世界を紹介する。



■第 59回

紙上の技法学 筑波大学所蔵 石井コレクション

2012年1月7日(土)―2月19日(日)

開催日数:43日間

入場者数:4,285人[平均100人/日]

協力:国立大学法人筑波大学

1/28(土):講演会「美術と文学の織り成す世界-筑波大学の美術コレクションをめぐって」 寺門臨太郎(筑波大学准教授)

1/8(日)、14(土)、15(日)、22(日)、29(日)、2/5(日)、12(日)、18(土)、19(日)
:筑波大学学生によるギャラリートーク

筑波大学所蔵石井コレクションより、池田龍雄、池田満寿夫、猪熊弦一郎、瑛九ら計16作家による、紙を支持体にした51作品を展示。その技法に焦点をあてる。



1 - 2 常設展示 浜口陽三記念室・萩原英雄記念室

	会期	浜口陽三記念室 展覧会名	萩原英雄記念室 展覧会名
平成13年度(2001)			
1	2002年2月2日(土) - 3月26日(火)	浜口陽三 Vol. I	萩原英雄 Vol. I
平成14年度(2002)			
2	2002年4月1日(月) - 7月2日(火)	浜口陽三 Vol. II	萩原英雄 Vol. II
3	2002年7月4日(水) - 9月24日(火)	浜口陽三 Vol. III	萩原英雄 Vol. III
4	2002年9月26日(木) - 12月24日(火)	浜口陽三 Vol. IV	萩原英雄 Vol. IV
5	2003年1月4日(土) - 3月25日(火)	浜口陽三 Vol. V	年賀状からの旅立ち
平成15年度(2003)			
6	2003年4月1日(火) - 7月29日(火)	浜口陽三の食卓	星のシンフォニー
7	2003年8月4日(月) - 11月25日(火)	原版にみる浜口陽三の技術	20世紀シリーズ - 版画からの告発 -
8	2003年12月1日(月) - 2004年3月28日(日)	浜口陽三メゾチントの軌跡 - 受賞作品を中心に -	萩原英雄 60年代の傑作 - 永遠の命 はばたく魂 -
平成16年度(2004)			
9	2004年4月1日(水) - 7月27日(火)	続・原版にみる浜口陽三の技術	続・萩原英雄 60年代の傑作
10	2004年8月4日(水) - 11月30日(火)	海からのたより	萩原の富士 - 四季折々 -
11	2004年12月7日(火) - 2005年3月27日(日)	50年代 メゾチントへ、 そしてカラーメゾチントへ	萩原版画を楽しむ - その表現の多様性 -
平成17年度(2005)			
12	2005年4月7日(水) - 7月26日(火)	朱色の光明	萩原英雄の抽象 所蔵シリーズ代表総見(壱)
13	2005年8月3日(水) - 11月29日(火)	色彩の宴	萩原英雄の抽象 所蔵シリーズ代表総見(弐)
14	2005年12月7日(水) - 2006年3月28日(火)	メゾチントの手触り	受贈記念 貴婦人シリーズ
平成18年度(2006)			
15	2006年4月5日(水) - 7月25日(火)	平成17年度新収蔵品お披露目	「三十六富士」以後 - 拾遺富士と大富士 -
16	2006年8月1日(火) - 11月28日(火)	原板とともに迎えるメゾチントの足跡	萩原英雄の抽象 国際版画展受賞作品を中心に
17	2006年12月6日(水) - 2007年3月27日(火)	くらしの情景	「追憶」シリーズ勢揃い 平成18年度購入作品お披露目
平成19年度(2007)			
18	2007年4月3日(火) - 7月31日(火)	版画技法の競演	受贈作品お披露目展
19	2007年8月5日(日) - 12月11日(火)	重奏する色彩	受贈作品お披露目展(続)
20	2007年12月16日(日) - 2008年3月25日(火)	黒いシルエットの残像	心の故郷・富士

平成 20 年度(2008)			
21	2008 年 4 月 1 日(㊦)－6 月 11 日(㊦)	浮かぶかたち	画業を辿るⅠ 表現の多様性
22	2008 年 6 月 15 日(㊦)－11 月 2 日(㊦)	絵の“温度”	画業を辿るⅡ 星との語らい (9/25(㊦)－11/2(㊦)は企画展)
23	2008 年 11 月 6 日(㊦)－2009 年 3 月 1 日(㊦)	こぼれ落ちたひと粒と一匹	画業を辿るⅢ サーカスの世界
24	2009 年 3 月 5 日(㊦)－6 月 28 日(㊦)	生誕百年 partⅠ モノクロームからの出発	画業を辿るⅣ お伽の国
平成 21 年度(2009)			
25	2009 年 7 月 2 日(㊦)－11 月 8 日(㊦)	生誕百年 partⅡ カラーメゾチントの成功	萩原英雄のギリシャ神話
26	2009 年 11 月 12 日(㊦)－2010 年 2 月 21 日(㊦)	生誕百年 partⅢ パリからサンフランシスコへ	萩原英雄のイソップ絵噺
27	2010 年 2 月 25 日(㊦)－7 月 4 日(㊦)	心にぎざむ日常	奔放な線 －木版画の新しい表現を求めて－
平成 22 年度(2010)			
28	2010 年 7 月 8 日(㊦)－11 月 7 日(㊦)	注がれた眼差し	星をあおいで －表現された空の広がり－
29	2010 年 11 月 11 日(㊦)－2011 年 2 月 20 日(㊦)	うつろう時間	季節の詩－萩原英雄の四季－
30	2011 年 2 月 24 日(㊦)－6 月 13 日(㊦)	こぼれるモノ	もの想う女たち－描かれた貴婦人－
平成 23 年度(2011)			
31	2011 年 6 月 16 日(㊦)－10 月 10 日(㊦)	わたしらしく描くということ	ようこそ！ふしぎなはながのせかいへ
32	2011 年 10 月 13 日(㊦)－2012 年 2 月 19 日(㊦)	まっすぐな線と円やかなかたち	きこえてくる、響きあう
33	2012 年 2 月 23 日(㊦)－3 月 27 日(㊦) (引き続き 7 月 1 日(㊦)まで予定)	開館 10 周年記念 見つめるちから	－ここ・そこ・どこか－

2 教育普及事業 2-1 ワークショップ

平成 15 年度(2003)

1) 夏休みスケッチ教室 永沢まことの弟子になる!

2003 年 7 月 24 日⊕、29 日⊗ [2 日間]

イラストレーター・永沢まことと夏の井の頭公園にスケッチに行き、展覧会に向けて作品を作る。

講師:永沢まこと(イラストレーター)

対象:武蔵野市内の小中学生 30 名 参加費:3000 円

参加者:25 名

会場:武蔵野公会堂、井の頭自然文化園



平成 17 年度(2005)

2) 春休み! 松露庵で美術体験!“日本画トランク”を開けてみよう

2005 年 3 月 26 日⊕、27 日⊗ [2 日間]

日本の伝統文化を総合的に理解し、親しむ空間のひとつである「茶室」を会場に、茨城県天心記念五浦美術館が企画・制作した“日本画トランク”や、所蔵品の日本画を通して、掛軸や絵巻の鑑賞方法、画材、作品の扱い方などについて学ぶ。

講師:三代博紀(茨城県天心記念五浦美術館学芸員)

秋葉桂(武蔵野市立松露庵)

対象:武蔵野市内の小学 5-6 年生と中学生 15 名 参加費:無料

参加者:8 名

会場:松露庵



3) 秋の一日を“絵本の丘”で! ~スケッチとおはなし~

2005 年 10 月 8 日⊕

企画展「いわむらかずおの世界」にちなみ、豊かな自然の中で作家の話を聞き、動植物を観察しスケッチすることで、自然体験と絵を描く楽しみを知る。

講師:いわむらかずお(絵本作家)

対象:武蔵野市内の小学生と保護者 30 名

参加費:大人 3000 円、子ども 1500 円

参加者:15 組 30 名

会場:いわむらかずお絵本の丘美術館とその周辺



平成 18 年度(2006)

4) 鑑賞教室:絵の中の夏を探しにいこう!

2006 年 6 月 17 日⊕

企画展「美術歳時記:夏によせて」にちなみ、絵の中の「夏らしさ」を探してもらいながら、絵を鑑賞する喜びを知ってもらおう。鑑賞をヒントに夏休みにしたいことを絵に描く。

講師:武田慶子(女子美術大学付属高等学校・中学校美術科教諭)

対象:武蔵野市内在住・在学の小学 2-3 年生 20 名 参加費:無料

参加者:19 名



5) イラストレーター永沢まことの絵を描く講座~吉祥寺の街をスケッチしよう~

2006 年 8 月 8 日⊗、9 日⊗ [2 日間]

企画展「永沢まことのアフリカ! アフリカ! 展」にちなみ、吉祥寺の街中に出てスケッチをしながら、ペン画の面白さを知る。

講師:永沢まこと(イラストレーター)

対象:武蔵野市内の高校生以上 15 名 参加費:1000 円

参加者:14 名

会場:吉祥寺美術館および吉祥寺駅周辺



6) 吉祥寺アーカイブ Vol.1 写真で伝える吉祥寺

2006年10月21日㊥、11月4日㊥ [2日間]

[吉祥寺アーカイブ]

吉祥寺に関する有形無形文化の情報を持つ方を講師によるセミナー等を開催し、ここから培った情報をベースに、参加者それぞれの視線を加えた制作を行うワークショップ。

第1弾は、写真を媒体に吉祥寺の姿を概観。講師の話をもとに街の変遷や街と人と写真の関係について考察しながら、参加者自身の目線で現在の吉祥寺を記録撮影する。

講師：鈴木育男(写真家・らかんスタジオ)、鈴木正義(写真家・カメラのSS)

対象：20名 参加費：1000円

参加者：20名

会場：吉祥寺本町コミュニティセンターおよび周辺

公開セミナー：市民会議室ゼロワンホール



平成19年度(2007)

7) 吉祥寺アーカイブ Vol.2 和菓子

2007年7月1日㊤—15日㊤ [作品募集期間]

吉祥寺アーカイブ第2弾として企画展「味わいの芸術 和菓子」にあわせ、吉祥寺からイメージされる和菓子デザインを一般公募し、地元の和菓子店や製菓学校により選ばれたデザインをもとに、各店が実際に和菓子を作成し販売する。

協力：武蔵野和菓子組合、専門学校二葉製菓学校

製作協力：御菓子司ちとせぎく、吉祥寺虎屋、御菓子司紅梅堂、御菓子司三浦屋

応募総数：286点



8) 吉祥寺アーカイブ Vol.3 吉祥寺でアニメをつくろう

吉祥寺アーカイブ第3弾として企画展「Genius Party 展—吉祥寺発アニメの想像と創造」にあわせ、アニメ・マンガ文化を生み出してきた吉祥寺の街で素材を探しながらオリジナルアニメを制作する。

①クレイアニメの巻 2007年10月8日㊤㊥

粘土で人形を作り、吉祥寺の街を背景に撮影してクレイアニメ作品にする。

講師：坂口寛敏(東京藝術大学絵画科油画研究室教授)

対象：小学5-6年生15名 参加費：1000円

参加者：12名

会場：吉祥寺美術館およびサンロード周辺



②回り灯籠の巻 2007年10月14日㊥

吉祥寺を歩いて街のエッセンスを集めながら大小の回り灯籠を制作。

講師：永岡大輔(アーティスト)

対象：小学3-4年生15名 参加費：1000円

参加者：14名

会場：吉祥寺美術館およびサンロード周辺



9) 自分だけの絵本をつくろう

2008年3月26日㊥

企画展「五味太郎作品展[絵本の時間]」にちなみ、オリジナル絵本づくりを体験。

講師：西村桃代(グラフィックデザイナー)

対象：武蔵野市内の小学生15名 参加費：500円

参加者：14名



平成 20 年度(2008)

10) **蔵書票をつくろう**

2008 年 10 月 4 日⊕、18 日⊕ [全 2 回]

企画展「萩原英雄追悼展-美の遍路-」にちなみ、萩原が手がけた数々の蔵書票を鑑賞後、各自デザインして木版で彫り、蔵書票を制作する。

講師：井上厚(木版画家)

対象：20 名 参加費：2000 円

参加者：18 名



11) **製本ワークショップ**

企画展「原研哉デザイン展『本』」にちなみ、2 つのテーマで製本のしぐみを学ぶ。

講師：上島真一(美篤堂)

対象：各回 20 名 参加費：各回 2000 円

① **文庫本製本** 2008 年 10 月 10 日⊕

お気に入りの文庫本を布にくるんで上製本に仕立てる。

参加者：20 名

② **角背上製本** 2008 年 10 月 24 日⊕、12 月 13 日⊕(追加開催)

ハードカバーのノートを制作。

参加者：18 名



12) **メゾチントに挑戦!**

2009 年 2 月 7 日⊕、21 日⊕ [2 日間]

常設の浜口陽三記念室に関連した銅版画ワークショップとして、目立て済みのメゾチントプレートを用いて小品の制作を行い、黒い背景に浮かぶ豊かな明暗濃淡が特徴的なメゾチント技法を体験する。

講師：光平伴治(銅版画家、イタリア・トスカーナ州公認版画家)

対象：15 名 参加費：2000 円

参加者：15 名



平成 21 年度(2009)

13) **おやこでちょうせん! バードステンシル**

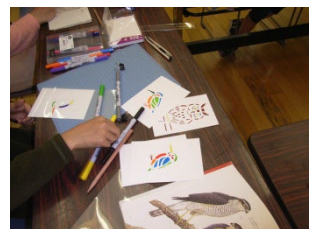
2009 年 5 月 5 日(火)Ⓜ

企画展「動物画の奇才・薮内正幸の世界展」にちなみ、親子で鳥の形のステンシル型をつくり、様々な色合いの鳥を描く。

講師：神戸宇孝(アーティスト)

対象：小学 4 年生以上の児童とその保護者 15 組 30 名 参加費：300 円

参加者：9 組 18 名



14) **フランスの布でつくる カルトナーージュの写真立て**

2009 年 6 月 6 日⊕

企画展「旅へ。所蔵品でめぐる異国の風景」にちなみ、厚紙に布や紙を貼りあわせて収納ボックスなどをデコレーションするフランスの伝統工芸カルトナーージュの技法を使い、二つ折りの写真立てを制作。

講師：河野佳代子(atelier des lilas 主宰・カルトナーージュ作家)

対象：15 名 参加費：2000 円

参加者：14 名



15) ひみつの国をつくろう！スノードームの中の小さな世界

2009年6月20日㊥

企画展「旅へ。所蔵品でめぐる異国の風景」にちなみ、ガラスドームの中にミニチュアの人物や街並みをとじこめるスノードームの中にオリジナルの絵や小物を入れて、自分だけの小さな秘密の国をつくる。

講師：石山暁子(日本スノードーム協会認定講師)

対象：小学生20名 参加費：1000円

参加者：19名



16) メゾチントに挑戦！

2009年6月24日㊤(第12回ワークショップ落選者対象追加開催)

常設の浜口陽三記念室に関連した銅版画ワークショップとして、目立て済みのメゾチントプレートを用いて小品の制作を行い、黒い背景に浮かぶ豊かな明暗濃淡が特徴的なメゾチント技法を体験する。

講師：光平伴治(銅版画家、イタリア・トスカーナ州公認版画家)

対象：15名 参加費：2000円

参加者：15名



17) 日本画入門・画材のひみつ

2009年8月29日㊥

企画展「上村淳之展-喉禽を描く-」にちなみ、茨城県天心記念五浦美術館が企画・制作した日本画鑑賞や講座のための教材“日本画トランク”をつかって、画材の秘密を探る。

講師：松原みな子(日本画家・アートコミュニケーター)

対象：中学生以上20名 参加費：1000円

参加者：21名



18) 木版で蔵書票を作ろう！

2009年10月11日㊤、10月25日㊤ [2日間]

常設の萩原英雄記念室に関連して、本の所有者を示すための蔵書票を木版で制作する。

講師：井上厚(木版画家)

対象：20名 参加費：2000円

参加者：10名



19) 額装のススメ

2009年10月23日㊤

企画展「写真と民俗学 内藤正敏の『めぐるめく東北』」にちなみ、大切な写真のために額装の基本ならびに作品保存の意義について学び、長期保存に最適な8×11インチのブックマット装を制作する。

講師：フォトギャラリー・インターナショナル

対象：写真作品の発表や保存に興味のある方15名 参加費：3000円

参加者：13名



20) メゾチントに挑戦！

2010年2月6日㊥

常設の浜口陽三記念室に関連した銅版画ワークショップとして、目立て済みのメゾチントプレートを用いて小品の制作を行い、黒い背景に浮かぶ豊かな明暗濃淡が特徴的なメゾチント技法を体験する。

講師：光平伴治(銅版画家、イタリア・トスカーナ州公認版画家)

対象：15名 参加費：2000円

参加者：16名



21) ドライポイントに挑戦!

2010年2月11日(木)祝

常設の浜口陽三記念室に関連した銅版画の体験ワークショップとして、ルーレットやベルソーなどの道具を併用して様々な描線が楽しめるドライポイントの小品を制作する。

講師:作田富幸(銅版画家・東京藝術大学非常勤講師)

対象:15名 参加費:2000円

参加者:16名



平成22年度(2010)

22) 和の手仕事—和紙のあかりを作ろう

2010年5月5日(水)祝

企画展「カガヤクシゴト 棟方志功展」にちなみ、棟方志功の故郷青森のねぶたを思わせる幻想的な和紙の明かりを作る。

講師:吉岡紳行(和紙の照明作家)

対象:小学生以上20名 参加費:1500円

参加者:22名



23) みんなで描こう! 大きな絵

2010年6月12日(土)

企画展「小島鼎子展 青龍社とともに歩んだ女性画家」にちなみ、墨や日本画の画材などを使い参加者全員で大きな絵を制作。

講師:松原みな子(日本画家・アートコミュニケーター)

対象:小学生以上20名 参加費:1000円

参加者:10名



24) ちょうちよのゆらゆらモビールをつくろう

2010年8月28日(土)

企画展「知ることは愛すること 田淵行男写真展」にちなみ、切り紙でちょうちよのモビールを作る。アレンジしていろいろな形を作ることも。

講師:むらかみひとみ(絵本作家・イラストレーター)

参加費:1000円

①親子の部 対象:幼児と保護者10組20名 参加者:6組12名

②小学生の部 対象:小学生20名 参加者:8名



25) メゾチントに挑戦!

常設の浜口陽三記念室に関連した銅版画ワークショップとして、目立て済みのメゾチントプレートを用いて小品の制作を行い、黒い背景に浮かぶ豊かな明暗濃淡が特徴的なメゾチント技法を体験する。

講師:光平伴治(銅版画家、イタリア・トスカナ州公認版画家)

対象:各コース15名 参加費:2000円

①集中コース 2010年10月30日(土) 参加者:13名

②じっくりコース 2010年11月5日(金)、12日(金) [2日間] 参加者:13名



26) 岩井俊雄 親子向けイベント・ワークショップ

企画展「『100かいだてのいえ』のひみつ 岩井俊雄が子どもたちと作る絵本と遊びの世界展」にちなみ、「いわいさんち」で実際に行われている遊びを親子で楽しむ。

講師:岩井俊雄(メディアアーティスト)

①親子で楽しもう! 『100かいだてのいえ』といわいさんちのあそび

2011年1月15日(土)、2月11日(金)祝

対象:各回小学生以下の子どもと保護者各回20組 参加費:1組500円

参加者:20組/20名



②動かして楽しい紙のおもちゃ「リベットくん」を作ろう!

2011年1月29日⊕、2月13日⊕

対象:5歳-小学生と保護者各回15組 参加費:1組500円

参加者:15組/13組



27) 見る・知る・作る 初めての版画体験 アクアチント銅版画

2011年2月19日⊕

常設記念室に関連した版画の体験ワークショップ。制作を通して版画への理解を深める。

講師:光平伴治(銅版画家・イタリア・トスカーナ州公認版画家)

対象:中学生以上15名 参加費:3000円

参加者:14名



28) 見る・知る・作る 初めての版画体験 スチレンはんが

2011年3月20日⊕

常設記念室に関連した版画の体験ワークショップ。制作を通して版画への理解を深める。

講師:むらかみひとみ(絵本作家・イラストレーター)

対象:12歳以下15名、保護者同伴可 参加費:500円

参加者:14名



29) 見る・知る・作る 初めての版画体験 木版画

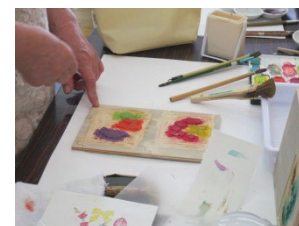
2011年3月5日⊕、19日⊕ [2日間]

常設記念室に関連した版画の体験ワークショップ。制作を通して版画への理解を深める。

講師:井上厚(木版画家)

対象:中学生以上15名 参加費:2000円

参加者:17名



平成23年度(2011)

30) 紋切り遊びで日本の文様をつくろう

2011年4月30日⊕

企画展「あそぶ色・うたう線 山喜多二郎太展」にちなみ、紋切り遊びを楽しみながら日本や中国の文様を知る。

講師:下中菜穂(造形作家)

対象:20名(幼児は保護者同伴) 参加費:1000円

参加者:14名



31) パラパラ漫画をらくがきしよう!

2011年8月6日⊕

企画展「古川タク展『あそびココロ』『1本の線から』」にちなみ、持参した本やノートにパラパラ漫画を描き、撮影してアニメーションにする。

講師:古川タク(アニメーター・イラストレーター)

対象:小学生以上の子どもと保護者15組 参加費:500円

参加者:17組



32) 版画体験 リノカット版画

2011年9月10日⊕

企画展「生誕100年 南桂子展 時をこえて刻まれた想い・まなざし」にちなみ、珍しい版画技法を体験。第1弾は、やわらかくて彫りやすいリノウム材を使用する凸版のリノカット版画。

講師:むらかみひとみ(版画家・絵本作家)

対象:15歳以上12名 参加費:2000円

参加者:9名



33) **版画体験 ソフトグラウンドエッチング**

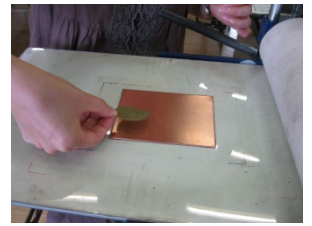
2011年9月17日⊕

企画展「生誕100年 南桂子展 時をこえて刻まれた想い・まなざし」にちなみ、珍しい版画技法を体験。第2弾は、鉛筆で描いたとおりの版ができ、布や葉などのかたちをそのまま写し取れる銅版画技法のソフトグラウンドエッチング。

講師：光平伴治（銅版画家、イタリア・トスカーナ州公認版画家）

対象：15歳以上10名 参加費：2000円

参加者：15名



34) **コラージュで作品を作ってみよう！**

企画展「池田満寿夫美術館所蔵 池田満寿夫展 組み合わせられたイメージのなかへ」にちなみ、印刷物や写真を切って貼り合わせるコラージュで作品を制作する。

講師：池谷直之（画家）

参加費：一人500円

①大人の部 2011年11月19日⊕ 対象：15名 参加者：10名

②親子の部 2011年11月26日⊕

対象：小学生以上の子どもと保護者8組16名 参加者：5組10名



35) **木版画講座・年賀状をつくろう**

2011年12月10日⊕、12月17日⊕ [2日間]

常設の萩原英雄記念室に関連して、本格的な木版画で年賀状を制作する。

講師：井上厚（木版画家）

対象：15名 参加費：2000円

参加者：16名



36) **クリスマスとくべつワークショップ ふわふわオーナメントを作ろう**

2011年12月23日⊕祝

クリスマスに活用できる、きりえプリントを施したピンクッションのようなふわふわオーナメントを作る。

講師：平澤まりこ（イラストレーター）

対象：小学生以上20名 参加費：1000円

参加者：8名



37) **影をつかまえるーフォトグラムってなんだろう？**

2012年1月21日⊕

企画展「紙上の技法学 筑波大学所蔵石井コレクション」にちなみ、カメラや暗室がなくても影を焼き付けて写真に残すことができるフォトグラムを体験する。

講師：浅見俊哉（美術作家）

対象：小学生以上15名 参加費：1000円

参加者：9名



38) **リトグラフをやってみよう！**

2012年2月4日⊕、11日⊕ [2日間]

企画展「紙上の技法学 筑波大学所蔵石井コレクション」にちなみ、水と油の反発作用を応用したリトグラフを体験。

講師：楚山俊雄（版画家）

対象：15名 参加費：2000円

参加者：11名



2 - 2 学校との連携

	実施日	対象	内容
平成 15 年度(2003)			
1	2004 年 1 月 14 日㊦	武蔵野市立第五小学校 6 年生 計 64 名	ゲストティーチャーとして学芸員派遣 「どっちのアートショー」
2	2004 年 10 月	武蔵野市立第一小学校 6 年生 計 81 名	鑑賞授業受入 自由鑑賞
平成 18 年度(2006)			
3	2007 年 1 月 23 日㊦	武蔵野市立第一小学校 5 年生 計 52 名	鑑賞授業受入 ワークシートを使用しての鑑賞
平成 19 年度(2007)			
4	2007 年 6 月 29 日㊦	武蔵野市立本宿小学校 6 年生 計 50 名	鑑賞授業受入「作品を見て考えよう/キャッチコピーを考えよう」
5	2008 年 1 月 22 日㊦	武蔵野市立第一小学校 5 年生 計 65 名	鑑賞授業受入「なりきり絵日記を描こう」
平成 20 年度(2008)			
6	2008 年 4 月 24 日㊦ 4 月 25 日㊦ 4 月 30 日㊦ 5 月 7 日㊦ 6 月 4 日㊦	武蔵野市立本宿小学校 1-6 年生 計約 250 名	鑑賞授業受入「ごみたろうさんの肖像」
	7		
8	2009 年 2 月 24 日㊦	武蔵野市第一小学校 5 年生 計 69 名	鑑賞授業受入 鑑賞カードを使って自由鑑賞
平成 21 年度(2009)			
9	2009 年 6 月 22 日㊦ 6 月 24 日㊦	武蔵野市立第二小学校 3 年生 計 62 名	事前授業への学芸員派遣 鑑賞授業受入「ねえねえ気づいた？ぼくのわたしの特ダネ」
	10		
平成 22 年度(2010)			
11	2010 年 12 月 15 日㊦ 12 月 16 日㊦	武蔵野市立本宿小学校 3 年生 計 50 名	事前授業への学芸員派遣 鑑賞授業受入「みつけたよ『あ・い・う・え・お』」 鑑賞授業受入「みつけたよ！いわいさんとわたしの 100 かいだてのいえのひみつ」
	12		
13	2011 年 1 月 25 日㊦ 2 月 15 日㊦	武蔵野市立第二小学校 3 年生 計 80 名	事前授業への学芸員派遣 鑑賞授業受入 学芸員・作家によるギャラリートーク
	14		
15	2011 年 2 月 3 日㊦-20 日 ㊦	市内公立小学校	企画展関連展示「みんなの100かいだてのいえを描こう！武蔵野市の子どもたち編」 展示:コピス吉祥寺 4 階連絡通路 参加:第二小、第三小、第四小、第五小、大野田小、境南小、千川小、桜野小

16	2011年3月	武蔵野市立桜野小学校 3年生	授業教材提供「絵はがき美術館」
平成23年度(2011)			
17	2011年9月20日㊦	武蔵野市立第二小学校 6年生 計97名	鑑賞授業受入「作品からの声に耳をすまそう」
18	2011年10月5日㊦ 10月7日㊧	武蔵野市立第三小学校 3年生 計76名	鑑賞授業受入「吉祥寺美術館へGO」
19	2011年9月26日㊦ 10月7日㊧	武蔵野市立第一小学校 6年生 計52名	事前授業への学芸員派遣 鑑賞授業受入「吉祥寺美術館へ行こう」
20	2011年11月	武蔵野市立桜野小学校 3年生	授業教材提供「自分の好きな一枚をえらぼう」
21	2012年1月26日㊦ 1月27日㊧	武蔵野市立第二小学校 3年生 計61名	事前授業への学芸員派遣 鑑賞授業受入「かざってみたいな、こんな絵」



2009年6月24日㊦
武蔵野市立第二小学校



2011年1月19日㊦
武蔵野市立本宿小学校



2011年10月7日㊧
武蔵野市立第一小学校

3 武蔵野市美術大賞展

<開催概要>

会期:2004年11月11日(㊥)~30日(㊦)

時間:午前10時~午後5時(水曜休館) 入場無料

会場:武蔵野市民文化会館 展示室

〒180-0006 武蔵野市中町3-9-11

主催:武蔵野市

財団法人武蔵野文化事業団/武蔵野市立吉祥寺美術館

後援:杉並区/練馬区/小金井市/西東京市

協力:三鷹市

審査員:清水 敏男(インデペンデントキュレーター)

山村 仁志(府中市美術館 学芸員)

横山 秀樹(新潟県立万代島美術館 館長)

賞 :大賞 1点 100万円 ※大賞受賞作品は、市に帰属します。

準大賞 2点 30万円

佳作賞 5点 5万円

<審査結果/開催状況>

応募総数:287点

審査点数:270点(未搬入17点)

入選:50点(受賞作品8点を含む)

大賞:

「木洩日」キャンバスに白亜地、方解末、木炭、テンペラ / 岡田浩志(武蔵野市)

準大賞:

「AM5:45」キャンバス、油彩 / 廣部雅己(三鷹市)

「BALANCE」ゼラチンシルバープリント / 増川寿一(武蔵野市)

佳作賞:

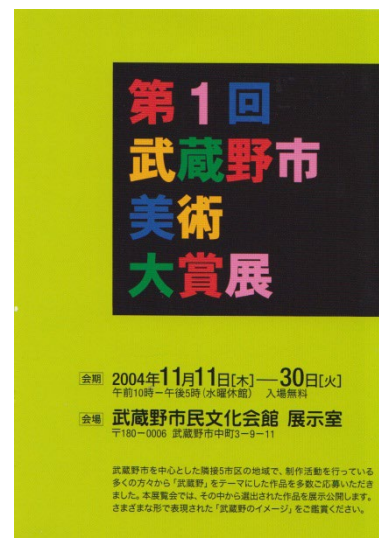
「鳥たちのつどうけやきの木」キャンバス、油彩 / 川田美緒(武蔵野市)

「rain」アルシュ紙にトグラフ / 武田慶子(小金井市)

「ムサシノ散歩」パネルにスタイロフォーム、綿布、紙、石膏、珪藻土、アクリル絵具 / 山高徹(杉並区)

「豊かな時間」パネル、モルタル、顔料、アクリル、麻布 / 岡田佐知子(三鷹市)

「天水茂根落葉」紙 / ビシバシキオ(練馬区)



〈応募要項〉

応募資格：武蔵野市および隣接する杉並区、練馬区、三鷹市、小金井市、西東京市に在住、在勤、在学する方

テーマ：「武蔵野」

出品点数：一人1点

作品規格等：絵画、版画、写真等。但し、書は除きます。

170×170cm 以内(額装を含む)

未発表の作品に限ります。

作品には額、紐などをつけて、必ず壁面に展示可能な状態にして応募してください。

また、額にはガラス(アクリル可)を入れないでください。

なお、当館で展示不可能と判断した場合には、応募をお断りすることもあります。

出品料：3000 円

申込期間：2004 年 9 月 1 日㊦～9 月 30 日㊦

申込方法：

申込用紙の出品申込書、作品票、受付票、審査結果通知票に必要事項を記入(はがき面には50円切手を貼ってください)の上、美術館内事務局へ持参し出品料を納めてください。

事務局より受付票、作品票を発行します。受付後の出品料の払戻はいかなる場合でもいたしません。

また、応募資料は返却できませんのでご了承ください。

搬入：2004 年 10 月 30 日㊧、31 日㊧ 午前 10 時～午後 4 時 30 分

場所＝武蔵野市民文化会館 展示室

搬出：〈選外〉 2004 年 11 月 6 日㊧、7 日㊧ 午前 10 時～午後 4 時 30 分

〈入選〉 2004 年 12 月 3 日㊨、4 日㊨ 午前 10 時～午後 4 時 30 分

場所＝武蔵野市民文化会館 展示室

審査結果：通知表を本人に郵送します。

表彰：2004 年 11 月 13 日㊩ 午前 10 時

その他：搬入出にかかる経費は、出品者の負担になります。

作品の保全については万全を期して取り扱いますが、万一破損した場合は主催者は一切責任を負いません。

必要な場合は保険をかけてください。

応募要項に違反していることが審査発表後明らかになった場合や、その他の問題が生じた場合は入選、受賞を取消します。

作品写真の著作権は主催者に帰属します。

2012－2021

目次

1 展覧会事業	
1-1 企画展示 企画展示室ほか	40
1-2 常設展示 浜口陽三記念室・萩原英雄記念室	63
2 教育普及事業	
2-1 ワークショップ	65
2-2 地域との連携	77
—	
3 刊行物	78
4 市民ギャラリー	80
—	
5 入館者数	81
6 武蔵野市所蔵作品概要	82
7 施設概要	83
8 組織	
8-1 指定管理者	85
8-2 外部委員会	86

1 展覧会事業

1-1 企画展示 企画展示室

回	会期	展覧会名
平成24年度(2012)		
60	2012年4月1日㊥-5月13日㊥	石川梵写真展 THE DAYS AFTER 東日本大震災の記憶
61	2012年5月19日㊥-7月1日㊥	追悼・一原有徳展 ヒラケゴマ
62	2012年7月28日㊥-9月9日㊥	モジもじ文字
63	2012年9月15日㊥-11月4日㊥	深沢紅子展 野の花によせて
64	2012年12月8日㊥-2月17日㊥	中ザワヒデキ展 脳で視るアート
平成25年度(2013)		
65	2013年4月6日㊥-6月23日㊥	佐々木マキ見本帖
66	7月27日㊥-9月8日㊥	佐藤真生展 家__HOME__
67	9月14日㊥-10月20日㊥	宇野信哉展 よみがえる江戸の情景
68	11月23日㊥-12月27日㊥	森山大道 モノクローム
69	2014年1月11日㊥-2月23日㊥	生誕100年 萩原英雄展 天から与えられた僕の仕事
平成26年度(2014)		
70	2014年4月5日㊥-5月11日㊥	鹿沼市立川上澄生美術館所蔵 川上澄生 愉しきノスタルジア
71	5月17日㊥-6月29日㊥	われわれは〈リアル〉である 1920s-1950s
72	8月2日㊥-9月15日㊥祝	加藤まさをの乙女デザイン展
73	9月20日㊥-11月3日㊥祝	火の粉は風に舞い上がる 村越としや写真展
74	2015年1月10日㊥-2月22日㊥	吉祥寺のモダニスト 小畠辰之助
平成27年度(2015)		
75	2015年4月4日㊥-5月17日㊥	小林路子の菌類画 きのこと・イロ・イロ
76	5月23日㊥-6月28日㊥	長倉洋海写真展 その先の世界へ
77	8月1日㊥-8月30日㊥	永沢まこと都市画展
78	9月5日㊥-10月18日㊥	生誕200年記念 伊豆の長八―幕末・明治の空前の鋳絵師
79	11月21日㊥-12月27日㊥	生誕110年記念 三岸節子展―私は燃えつづける
80	2016年1月16日㊥-2月28日㊥	カンバセーション__ピース かたちを(た)もたない記録

平成 28 年度(2016)		
81	2016 年 4 月 9 日(土)ー5 月 29 日(日)	萩尾望都 SF 原画展
82	6 月 4 日(土)ー7 月 18 日(月祝)	佐伯和子展 糸の葉 ～一万五千枚の糸の葉が語りかける～
83	8 月 13 日(土)ー9 月 25 日(日)	生誕120年記念 小林かいち展
84	10 月 1 日(土)ー11 月 13 日(日)	デビュー20 周年記念 どいかや展 チリとチリ
85	2017 年 1 月 14 日(土)ー2 月 26 日(日)	青龍社の女性画家 小島鼎子
平成 29 年度(2017)		
86	2017 年 4 月 8 日(土)ー5 月 28 日(日)	北村周一 フラッグ《フェンスぎりぎり》一歩手前
*	7 月 7 日(金)ー7 月 10 日(日)	武蔵野アール・ブリュット 2017 ヒトが表現するということ
87	7 月 15 日(土)ー8 月 27 日(日)	夏だ！だるまだ！まねきねこだ！！ 高島那生のなつやすみ展
88	9 月 9 日(日)ー10 月 15 日(日)	コンサベーション_ピース ここからむこうへ part A 青野文昭展 part B はな子のいる風景
89	11 月 11 日(土)ー12 月 24 日(日)	武蔵野市市制施行 70 周年記念・井の頭恩賜公園開園 100 周年記念 見えた風景、見える風景
90	2018 年 1 月 13 日(日)ー2 月 25 日(日)	中澤弘光 明治末～大正<出版の美術>とスケッチ
平成 30 年度(2018)		
91	2018 年 4 月 7 日(土)ー5 月 20 日(日)	福田利之展 吉祥寺の森
92	5 月 26 日(土)ー7 月 8 日(日)	江上茂雄：風景日記 diary/dialogue with landscapes
*	7 月 20 日(金)ー7 月 23 日(日)	武蔵野アール・ブリュット 2018 「描かずには／創らずにはいられない」ストーリーに迫る
93	8 月 11 日(土)ー9 月 23 日(日)	没後 30 年・小貫政之助 語りえぬ言葉
94	9 月 29 日(土)ー11 月 11 日(日)	心をつなぐあたたかな色 柿本幸造の絵本の世界
95	2019 年 1 月 12 日(土)ー2 月 24 日(日)	岩本拓郎 すべてのいろとかたち
平成 31 / 令和元年度(2019)		
96	2019 年 4 月 6 日(土)ー6 月 9 日(日)	移ろう季節を感じて ー所蔵作品よりー
*	7 月 5 日(金)ー7 月 8 日(日)	武蔵野アール・ブリュット2019 【こだわり】ー
97	7 月 20 日(土)ー9 月 8 日(日)	小島廣志 木に呼ばれる
98	9 月 21 日(土)ー11 月 10 日(日)	きくちちき絵本展 しろとくろ
99	2020 年 1 月 11 日(土)ー2 月 23 日(日)	千田泰広ーイメージからの解放ー

令和 2 年度(2020)

100	2020年4月11日(土)～6月7日(日) (新型コロナウイルス感染症拡大防止により3月2日から5月31日まで臨時閉館)	土田圭介 鉛筆画展 心の旅
*	* (新型コロナウイルス感染症の影響により展示を中止し、フェイスブックでの作品紹介)	武蔵野アール・ブリュット 2020 「武蔵野アール・ブリュット 2020 ヒトが表現するということ、再び」
101	8月8日(土)～9月22日(火・祝)	岡田紅陽 富士望景—武蔵野から
102	10月31日(土)～12月13日(日)	所蔵作品特別展示 たいせつなじかん
*	11月26日(土)～12月13日(日)	武蔵野市立吉祥寺美術館と彦坂木版工房の子ども向け動画ワークショップ 「おいしいぶどう すっぱいレモン」 よーくみてから、かいてみよう！応募作品展示
103	2021年1月9日(土)～2月28日(日)	阪本トクロウ デイリーライブス
令和3年度(2021)		
104	2021年4月10日(土)～5月30日(日) (新型コロナウイルス感染症拡大防止により4月25日から臨時閉館のまま会期終了)	谷充央 風景の表／裏
*	7月17日(土)～7月21日(水)	武蔵野アール・ブリュット 2021【みる つくる つながる】
*	7月31日(土)～8月11日(水)	ムサシノサウルス大集合！黒川みつひろといっしょに作る展覧会
105	8月21日(土)～10月3日(日)	はしもとみお 木彫展 いきものたちの交差点
106	10月16日(土)～11月28日(日)	武蔵野市平和の日条例制定10周年記念事業 大石芳野写真展 瞳の奥に一戦争がある—
107	2022年1月9日(土)～2月28日(日)	土田圭介 鉛筆画展 心の灯り
*	3月3日(水)～3月29日(火)	ガオー！ムサシノジュラシク～小池アミイゴと子どもたちのコラボ展

■第60回

石川梵 写真展 THE DAYS AFTER 東日本大震災の記憶

2012年4月1日(日)～2月19日(日)

開催日数:42日間

入場者数:7,410人[平均176人/日]

4/14(土):講演会「震災から1年—子ども達からのメッセージ」
石川梵(フォトジャーナリスト)



フォトジャーナリスト・石川梵が2011年3月11日の東日本大震災直後の岩手・宮城・福島に取材した写真集『THE DAYS AFTER 東日本大震災の記憶』(飛鳥新社)収録の写真を中心に、本展開催直前までに撮影された被災地の1年後も含めた写真を紹介。

■第61回

追悼・一原有徳展 ヒラケゴマ

2012年5月19日(土)～7月1日(日)

開催日数:42日間

入場者数:2,201人[平均52人/日]

5/26(土):演奏会「ジッケンセイサク×ソッキョウエンソウ」
重松壮一郎(作曲家・ピアニスト)

北海道小樽市で制作活動を続けた一原有徳[1910～2010]は既存の版画の枠を超えた独創的な作品で評価された。武蔵野市の所蔵作品より、故人を追悼し、その画業をたどった。



■第 62 回

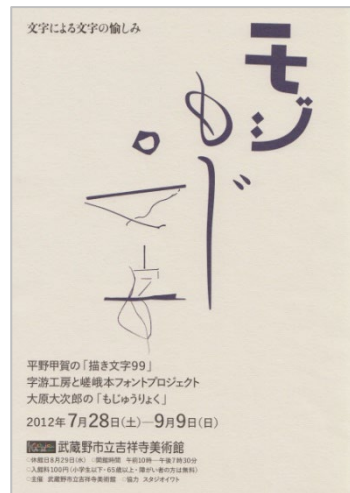
モジもじ文字

2012年7月28日①—9月9日②
開催日数:43日間
入場者数:6,084人[平均141人/日]

協力:スタジオイフト

- 8/4④:大原大次郎の「もじゅうりよく屋台」 大原大次郎(グラフィックデザイナー)
- 8/11④:トークショー「嵯峨本フォントプロジェクト」
鳥海修(書体設計士)、永原康史(グラフィックデザイナー、多摩美術大学教授)
- 9/7⑤:ミニライブ「僕は描く、晴さんは歌う」
平野甲賀(グラフィックデザイナー)、斎藤晴彦(俳優)、平岩佐和子(ピアニスト)

平野甲賀の「描き文字 99」、鳥海修の「字游工房と嵯峨本フォントプロジェクト」、大原大次郎の「もじゅうりよく」と題し、文字を使った個性的なデザインを展開しているデザイナーたちの試みを紹介。



■第 63 回

深沢紅子展 野の花によせて

2012年9月15日①—11月4日②
開催日数:49日間
入場者数:8,429人[平均172人/日]

協力:深沢紅子野の花美術館・軽井沢

- 9/20④:対談「深沢紅子を語る」
深沢龍一(深沢紅子長男)、大藤敏行(深沢紅子野の花美術館・軽井沢館長)

生涯を通して花と女性像を中心に制作を行った深沢紅子[1903-1993]。晩年の野の花の水彩画を中心に展示し、戦前吉祥寺に住んだこの画家を紹介。



■第 64 回

中ザワヒデキ展 脳で見るアート

2012年12月8日①—2013年2月17日②
開催日数:62日間
入場者数:7,533人[平均122人/日]

協力:ギャラリーセラー、府中市美術館

- 12/8④:中ザワヒデキ音楽作品コンサート
ピアノ:高橋悠治、声:sei(from ju sei)、河野円、田中淳一郎
- 1/26④:対談「《脳波ドローイング》の生まれた日」
中ザワヒデキ、神山亮子(府中市美術館学芸員)
- 12/8④:対談「中ザワヒデキの美術」
中ザワヒデキ、石井香絵(早稲田大学博士課程)
- 1/20⑤、2/10⑤:作家による新作設置

脳の知覚作用や視覚生理を切り口とした作品をピックアップし、中ザワヒデキが追求する方法理論に裏打ちされた、独自の現代アートの世界を紹介。



■第 65 回

佐々木マキ見本帖

2013年4月6日㊥—6月23日㊤
前期:4月6日㊥—5月15日㊤ 後期:5月18日㊥—6月23日㊤
開催日数:75日間
入場者数:14,083人[平均 188人/日]

協力:こどもの本 WAVE、絵本館、太田出版、金正陶器、教育画
小学館、株式会社 PHP 研究所、福音館書店、フレーベル館
企画協力:メディアリンクス・ジャパン

- 5/3㊥㊤:座談会「佐々木マキの絵本」
穂積保(メディアリンクス・ジャパン、こどもの本WAVE代表)、有川裕俊(絵本館)
土井章史(トムズボックス)、小原央明(元太田出版)、清田久美子(教育画劇)
- 5/18㊥:佐々木マキサイン会
- 6/8㊥:講演会「佐々木マキのマンガ」 夏目房之介(マンガコラムニスト)
- 4/6㊥、5/19㊤:ギャラリートーク 穂積保(メディアリンクス・ジャパン)

マンガ家・イラストレーター・絵本作家として活躍する佐々木マキ(1946-)の約45年間の多岐にわたる創作活動を振り返る。マンガや絵本原画のほか、挿絵や装丁画、版画、写真など約200点を前後期にわけて展示。



■第 66 回

佐藤真生展 家 HOME

2013年7月27日㊥—9月8日㊤
開催日数:42日間
入場者数:4,156人[平均99人/日]
後援:酒田市、酒田市教育委員会

- 7/31㊥:音楽ライブ「絵画の中の音楽・会」
歌:白崎映美(ボーカル)、伴奏:佐藤芳明(アコーディオン奏者)
- 8/10㊥:対談「佐藤真生ってだれ?~北川一成ってだれ?~」
佐藤真生(作家)、北川一成(グラフ株式会社代表取締役)
- 8/24㊥:親子ワークショップ「土人形絵付け体験」 講師:佐藤真生(作家)

山形県酒田市出身の画家・佐藤真生は、故郷から得た心象風景を再構築する独自の作風で国内のみならず国外からの評価も高い。今回は平面作品の他に、立体、映像、オブジェ、執筆などその幅広い制作活動を紹介。



■第 67 回

宇野信哉展 よみがえる江戸の情景

2013年9月14日㊥—10月20日㊤
開催日数:36日間
入場者数:4,165人[平均116人/日]

- 9/14㊥:ワークショップ「型染で栞づくり」 講師:岸本花弥子(みはに工房)
- 9/23㊤㊤、28㊥:ワークショップ「足袋づくり教室」
講師:藤山美紀子、藤山墳頭(着物・和雑貨・リメイク
『ワモノヤトウキョウジョウ』主宰)

時代小説を中心に挿画や装丁画を手がける宇野信哉。徹底的に研究したにじみの技を駆使し築き上げた画風と、小説の原稿を読み最も印象に残った場面を絵にしているその周到な制作スタイルにより、多くの歴史小説家に認められる。その確かな仕事ぶりを、原画400点あまりの展示で紹介。



■第 68 回

森山大道 モノクローム

2013 年 11 月 23 日①—12 月 27 日⑤

開催日数:33 日間

入場者数:7,218 人[平均 219 人/日]

協力:一般財団法人森山大道写真財団

12/7①:対談「モノクロームの魅力」

森山大道(写真家)、神林豊(編集者)

日本を代表する写真家であり、世界的にもその名を知られる森山大道。素粒子の質感や手ブレ感覚が効果を発揮した「アレ・ブレ・ボケ」の斬新な表現は、60 年代の写真界に大きなインパクトを与えた。2008 年から 2012 年に撮影されたシリーズ「モノクローム」からのセレクトを中心に、森山独特の切り口と強烈なコントラストの織り成す世界を紹介。



■第 69 回

生誕 100 年 萩原英雄展 天から与えられた僕の仕事

2014 年 1 月 11 日①—2 月 23 日⑤

開催日数: 43 日間

入場者数: 4,181 人[平均 97 人/日]

1/10⑤: オープニングレセプション・内覧会

1/26①、2/23①: 木版画ワークショップ「部屋を飾る木版画」

講師:井上厚(版画家)

武蔵野市には現在、木版画を中心に約 600 点にのぼる萩原英雄作品が収蔵されており、常設の記念室で随時紹介している。生誕 100 年を機に開催された本展は、ご遺族ならびに関係各位のご協力のもと、木版画にとどまらず多角的に萩原英雄作品を紹介し、その幅広い画業を辿った。



■第 70 回

鹿沼市立川上澄生美術館所蔵 川上澄生 愉しきノスタルジア

2014 年 4 月 5 日①—5 月 11 日⑤

開催日数:36 日間

入場者数:6,117 人[平均 170 人/日]

協力:鹿沼市立川上澄生美術館

4/26①:講演会「川上澄生の遊びどころ 展示作品を中心に」

原田敏行(鹿沼市立川上澄生美術館学芸員)

5/4⑤:ワークショップ 大人の部「小さな木版で作る紙小物」

講師:二宮美由紀(木版画家)

5/5⑤:ワークショップ 親子の部「彫らないから怖くない! ペタペタ木版画に挑戦!」

講師:二宮美由紀(木版画家)

横浜生まれ東京育ちの版画家・川上澄生(1895-1972)。木版らしい素朴な彫り口と川上らしい潔い着彩は、独特の異国情緒を醸すと同時に、古き良き時代の日本を懐古させる。鹿沼市立川上澄生美術館の充実したコレクションにより、川上の画業を辿りながらその魅力を紹介。



■第71回

われわれは〈リアル〉である 1920s-1950s

2014年5月17日①-6月29日②

開催日数:42日間

入場者数:4,073人[平均97人/日]

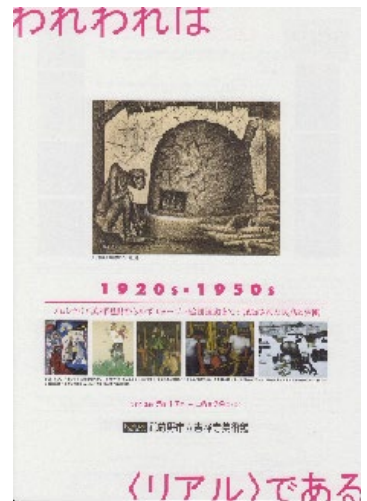
5/24①:パネルトーク「民衆的〈リアル〉 美術×漫画×文学×思想」

パネリスト:池上善彦(元『現代思想』編集長)、鳥羽耕史(早稲田大学文学学術院教授)、片倉義夫(漫画資料室MORI)、足立元(美術史家)

6/14①:映像ワークショップ「吉祥寺の〈今〉を記録しよう! remoscope workshop in 吉祥寺」

講師:remo[NPO 法人 記録と表現とメディアのための組織]

1920年代から50年代までの戦前のプロレタリア美術運動、戦争美術、戦後のルポタージュ絵画運動と呼ばれる動きをたどり、その時なぜ民衆が描かれたのか、なぜ〈リアル〉が目指されたのかを問うことにより、美術が社会に求められた役割、関係性についてあらためて考えるきっかけとした。同時に、過去を振り返りながら、鑑賞者各人に直結する〈リアル〉を再発見する場とした。



■第72回

加藤まさをの乙女デザイン展

2014年8月2日①-9月15日②③

開催日数:44日間

入場者数:7,100人[平均 161人/日]

協力:藤枝市郷土博物館・文学館、伊香保 保科美術館、高島華宵大正ロマン館、株式会社国書刊行会、大正・乙女デザイン研究所

監修:山田俊幸(帝塚山学院大学教授)、企画制作:アート・ベンチャー・オフィス ショウ

8/23①:講演会「まさをブルーの世界」

山田俊幸(帝塚山学院大学教授)

9/6①:ワークショップ「乙女の宝物入れ! ?手縫いだがま口小物入れをつくる」

講師:sova*(イシカワカオル 布作家)



大正から昭和初期にかけて「まさを調」というイメージを確立するなど、爆発的な人気を博した加藤まさを(1897-1977)。花びらにつつまれた妖精、愛くるしい小さな子ども、机や樹木、果ては地面にまでもしなだれかかる嘆きの乙女たちは、ただ「かわいい」というだけでは収まらない、奇妙な余情を醸し出す。

本展では、加藤まさをに加えて、竹久夢二、小林かいち、高島華宵、中原淳一、落谷虹児など、大正・昭和初期の抒情画家の作品約190点を紹介。

■第73回

火の粉は風に舞い上がる 村越としや写真展

2014年9月20日①-11月3日②③

開催日数:43日間

入場者数:3,057人[平均71人/日]

協力:フォトグラファーズ・ラボラトリー、山ノ手写真製作所、大伸社

10/25①:対談「村越としや×平間至」

出演:村越としや(本展出品作家)、平間至(写真家)



福島県須賀川市出身の若手写真家・村越としやは、拠点を東京に置きながら2006年以降度々故郷に足を運び、その風景を撮影してきた。静謐でありながらも、深く根の張った力強い風景のあり方は、故郷を思う新たな視点を提示してくれるのではないだろうか。本展では、村越が辿った福島の記憶の断片を、近作を中心に紹介。

■第74回

吉祥寺のモダニスト 小島辰之助

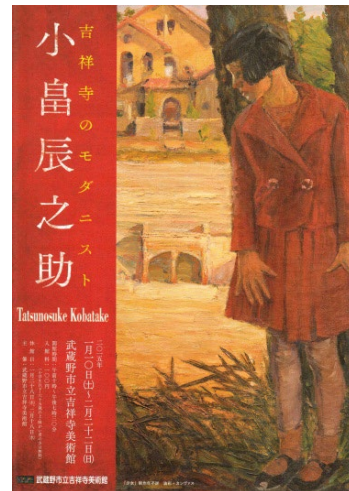
2015年1月10日⑤—2月22日⑩

開催日数:42日間

入場者数:4,024人[平均96人/日]

小島辰之助(1892-1977)は、かつて吉祥寺を拠点に活動した画家である。生まれ故郷の京都で鹿子木孟郎に師事した後上京、黒田清輝率いる白馬会の研究所で学ぶ。日本画家の小島鼎子と結婚後は吉祥寺に居を構え、生涯この地で過ごすこととなる。その作風は白馬会風の外光派印象主義の影響を滲ませ、自然光を取り込んだ平明かつ柔和な画風が特徴である。

本展は、その画業に光をあてる試みであると同時に、当館が所蔵する約30点の辰之助作品を一挙に公開する初の機会となった。貴重な関連資料もあわせて展示し、洒落者としても知られていたモダンな文化人・小島辰之助の人間像にも迫った。



■第75回

小林路子の菌類画 きのこ・イロ・イロ

2015年4月4日⑤—5月17日⑩

開催日数:43日間

入場者数:9,754人[平均227人/日]

4/25⑤:講演会「きのこトーク」

講師:小林路子(本展出品作家)

「きのこ」を描き続けている画家、小林路子。1986年、挿絵の仕事で出会った「きのこ」の魅力にとりつかれて以来、山野に通い、(時には近場で)「きのこ」を探し、絵に描くという暮らしを重ねてきた。本展では、これまでに仕上げた作品約850点のうち、画家自身が厳選した70点を展示。「ボタニカル(=植物の)・アート」とは一味異なる「菌類画」の魅力を紹介。



■第76回

長倉洋海写真展 その先の世界へ

2015年5月23日⑤—6月28日⑩

開催日数:35日間

入場者数:5,931人[平均170人/日]

協力:写真弘社、中外写真薬品

5/24⑩:スライドショー「私のフォトジャーナリズムの原点 エルサルバドル」

5/29⑩:対談「絵を描く、写真を撮る、旅での出会いを語る」

長倉洋海×榎木孝明(俳優、画家)

5/30⑤:ロング・スライドショー「Photographs of Hiromi Nagakura 1980~2015」

6/5⑩:スライドショー「マスードとの500日間 アフガニスタン 1983~2000」

6/12⑩:スライドショー「シルクロード4万キロ 2004~2009」

6/19⑩:スライドショー「南アフリカとアマゾン」

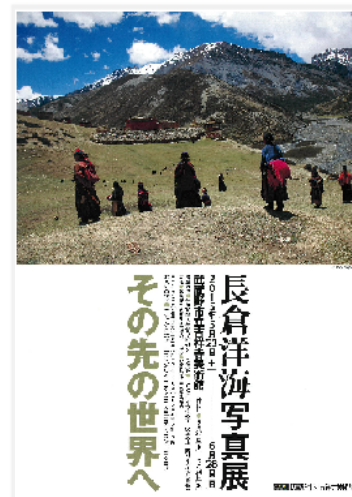
6/26⑩:スライドショー「北の島、南の島、日本、シベリア」

6/28⑩:対談「写真家と探検家。旅から見えたきたもの」

長倉洋海×関野吉晴(探検家、医師)

長倉洋海によるギャラリートーク(5/23,24,31,6/5,6,7,12,19,26,27)

世界の辺境、紛争地取材し続ける写真家・長倉洋海(1952-)。そのレンズは「時代の波にのみ込まれていくもの、動かないもの、その両者の狭間で生きる人の姿」を捉えてきた。内線からの復興を目指す南部アフリカをはじめ、最新作のシベリアまで、世界各地の人々の姿を紹介。



■第77回

永沢まこと都市画展

2015年8月1日(土)―8月30日(日)

開催日数:29日間

入場者数:7,927人[平均 273人/日]

協力:玄光社

8/1(土),8/22(土),8/29(土):トークショー&サイン会

8/6,8/20:ギャラリートーク

本展のタイトルでもある“都市画”は、永沢まこと(1936-)の類まれな人間観察力とおびただしいスケッチの変遷を経て辿り着いた、“街の今”をとらえる、作者監修のドキュメンタリーとなっている。渋谷、新宿はもちろん、自身も特別な親しみを感じるという吉祥寺もそのターゲットになっており、本展では、2012年から約3年の歳月をかけて制作された《吉祥寺駅前Ⅰ～Ⅳ》をはじめ、その工程展示(コピー)や初公開のクロッキー帳、文庫本サイズのスケッチブックも多数紹介。



永沢まこと都市画展

The TOWNSCAPE by Makoto Nagasawa

2015年8月1日(土)―8月30日(日)

休館日:8月26日(木)



■第78回

生誕200年記念 伊豆の長八―幕末・明治の空前の鍍絵師

2015年9月5日(土)―10月18日(日)

開催日数:43日間

入場者数:14,416人[平均335人/日]

共催:伊豆の長八生誕200年祭実行委員会

後援:一般社団法人 日本左官業組合連合会

監修:日比野秀男(掛川市ステンドグラス美術館長)、

斎藤金次郎(東京都立城東職業能力開発センター)、西尾太加二(静岡文化研究所所長)

9/12(土):ワークショップ「漆喰鍍絵制作体験」

講師:伊豆の長八美術館

9/13(日),10/3(土):ワークショップ「光る泥団子づくり」

講師:東京都左官職組合連合会青年部平成会(9/13),伊豆の長八美術館(10/3)

9/26(土):講演会「坊を使う者―伊豆の長八と明治の東京」

講師:木下直之(東京大学教授、文化資源学)

幕末/明治前期の江戸/東京で活躍した伊豆・松崎出身の左官、伊豆の長八(本名:入江長八 1815-1889)。

漆喰壁に鍍を使った浮彫と彩色を施した装飾は「鍍絵」と呼ばれ、長八はその随一の技をもって建築・調度・塗額などの上に傑作をつくりあげていった。本展は、長八生誕200年を記念誌、松崎を中心とする静岡県内や関東近郊の寺院・個人宅に伝えられた貴重な鍍絵や漆喰細工約50点を展示。

■第79回

生誕110年記念 三岸節子展―私は燃えつつける

2015年11月21日(土)―12月27日(日)

開催日数:36日間

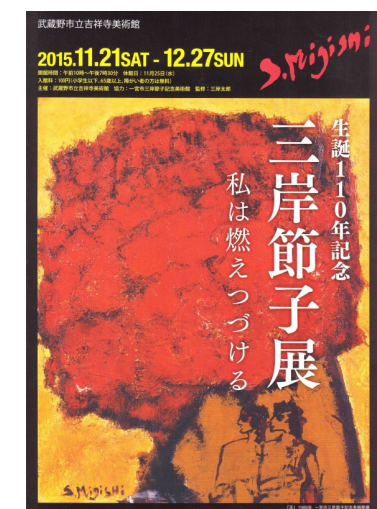
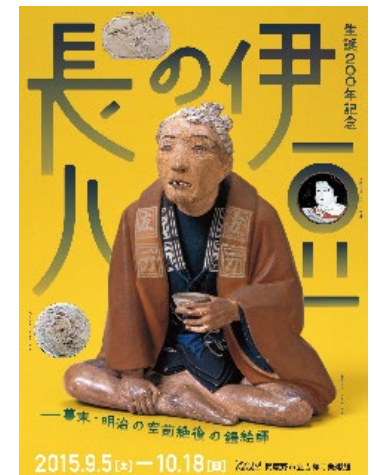
入場者数:9,945人[平均 276人/日]

協力:一宮市三岸節子記念美術館 監修:三岸太郎

11/21(土),12/12(土):講演会「三岸節子を語る」

講師:三岸太郎(高輪画廊)

女性の自立が困難であった日本の洋画壇に、新たな息吹を吹き込んだ画家、三岸節子(1905-1999)。女性が活躍できる舞台を着実に築いていく一方、私生活では波乱が続き、制作との厳しい両立を強いられた。そうした中で描き出す画面は、生命力に燃え、見る者の心に烈しい感動を与える。生誕110年を記念した本展では、油彩画のほか素描や装丁本、パレットなどを含む約80点の作品により、その画業を辿った。



■第80回

カンパセーション_ピース かたちを(た)もたない記録

2016年1月16日(土)ー2月28日(日)

開催日数:41日間

入場者数:2,737人[平均67人/日]

協力:ARATANIURANO、remo「NPO法人記録と表現とメディアのための組織」、井の頭自然文化園

1/17(日):小西紀行+AHA!ギャラリートーク

2/20(土):小西紀行トーク「質疑応答」

2/28(日):AHA!トーク「『あとを追う』—そのあとを追う」

講師:松本篤(AHA!)

2/21(日):『あとを追う』関連ワークショップ読書会その1『あとを追う』

2/26(土):『あとを追う』関連ワークショップ読書会その2『十六歳の日記』

2/27(土):『あとを追う』関連ワークショップ読書会その3『ペン習字 軍人模範慰問文』

講師:AHA!

油彩で家族/人間を描き続けている小西紀行(1980~)と市井の人々による記録の価値を探求している AHA!。本展は、「家族」をメディアとしてそれぞれに活動を展開してきた二者を通じて、定まったかたちや居場所を持たない、あるいは保たない「記録」はいかにして可能かを問う。一つの「ありふれた光景」に触れることで、さまざまな人の中に異なる記憶が再生され、発話が生まれていく。そのようなしなやかな「記録(アーカイブ)」のあり方を探った。



■第81回

萩尾望都 SF 原画展

2016年4月9日(土)ー5月29日(日)

開催日数:49日間

入場者数:27,055人[平均552人/日]

協力:河出書房新社

4/16(土):対談 萩尾望都×ヤマザキマリ(漫画家)

1969年に「ルルとミミ」デビュー以降、「ポーの一族」「トーマの心臓」などの名作を生み、幅広いジャンルを手掛けてきた漫画家萩尾望都(1949-)。竹宮恵子、大島弓子などとともに「花の24年組」と呼ばれ、1970年代の少女漫画黄金期を築く。本展では、日本の少女漫画史におけるSFの黎明期を担った萩尾作品「11人いる!」「百億の昼と千億の夜」「スターレッド」などのカラーイラストレーション、コミック生原稿など200点を超えるSF原画により、夢の展示空間を実現した。



■第82回

佐伯和子展 糸の葉 ~一万五千枚の糸の葉が語りかける~

2016年6月4日(土)ー7月18日(月祝)

開催日数:44日間

入場者数:6,658人[平均151人/日]

協力:タツモ株式会社・ソーイングセンターjoy

6/4(土):コンテンポラリーダンス 出演:香取直登(コンドルズ)

6/11(土):コンテンポラリーダンス 出演:入手杏奈(まことクラヴ/21世紀ゲバゲバ舞踊団)

6/12(日):ワークショップ 佐伯和子と作る、あなたの《糸の葉》(赤い《糸の葉》)

6/25(土):コンテンポラリーダンス デュオ(入手杏奈&香取直登)+コントラバス(藤野俊雄)

6/26(日):ワークショップ 佐伯和子と作る、あなたの《糸の葉》(青い《糸の葉》)

7/2(土):講演会「佐伯和子が語る、わたしの《糸の葉》」

7/16(土):能楽 出演:青木健一(シテ観世流能楽師)

演目:安達原・船弁慶・土蜘蛛・養老



常に色と質感にこだわりながら、自身のテキスタイルの可能性を広げてきた染織家・佐伯和子。2000年代に入り、平面から立体へと制作スタイルを移行した先に誕生したのが、2012年に発表したインスタレーション《糸の葉》。独自の技法でチュールの布の上に糸を縫いこみ、一枚一枚表情の違う糸の葉を生み出した。本展では、15,000枚の《糸の葉》により、5点の作品を展示。吉祥寺美術館としては初のインスタレーションの展覧会として開催した。

■第83回

生誕120年記念 小林かいち展

2016年8月13日④—9月25日⑤

開催日数：43日間

入場者数：7,966人[平均 185人/日]

企画協力：伊香保 保科美術館、株式会社 湊屋

8/27④：講演会「小林かいちと少女文化～少女お手紙から谷崎潤一郎まで～」

大正末期から昭和初期に京都・新京極の人気土産物店「さくら井屋」が発行した木版摺り絵葉書・絵封筒の図案(デザイン)作者として、近年再評価されている小林かいち(1896～1968)。本展では、かいちの生誕120年を記念し、伊香保 保科美術館所蔵のかいちコレクションの中から、さくら井屋発行の絵葉書・絵封筒を中心に500点以上を展示。大正ロマンの時代に出現した、毒々しさと儂さの交錯する、めくるめく小世界を展開した。



■第84回

デビュー20周年記念 といかや展 チリとチリ

2016年10月1日④—11月13日⑤

開催日数：43日間

入場者数：9,763人[平均 227人/日]

協力：アリス館、あすなろ書房、偕成社、学研プラス、教育画劇、小学館、童心社、白泉社、BL出版、フェリシモ、ブロンズ新社、文溪堂、ポプラ社

10/9④：ワークショップ『チリとチリ うみのおはなし』より「親子でおそろい！貝殻ペンダント&ブローチ」 講師：中安麗(ジュエリー作家)

10/10④⑤：講演会 といかやが語る“チリとチリ”と絵本のはなし&サイン会

10/22④：ワークショップ『チリとチリ ちかのおはなし』より「羊毛フェルトでお花の小物づくり」 講師：吉谷美世子(染織造形作家)

10/29④：ワークショップ『チリとチリ はらっぱのおはなし』『チリとチリ ゆきのひのおはなし』より「親子でお料理教室 ミックスジュースとおんせん蒸しパンに挑戦」 講師：浅倉ユキ(ゆるベジ料理研究家・「another～kitchen」主宰)

11/3④⑤：ワークショップ「といかやと一緒に“チリとチリ”のかんたん絵本づくり」

11/6⑤：ワークショップ『チリとチリ まちのおはなし』より「お花色の毛糸でマフラーを織ろう」 講師：城達也(織作家・「手織工房じょうた」主宰)

デビュー20周年を迎えた絵本作家といかや。特有の色鉛筆や鉛筆を用いた手法の原点は、絵本作家育成講座「あとさき塾」の参加にある。本展では、デビュー作『チップとチョコのおでかけ』に始まる人気シリーズや水彩で描かれた詩情あふれる作品、フェルトを用いたシリーズなどと合わせて、「チリとチリ」シリーズの原画全点など約240点の原画を展示し、絵本作家としての20年の軌跡及び自然や動物たちの生命のあり方を大事に、緑豊かな山あいでも猫たちと暮らす、といかや自身の生きる姿勢にも迫った。



■第 85 回

青龍社の女性画家 小島鼎子

2017年1月14日(土)―2月26日(日)

開催日数:41日間

入場者数:6,774人[平均 165人/日]

大正末期から昭和にかけて吉祥寺に暮らした日本画家 小島鼎子(1898-1964)。武蔵野市では鼎子没年に受像した1点に加え、平成8年に遺族より“まくり”状態一木枠やパネルから外された本紙のみの状態、多くは巻かれて保管―の作品46点の寄贈を受け、以来、段階的に修復を進めてきた。本展では、平成26年度から平成28年度までに額装作業が終了した受贈後初公開作品を中心に、戦前・戦中・戦後にかけて制作された21点の大作を展示し、師・川端龍子の創立した青龍社において活躍した女性画家の画業を改めて振り返った。



■第 86 回

北村周一 フラッグ《フェンスぎりぎり》一歩手前

2017年4月10日(土)―5月28日(日)

開催日数:50日間

入場者数:2,719人[平均 54人/日]

後援:相模原市、相模原市教育委員会

協力:東洋インキ株式会社、株式会社アトミ

4/16(日):講話「北村周一の絵画を語る」講師:平井亮一(美術評論家)

4/22(土):ワークショップ「えのぐのゆくえ、パレットのおしえ」講師:北村周一

5/6(土):高橋悠治 ピアノコンサート「移りゆく日々の敷居」演奏:高橋悠治(作曲家・ピアニスト)

5/20(土):講演「芸術作品とは何か ―ハイデッガーの立場から」

講師:秋富克哉(京都工芸繊維大学教授)

「フラッグ《フェンスぎりぎり》」というこの奇抜な展覧会のタイトルは、画家・北村周一(1952-)が2008年の個展から一貫して使い続けているもの。「フラッグ」とは、“上下左右に動く二本の線が一点で交差しようとするとき、その交差の直前(一歩手前)に発現する空間”についての北村独自の呼称であり、彼の作品に通底する空間概念であり、彼の作品では、「フラッグ」がさまざまな様態に展開される。都内の美術館では初の個展として展開。



□武蔵野アール・ブリュット 2017 ヒトが表現するということ

* 武蔵野市市制施行 70 周年記念事業

2017年7月7日(金)―10日(日)

開催日数:4日間

入場者数:吉祥寺美術館 1,643人

ギャラリー永谷 625人

アートギャラリー絵の具箱 588人

主催:武蔵野アール・ブリュット実行委員会、武蔵野市、公益財団法人武蔵野文化事業団

7/8(土):表彰式、審査委員によるパネルディスカッション ファシリテーター:三友周太

7/9(日):記録映画「アール・ブリュットがうまれるところ」上映会

アフタートーク[代島治彦(映画監督)×荒井良二(絵本作家)]

7/8(土)・9(日):グッズ販売(コピス吉祥寺ふれあいデッキ、吉祥寺美術館ミュージアムショップ)

ワークショップ「『HIMONINGEN(ヒモンニンゲン)』みんなのアート」(コピス吉祥寺ふれあいデッキ) 講師:三友周太



市民協働によって作り上げるアート展「武蔵野アール・ブリュット 2017」。アール・ブリュットとは、「生(き)の芸術」と表され、既成の表現法にとらわれずに独自の手法と発想で制作された美術作品を指す。本展の監修は三友周太氏。展示は公募作品によって構成。

夏だ！だるまだ！まねきねこだ！！ 高島那生のなつやすみ展

2017年7月15日㊥—8月27日㊤

開催日数:43日間

入場者数:5,982人[平均 139人/日]

協力:好学社、あかね書房、岩崎書店、絵本館、偕成社、河出書房新社、くもん出版、
佼成社、講談社、主婦の友社、BL 出版、フレーベル館、ブロンズ新社、文溪堂、
文研出版、ポプラ社、理論社

<高島那生の読み聞かせ&サイン会>

7/17(月)祝:海の日編(“まねきねこ”のライブペインティングつき)

8/11(金)祝:山の日編(“だるま”のライブペインティングつき)

<高島那生のワークショップ “きみのだるまはどんなかお”>

7/29㊥:7月もおわり編

8/19㊥:8月のなかば編



高島那生が繰り広げる、奇想天外でナンセンス、それでいてスタイリッシュな絵本の世界は遊び心であふれている。本展では、『だるまだ！』および、新作『まねきねこだ！！』(好学社)の原画全点に加え、『チーター大セール』(絵本館 2006 年)、『カエルの おでかけ』(フレーベル館 2013 年)などの代表作の原画や挿絵のほか、ラフ(下絵)も含めた約 200 点の作品を展示。

コンサベーション_ピース ここからむこうへ
part A 青野文昭展 part B はな子のいる風景

2017年9月9日㊤—10月15日㊤

開催日数:36日間

入場者数:3,633人[平均 101人/日]

助成:公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団
公益財団法人 朝日新聞文化財団
公益財団法人 花王 芸術・科学財団

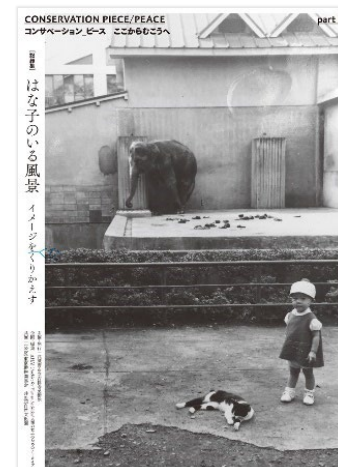
10/1㊤:青野文昭アーティスト・トーク

part A

仙台出身・在住の作家・青野文昭は、1990 年代より「なおす」ことをテーマとする作品制作を続け、東日本大震災後の被災物を用いた一連のシリーズにより広く注目をあつめることとなった。本展に向け青野は、戦前、祖母が暮らしていたという自身にも縁ある土地・吉祥寺周辺地域での收拾活動に基づき、地域全体の記憶を「復元」という作業に挑戦した。展示会場では、数点の旧作により青野の今日までの制作活動を振り返るとともに、約 1 年をかけて進められた東京一吉祥寺における新たな取り組みの成果として、大作を発表。

part B

AHA! [Archive for Human Activities/人間の営みのためのアーカイブ]は当館における 2015 年度企画展「コンサベーション_ピース かたちを(た)もたない記録」にて、吉祥寺周辺住民から募集した 8 ミリフィルムを発端とする新たな記録づくりを行った。その過程で出会った井の頭自然文化園のゾウ・はな子と数多くの人びとの記念写真、関連記録の収集を進め、本展に向け、はな子が生きた 1947 年から 2016 年を振り返る記録集を製作。



■第 89 回

武蔵野市市制施行 70 周年記念・井の頭恩賜公園開園 100 周年記念
見えた風景、見える風景

2017年11月11日㊕－12月24日㊗

開催日数：43日間

入場者数：3,861人[平均 90人/日]

協力：吉祥寺今昔写真館委員会

11/11㊕：記念講演会《武蔵野市と“武蔵野”を語る》

「武蔵野新田とお救い政策—養料金・溜り雑穀制度—」

講師：森安彦(国文学研究資料館名誉教授、武蔵野市文化財保護委員)

「武蔵野ゆかりの文化人たち—昭和前期を主として—」

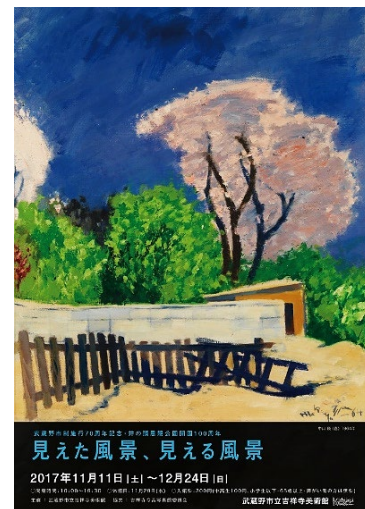
講師：保坂一房(公益財団法人たましん地域文化財団 歴史資料室 室長)

「うつりゆく吉祥寺—吉祥寺のまちと吉祥寺今昔写真館委員会の取り組み—」

講師：目黒實(吉祥寺今昔写真館委員会 会長)

12/2㊕：講演会「今に残る江戸時代の武蔵野」 講師：米崎清実(武蔵野ふるさと歴史館学芸員)

11/23㊕・12/16㊕：学芸員によるギャラリートーク ゲスト：須田富昭(吉祥寺今昔写真館委員会)



武蔵野市の市制施行 70 年、井の頭恩賜公園開園 100 周年を記念した本展では、所蔵作品から武蔵野市ゆかりの芸術家たちの作品を展示。あわせて、武蔵野市内や井の頭恩賜公園のようすをおさめた吉祥寺今昔(いまむかし)写真館委員会が所蔵する明治～昭和期の貴重な写真をパネルで紹介。

特別展示「うつりゆく人と風景—所蔵作品と写真から振り返る武蔵野市の 70 年—」

2017年10月28日㊕－11月5日㊗

会場：武蔵野市民文化会館 展示室

開催日数：8日間

入場者数：1,039人[平均 130人/日]

市制施行70周年記念式典にあわせ、武蔵野市民文化会館展示室において特別展示を開催。所蔵美術作品と武蔵野市秘書広報課の記録写真によって、武蔵野市における人びとの暮らしや文化の変遷を振り返った。

■第 90 回

中澤弘光 明治末～大正<出版の美術>とスケッチ

2018年1月13日㊕－2月25日㊗

開催日数：42日間

入場者数：4,302人[平均 102人/日]

1/27㊕：講演会「中澤弘光と京都」

講師：山田俊幸(日本デザイン遺産&イマジュリ遺産アーカイブス代表)

平成 26 年にそごう美術館・三重県立美術館にて開催された「生誕 140 年 中澤弘光—知られざる画家の軌跡」展をきっかけに、再評価の機運が高まりつつある洋画家・中澤弘光。本展においては、中澤弘光・杉浦非水筆《みだれ髪歌留多》(明治 34 年・日本近代文学館寄託)を始めとする貴重な資料の数々により、明治末～大正期の浪漫主義思潮を背景に花開いた、中澤弘光の<出版の美術>をたどった。



■第 91 回

福田利之展 | 吉祥寺の森

2018年4月7日①—5月20日②

開催日数:41日間

入場者数:11,069人[平均 257人/日]

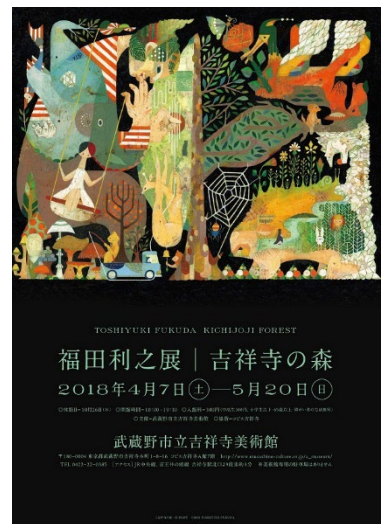
協賛:コピス吉祥寺

4/15②:トークショー 吉祥寺の街を愛する「福田利之と tupera tupera のぼくたちの吉祥寺」

出演:福田利之×tupera tupera(亀山達矢・中川敦子 絵本作家)

5/9①:人形劇コンサート 子どもたちと一緒に歌おう「良原リエ with ねずみの“シーモア”の音あそび」 出演:良原リエ(音楽)、山田はるか(人形操演)

Spitz のアートワークや「ほぼ日刊イトイ新聞」の人気コンテンツを手掛けるイラストレーター・福田利之(1967-)。吉祥寺を拠点に活動続ける福田のイラストレーションは、さまざまなジャンルで展開されている。本展では、アクリルガッシュやコラージュを組み合わせて描かれた原画やラフスケッチ、福田の名前が全国的に知られるきっかけともなった「フォト絵」、波打つ線描画など、新作も含めた約 300 点を展示。初の試みとして、「コピス吉祥寺」とのコラボレーション(コピス吉祥寺×吉祥寺美術館スタンプラリー「小さな森をお散歩しよう」<4月7日①-5月20日②>/GREENING Music Fes,山田稔明&近藤研二ライブ<5月3日②>/福田利之&山下哲(ほぼ日)&山田愛(ロカリテ)「カップとウサギのコーヒー屋さん with ロカリテ」<5月5日①>を実現。



■第 92 回

江上茂雄:風景日記 diary/dialogue with landscapes

2018年5月26日①—7月8日②

開催日数:42日間

入場者数:6,402人[平均 152人/日]

連続トーク 記録/記憶と風景

6/2①:「都築響一が出会った江上茂雄とその風景」 都築響一(編集者)

6/23①:「風景を(ひっ)くりかえす」

松本篤(AHA[Archive for Human activities/人類の営みのためのアーカイブ]),

尾中俊介(デザイナー)、大内曜(展覧会担当)

6/30①:「風景と記憶」 保坂和志(作家)

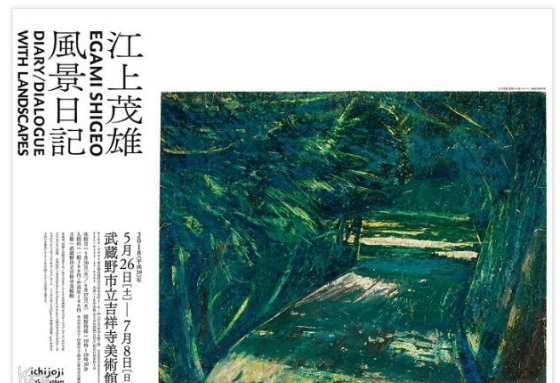
鑑賞プログラム

6/13②・6/17②:「あかちゃんといっしょに美術館！」

ナビゲーター:杉浦幸子(武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科教授)

明治 45(1912)年に福岡県山門郡瀬高町(現在の福岡県みやま市)に生まれた江上茂雄は、15歳で三井三池鉱業所建築設計課に就職し、以後、母・妻と4人の子の生活を支えるかわら一心に絵画修業に励み、(日曜画家)として独学でクレヨン・クレパスによる表現を極めていった。定年退職後は、毎日のように水彩画の道具を担いで自宅周辺に外出し、平成 21(2009)年頃までの約 30 年間、1日1枚の風景画を仕上げる生活を続け、平成 26(2014)年2月、2万点以上に及ぶ風景画を残し、101歳でその生涯を閉じた。

江上茂雄を都内で初めて紹介することとなった本展は、日記のように描かれたその風景画に注目し、そこに記録されていく記憶について考える機会となった。



□武蔵野アール・ブリュット 2018「描かずに／創らずに／はられない」ストーリーに迫る

2018年7月20日①—23日②

開催日数:4日間

来場者計 1,712名

吉祥寺美術館 1,356名(うちイベント参加者計 264名)

ギャラリーケイ 356名

主催:武蔵野アール・ブリュット 2018 実行委員会、武蔵野市、公益財団法人武蔵野文化事業団



7/21④:成蹊大学文学部現代社会学科コミュニティ演習報告発表会「表現を通じた共生—武蔵野アール・ブリュットに向けて—」

7/22④:「描かずには／創らずにはいられない」ストーリーに迫る

・ペインターしげ ペンキアートライブ ・監修者・三友周太氏の武蔵野アール・ブリュット 2018 取材レポート

市民協働によって作り上げるアート展「武蔵野アール・ブリュット」。アール・ブリュットとは、「生(き)の芸術」と表され、既成の表現法にとらわれずに独自の手法と発想で制作された美術作品を指す。本展の監修は三友周太氏。企画展として、出展作家9名(組)の日常生活にもフォーカスを当て、取材により制作過程もビジュアル化した展示を行った。

■第 93 回

没後 30 年・小貫政之助 語りえぬ言葉

2018年8月11日④—9月23日④

開催日数:43日間

入場者数:3,819人[平均 89人/日]

8/12④:スライドトーク「小貫政之助がのこしたもの」 展覧会担当学芸員

8/25④:講演「現代における小貫政之助の意義」

宮田徹也(嵯峨美術大学客員教授、近代日本美術思想史研究)

9/8④:ワークショップ「挑戦!小貫政之助の版表現」 展覧会担当学芸員



小貫政之助(おぬき・まさのすけ、1925-1988)は昭和期を生きた洋画家。

太平洋美術学校を卒業し、自由美術協会などで活動したが、1968年以降は団体に属さず、福生のアトリエで制作に没頭した。限られた場でしか作品を発表しなかったこともあり、これまで、小貫の幅広い取り組みを一覧できる機会はなかった。本展では、初公開となる素描やスケッチ、文芸雑誌の挿絵原画などを含めた約150点によって、小貫政之助の仕事の意義を再考した。

■第 94 回

心をつなぐあたたかな色 柿本幸造の絵本の世界

2018年9月29日④—11月11日④

開催日数:42日間

入場者数:9,368人[平均 218人/日]

協力:学研プラス・至光社・チャイルド本社・ひさかたチャイルド・光村図書出版・偕成社
・教育画劇・講談社・小峰書店・新日本出版社・世界文化社・ひかりのくに・フレーベル館

10/7④:大型絵本『どうぞのいす』の読み聞かせ

&『どんくまさん』シリーズの人形操演

チェルシー舞花(モデル)、山田はるか(人形操演)

10/20④:絵本の編集者4名による座談会

「絵本の画家・柿本幸造を語る」

市川宣子(ひさかたチャイルド)、小沼みさ子(至光社)、

土井章史(トムズボックス)、長峯宣子(学研プラス)

※ロビーでは、「どうぞのいす」に座ってみよう! 記念撮影スペースを設置。



絵本の画家・柿本幸造(かきもと こうぞう/1915-1998)が描いた愛らしい動物や子どもたち。100万部を超えるベストセラーとなった『どうぞのいす』(ひさかたチャイルド)や、小学校の国語の教科書に1971年から掲載が続く『くじらぐも』(光村図書出版)の絵に馴染みのある人も多い。

本展では、デザイナーの仕事を経て、30代後半で初めて子どもの絵に携わって以降の月刊絵本や、図鑑の挿絵などの初期作品に加え、1967年から約30年かけて26冊が刊行された『どんくまさん』シリーズ(至光社)、1981年刊行の『どうぞのいす』をはじめとする代表的な絵本の数々、1989年から亡くなるまで手がけた『にじのひろば』(至光社)の表紙画に至るまで、原画やラフスケッチなど約200点を展示した。第6回三鷹まるごと絵本市(10/21~28)において本展にちなんだイベントとして「朗読で楽しむ柿本幸造の世界」(10/28)が開催された。武蔵野プレイス、吉祥寺図書館にて、会期中に「柿本幸造特集」を開催した。

■第 95 回

岩本拓郎 すべてののいろとかたち

2019年1月12日①—2月24日②

開催日数:42日間

入場者数:4,557人[平均 109人/日]

- 1/13②:対談① 水沢勉(神奈川県立近代美術館長)×岩本拓郎
 1/26②:音楽家とのライブペイント・コラボレーション①〈心の彩り・魂の響き〉
 鍋島佳緒里(作曲家・ピアニスト・声楽家)×岩本拓郎
 2/9②:対談② 中津川浩章(美術家・アートディレクター)×岩本拓郎
 2/16②:音楽家とのライブペイント・コラボレーション②〈風の音を描く〉
 美炎(馬頭琴奏者)×前田仁(パーカッション奏者)×岩本拓郎

40年以上にわたって無類の抽象絵画を描き続ける画家・岩本拓郎(いわもと・たくろう、1951-)。〈SQUARE-STROKE シリーズ〉〈アブストラクトペインティングシリーズ〉など、いくつもの表現展開をもつ岩本だが、このほど、数年来取り組んできた 11 cm 角の画面による表現が〈SQUARE-11 シリーズ〉としてひとつの完成をみた。本展では、同シリーズの 700 点を超える作品群から 30 点を厳選し、シリーズ初のこころみとして、最新作となるモノクロームの大作と対比させて展示した。会期中、SERVE 吉祥寺)、ギャラリーゴトウとの協力展示を開催。



■第 96 回

移ろう季節を感じて 一所蔵作品より

2019年4月6日①—6月9日②

開催日数:61日間

入場者数:3,942人[平均 65人/日]

- 5/5②:親子で挑戦! 水彩モノタイプ 講師:常田泰由(版画家、東京造形大学非常勤講師)
 5/19②:永沢まことのペーパー一本で絵を始めよう デモンストレーションと実技指導 講師:永沢まこと
 5/26②:水彩モノタイプを制作しよう 講師:常田泰由

武蔵野市の所蔵作品から、展覧会の会期に合わせ、春から夏へと移りゆく季節の情緒あふれる作品約 30 点を紹介。萩原英雄の晩年の代表作でもある連作版画「三十六富士」の春。美しい色感で身近な花鳥を描いた小島鼎子。野田九浦が描いた涼しげな水辺の風景。みずみずしい植物を描いた永田春水の作品など、描かれた時代も制作方法も異なる作家たちが見つけたさまざまな季節の情景を展観。



□武蔵野アール・ブリュット 2019 【こだわり】

2019年7月5日①—8日②

開催日数:4日間

入場者数:1,342名(うちイベント参加者計 127名)

主催:武蔵野アール・ブリュット 2019 実行委員会、武蔵野市、公益財団法人武蔵野文化事業団

7/6②・7②:監修者(三友周太氏)によるギャラリーツアー

7/7②:記録映画上映・テーブルトーク

登壇者:安藤真洋氏(社会福祉法人武蔵野理事長)、代島治彦氏(映画監督/プロデューサー)、

千葉鉄也氏(画家、社会福祉法人にじの会) 進行:森新太郎(武蔵野アール・ブリュット 2019 実行委員長)

会期中:参加型イベント「100 colors have 100 stories」



市民協働によって作り上げるアート展「武蔵野アール・ブリュット」。アール・ブリュットとは、「(生)の芸術」と表され、既成の表現法にとらわれずに独自の手法と発想で制作された美術作品を指す。監修は三友周太氏。本展は 8 人の作家を紹介する企画展として、作者の生活・制作活動の源となっているであろう「こだわり」にフォーカスを当てるとともに、過去 2 回の企画を振り返る内容で開催。成蹊大学の学生ボランティア本部 Uni も参加。

■第 97 回

小島廣志 木に呼ばれる

2019年7月20日(土)―9月8日(日)

開催日数:49日間

入場者数:5,235人[平均 107人/日]

8/10(土):スペシャルトーク 講師:小島刻時(スタジオ鼎ディレクター)

7/27(土)・8/31(土):野外彫刻ミニ鑑賞ツアー

講師:坂口寛敏(美術家、東京藝術大学名誉教授、武蔵野文化事業団理事)

8/24(土):ワークショップ「木でつくろう!ちいさな彫刻」*2部入替制

講師:内平俊浩(彫刻家)、江幡三香(彫刻家、スタジオ鼎代表)

吉祥寺ゆかりの彫刻家・小島廣志。東京藝術大学に学んだのち、1959年に初出品した二科展で特選を受賞。冴えた造形は多方面から高く評価され、1977年には第6回平櫛田中賞を受賞。年若い時から後進育成にも力を注ぎ、1980年には美学校から独立してKOBATAKE 彫刻工房を開校。技術的教授にとどまらず、芸術家としての人間を育む、独自のカリキュラムを展開した。本展では、廣志の基軸となる木彫作品を中心に、ブロンズ鑄造による作品やイラスト、初公開となる資料など40点超によって、小島廣志の仕事を紹介。会期中、Gallery 慳 SATORU との協力展示を開催。



■第 98 回

きくちちき絵本展 しろとくろ

2019年9月21日(土)―11月10日(日)

開催日数:46日間

入場者数:7,121人[平均 155人/日]

協力:講談社・アリス館・イースト・プレス・学研プラス・佼成出版社・小峰書店・小学館

大日本図書・童心社・福音館書店・文溪堂・ほるぷ出版・理論社・WAVE 出版

9/28(土):ワークショップ「親子いっしょに“いきものモビール”を作ろう」講師:きくちちき

10/19(土):コンテンポラリーダンス&ライブペインティング「『しろねこくろねこ』ときくちちき」

出演:入手杏奈(ダンサー・振付家)、香取直登(ダンサー・振付家)、きくちちき

10/29(土):ワークショップ「『ちきばんにゃー』で絵本みたいに行進しよう」

講師:良原リエ(音楽家)、加藤紗希(振付師・俳優)

11/2(土):トークショー「きくちちきと仲間たちによる『しろとくろ』と『くろ』の絵本ができるまで」

出演:きくちちき、長岡香織(講談社)、サイトマヒデユキ(デザイナー)



絵本作家・きくちちき。2012年刊行のデビュー作『しろねこくろねこ』(学研プラス)は、2013年に世界最大規模の絵本原画コンクール「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」にて「金のりんご賞」を受賞。一躍、気鋭の絵本作家として注目された。本展にあわせてきくちちきが手がけた新作絵本は、猫の“しろ”と犬の“くろ”が主人公のふたつの物語。講談社刊行の『しろとくろ』と、本展の図録掲載のために描かれた『くろ』。本展では新刊2作の原画全点に加え、代表作の絵本原画や描き下ろしの大型バナー連作作品、立体作品など約200点を展示。会期中、武蔵野プレイスでは、ワークショップで参加者が制作した“モビール”作品とあわせて、「きくちちき絵本特集」を実施。本展にあわせて、Tシャツブランド「グラニフ」(graniph)とのコラボレーション Tシャツを企画、東京の店舗を中心に販売された。

■第 99 回

千田泰広―イメージからの解放―

2020年1月11日(土)―2月23日(日)

開催日数:42日間

入場者数:3,955人[平均 94人/日]

1/13(日)(祝):オープニングトーク

講師:内藤誠一郎(国立天文台天文情報センター広報普及員)、千田泰広

2/9(土):スペシャル対談 講師:秋富克哉(京都工芸繊維大学教授)、千田泰広

2/11(土)(祝):制作体験!ワークショップ 講師:千田泰広

2/15(土):ライブ&トーク『Echo_Location 反響_定位』



出演：宮木朝子(作曲家・サウンドアーティスト)、千田泰広
2/22④：クロージングトーク 講師：金井直(信州大学教授)、千田泰広
2月15日④—23日⑤：文化会館特別展示「空間のための部屋」 於：武蔵野市民文化会館展示室
入場者数：373人[平均 46人/日]

国際的に活躍するアーティスト・千田泰広。光を素材とし、私たちの深奥に静かに共鳴する空間をひらいてゆく千田のインスタレーション作品は、世界各地で高く評価されている。

本展では、千田泰広が吉祥寺美術館の企画展示室に新作を制作。ロビースペースには、これまでの制作過程で生まれた立体物や制作メモ、ドローイングなども展示。特別企画として、会期最終週に武蔵野市民文化会館の展示室にも千田の作品を展開。また美術館での展示に先立ち制作ボランティアを募集した。

■第100回

土田圭介鉛筆画展 心の旅

2020年4月11日④—6月7日⑤
開催日数：会期42日間のうち7日間のみ開館
入場者数：647人[平均 92人/日]

鉛筆で淡い縦線と濃い縦線とを無数に描き重ね、モノクロームの幻想空間を創出する土田圭介。土田が、一貫した制作態度で描き続けているモチーフは「心」。描き出されたものは、具象でありながらも現実には存在しない、抽象と具象の中間の「形」として表現される。

土田の特徴である、緻密に丁寧に一筆一筆描きこまれた縦のストロークは“揺らぎ”を生じさせ、霧がかかったような幻想的な世界をつくりだすが、そこには生命のリズムを感じることができる。公立の美術館では初めての展示となる本展では、初期の作品から新作までを紹介。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により前年度3月2日から5月31日まで臨時閉館となったことから、7日間だけの展示となった。



□武蔵野アール・ブリュット 2020

「武蔵野アール・ブリュット 2020 ヒトが表現するということ、再び」

公募展として前年度3月に作品の募集と審査を実施。

当初予定していた展示会期は7月17日(金)から26日(日)であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、美術館での展示は中止し、公式 SNS での作品紹介に切り替えることとなった。123 点の応募作品のうち、SNS 投稿について了解いただいた作品について、10月14日(水)以降、実行委員会 Facebook ページにおいて1日1作品ずつ紹介。3名の審査員の講評もあわせて投稿した。



■第101回

岡田紅陽 富士望景—武蔵野から

2020年8月8日④—9月22日⑤(祝)
開催日数：45日間
入場者数：2,766人[平均 61人/日]

富士の写真家として国際的に著名な岡田紅陽。武蔵野市が所蔵する初期から晩期までの写真作品のほか、観光絵葉書や関東大震災関連資料など、約60点を展示。岡田の真骨頂といえるモノクローム写真、豊かな色相をとらえたカラー写真、それぞれの表現から、自然の懐に身を委ねつつ、うつりゆく瞬間に鋭く切り込んでゆく岡田の姿を追った。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で関連イベントが全て中止となったため、セルフ・ガイドとしてワークシートを2種作成、配付のほか HP 等で公開した。



所蔵作品特別展示 たいせつなじかん

2020年10月31日(土)～12月13日(日)

開催日数:42日間

入場者数:1,640人[平均 38人/日]

当初は「谷充央 風景の表／裏」展を予定していた会期だが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により次年度に延期となったことから、急遽、市所蔵作品をもちいた企画に変更。これまでの修復歴に着目し、修復後初公開する作品を軸に展覧した。展示室では作品解説冊子を配付。美術館 YouTube チャンネルでも展示の様子や作品を観覧いただけるように動画を作成・公開した。イベントも実施できなかったが、中高生や一般のかたに作品の案内・紹介を書いていただき掲出。ホームページなどでも公開した。



□武蔵野市立吉祥寺美術館と彦坂木版工房の子ども向け動画ワークショップ

「おいしいぶどう すっぱいレモン」

よーくみてから、かいてみよう！応募作品展示

「どうしたら、おいしそうに描けるのか？」をテーマに、吉祥寺美術館 YouTube チャンネルで配信したワークショップ動画を通してハガキサイズの作品を募集した。

対象は4歳から小学6年生まで。講師は、「彦坂木版工房」。

浜口陽三記念室内に、「彦坂木版工房」の作品と共に、第3期展示「ぶどうとレモン」展示期間は、2020年10月1日(土)～2021年2月28日(日)。

子どもたちの作品は、武蔵野プレイス、吉祥寺図書館でも巡回展示をおこなった。

応募総数は218点、彦坂木版工房の選出による受賞者3名。

応募者全員に工房からのコメントとともに作品を返却。全作品の画像を、「彦坂木版工房」のWEBサイトに公開。コロナ禍でも楽しめる新しいワークショップの在り方として、動画公開から作品返却まで約5ヶ月間をかけて展開した。



阪本トクロー | デイリーライブス

2021年1月9日(土)～2月28日(日)

開催日数:48日間

入場者数:3,001人[平均 63人/日]

1/17(日):墨流しワークショップ ※2部入替制・前半親子向け

講師:阪本トクロー

1/24(日):スペシャルトーク

出演:齋正機(日本画家)、阪本トクロー

日常の風景を切り取り、静謐な世界を描く阪本トクロー。阪本の作品は、日常的で身近な風景を自ら撮影し、その写真をもとにトレースして描かれる。その際、モチーフの中に潜んでいる「良さ」を引き出すために、観察に基づき、余分な要素や作家の個性を排除し、必要な要素に着目している。こうして描かれた作品は、阪本が実際に目にした特定の風景やモチーフではあるが、見たものをそのまま再現する写実・写生ではなく、モチーフの本質を表現する写意へと深化されることで、見る行為を我々に問い直しているように感じられる。

本展では、何気ない日常の1コマを切り取った《呼吸》、大きな余白の中に公園の遊具が臆気に佇む《エンドレスホリディ》等いくつかの作品シリーズとともに、動く水の表情を図解的に描いてきた《水面》シリーズから派生した「墨流し」によって制作された作品も紹介した。



谷充央 風景の表／裏

2021年4月10日(土)―5月30日(日)

開催日数：会期49日間のうち15日間のみ開館

入場者数：650人[平均 43人/日]

4/17(土)：担当学芸員によるギャラリートーク

於・武蔵野市民文化会館展示室

※5/16(日)に予定していた美術館でのギャラリートークは臨時閉館のため中止

4月16日(金)―25日(日)：文化会館特別展示 ※臨時閉館のため24日で終了

入場者数：163人[平均 20人/日]



一貫して「表と裏」を主題に制作を続ける画家、谷充央。谷は、「人は“表と裏” “内と外” “陰と陽”あるいは“本音と建前”を使い分けながら、しかし常にその二面性を包含している“個”」であり、「そんな表裏を一つの面で同時に表現したい」という。

本展は、谷の初期作から最新作までを一堂に展覧、アクリルや油彩などによる絵画、シルクスクリーンによる版画など約50点から、谷の仕事を紹介。会期中には、〈ぎやらりー由芽のつづき〉、武蔵野市民文化会館展示室においても特別展示を開催。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から美術館・文化会館とも4月24日をもって臨時閉館、そのまま会期終了となった。

□武蔵野アール・ブリュット2021【みる つくる つながる】

2021年7月17日(土)―21日(水)

開催日数：5日間

入場者数：565人

主催：武蔵野アール・ブリュット 2021 実行委員会、武蔵野市、公益財団法人武蔵野文化事業団

コロナ禍においても制作を続けている過去の企画展に出品歴のない9名の作家を中心とし、過去の出展作家や作品にも焦点を当て、これまでの活動も振り返る5年間の集大成となるような構成にするとともに、今回のテーマである「つくる」側のみならず、「みる」側の視点も意識した、双方が「つながる」展示とした。また、Facebookで実行委員会の開催の様子から展示の準備・搬入・作品チェック・設営・展示それぞれの風景や、成蹊大学学生ボランティア本部 Uni.の皆さんよりいただいたコメントを添えて初出展作家の作品紹介や監修の三友周太氏による武蔵野アール・ブリュット 2021 ガイドツアーを配信した。



□ムサシノサウルス“834頭”が大集合！黒川みつひろといっしょに作る展覧会

2021年7月31日(土)―8月11日(水)

開催日数：12日間

入場者数：2,293人

協力：小峰書店・こぐま社

連動型子ども向けワークショップ①作品公募編として展開。

恐竜絵本作家として活躍し続ける、黒川みつひろ氏を講師に、「井の頭恩賜公園の井の頭池から

恐竜の骨が見つかった」という設定で、架空の恐竜「ムサシノサウルス」の絵をはがきサイズで募集。

応募作品を黒川氏の「恐竜トリケラトプス」シリーズ(小峰書店)などの代表的な絵本原画とあわせて展示。

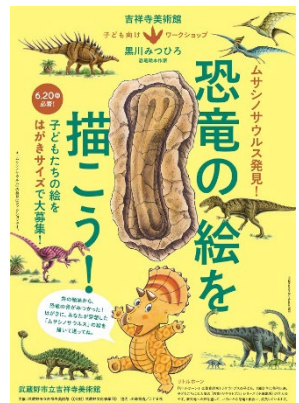
834頭のムサシノサウルス全点を装丁して展示した。

応募作品のなかから、連動型子ども向けワークショップ②体験(+YouTube動画配信)編(講師：

小池アミイゴ氏)に登場する、主人公のモデル「ハジメサウルス」を決定した。展示風景および、

審査風景や審査結果は、吉祥寺美術館のYouTubeチャンネルで公開。参加者全員に、黒川氏が

描いた、「ムサシノサウルス」のポストカードを郵送した。



はしもとみお木彫展 いきものたちの交差点

2021年8月21日④—10月3日⑤

開催日数:42日間

入場者数:19,115人[平均 455人/日]

9/11④:音楽ライブ(2回公演)

出演:山田稔明、近藤研二、イトケン(各氏ミュージシャン)、はしもとみお

9/12⑤:ワークショップ「木彫りのブローチをつくってみよう!」(2回入替制)

講師:はしもとみお

会期中:参加型イベント【愛猫の新たな魅力発見!みんなの猫の絵画展】

楠から様々な動物の肖像彫刻をつくる彫刻家はしもとみお。その彫刻は単なる動物像ではなく、「今生きている」もしくは「生きていた」特定のいきものたちの姿である。阪神淡路大震災で被災し、震災で亡くなった動物たちを目の当たりにしたことで「命とは何か」と考え、「輪郭を保つもの」だと思い至ったはしもとは、失った命の形や今生きている動物たちの美しい姿をありのままに残すため美術の道へと進み、「動物の命」をテーマに制作を続ける。あるがままの命をそのまま楠から彫り出された彫刻たちは、ただの型取りではなく、温もりと愛らしさ、そして今にも動き出しそうなほどの生命感に溢れている。本展では、制作のために描かれたスケッチもあわせて紹介。



武蔵野市平和の日条例制定 10 周年記念事業 大石芳野写真展 瞳の奥に—戦争がある—

2021年10月16日④—11月28日⑤

開催日数:42日間

入場者数:3,709人[平均 88人/日]

主催:(公財)武蔵野文化事業団、武蔵野市、武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

協力:クレヴィス、フレームマン、フォトグラファーズラボラトリー

10/30④:大石芳野によるスライドトークショー&創作能「長崎の聖母」

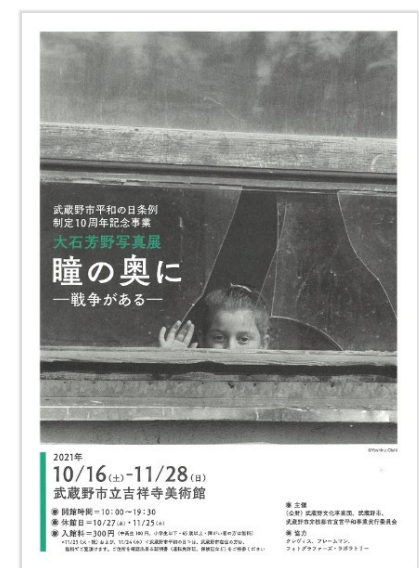
出演:大石芳野、青木健一(観世流シテ方能楽師) 於・吉祥寺シアター

終戦の前年、武蔵野市に初めて空襲のあった昭和 19 年 11 月 24 日は「武蔵野市平和の日」と定められ、市は平和都市として未来の子どもたちに平和な世界を継承していくために、戦争の悲惨さと、平和の大切さを発信し続けていくことが必要であると考え、さまざまな平和事業を行っている。本展はそのひとつとして位置づけられ、武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会、武蔵野市、武蔵野文化事業団の共催で吉祥寺美術館にて開催。

写真家・大石芳野は約40年にわたって戦争の犠牲になった人びとを取材してきた。

本展第 I 部では、ベトナム、ラオス、カンボジア、アフガニスタン、コソボ、スーダンに焦点を

当て、枯れ葉剤、不発弾、虐殺、破壊、民族浄化、紛争などに巻き込まれ傷ついた各国の子どもたちを取り上げた。第 II 部では、東京、沖縄、広島、長崎と、それぞれの地で少年少女時代に太平洋戦争の犠牲となり、苦しみを抱えつつも戦後を生き抜いてきた人々の姿を写し出した。第 III 部では、ゼロ戦など軍用飛行機のエンジンを生産していた、「中島飛行機武蔵製作所」にも焦点を当て、武蔵野市内に住む戦争体験者 7 名(島津好江/中里崇亮/水野潔子/藤本竹次/木岡紀久代/柴田フミノ)を大石が新たに取材、撮影した写真をロビーに展示した。会期中、NHK「首都圏ネットワーク」(10 月 21 日放映)および「おはよう日本」(11 月 8 日放映)にて、「終わらない戦争を撮る〜写真家 大石芳野」特集が放映された。



土田圭介鉛筆画展 心の灯り

2022年1月8日㊥—2月27日㊤

開催日数:48日間

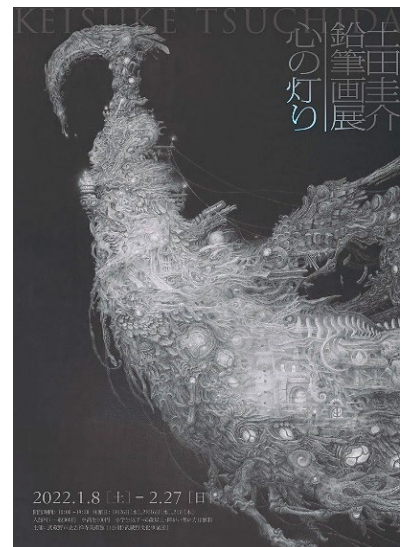
入場者数:5,144人[平均 107人/日]

1/29㊥・2/13㊤:ミニトーク&ワークショップ 講師:土田圭介

2/6㊤:スペシャルトーク 土田圭介×倉本美津留(放送作家・アート・プロデューサー)

10H から 10B の鉛筆を駆使し、縦のストロークを無数に描き重ね、緻密で圧倒的なモノクロームの幻想空間を創出する鉛筆画家、土田圭介。土田は「心」をモチーフに描き続けている。「心の動きは言葉では表せるが形にできない。けれども、形の無いものに形をつけていくとどうなるのか、それを作品にしてみたい」と語るように、心を静かに見つめ、鉛筆のみで声高に主張することなく、自身の中にあるものを掘り起こして形にする。土田の作品の一番の特徴は、緻密に一筆一筆描きこまれた縦のストロークである。鉛筆画の写実的なリアリティとは異なり、縦の線を重ねることによって生まれる“揺らぎ”は、独特のリズムを生み出すとともに、霧がかかったような幻想的な世界を構成する。それは、“形の無いもの”に形を与えることに専念する土田のイメージした世界感を的確に表現することとなった。

本展では、これまでの代表作に加え、祈りをテーマに圧倒的なスケール感と深い物語性で描かれた新作《行方》を展示。



□ガオー！ムサシノジュラシック～小池アミイゴと子どもたちのコラボ展

2022年3月3日㊥—29日㊤

開催日数:27日間 ※ロビーと記念室での展示

入場者数:597人

ロビー観覧者:260人

総数 852人[平均 31人/日]

協力:パニーコルアート株式会社



講師にイラストレーターの小池アミイゴ氏を迎え、連動型子ども向けワークショップ②

体験編として実施。連動型子ども向けワークショップ①吉祥寺美術館×恐竜絵本作家 黒川みつひろ

「ムサシノサウルス発見！ 恐竜の絵を描こう！」において、応募作品のなかから

決定した恐竜「ハジメサウルス」を主人公に、武蔵野市内の幼稚園・小学校の子どもたちを対象として「小池アミイゴのだれでも絵が描けるワークショップ ムサシノジュラシック大作戦！」の参加者を募集。240人を超える応募があったが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、急遽、対面のワークショップは中止とし、抽選で選ばれた40組59名および、地域連携の観点からの特別参加「まちの保育園 吉祥寺」の4歳児クラス(12名)、「社会福祉法人武蔵野」の創作活動チーム「つむぐと」(90名)を含め、すべて、ZOOMによる、リモートで実施。集まった作品は、小池アミイゴ氏監修のもと、美術館ロビーを中心に約260点を展示した。浜口陽三記念室「悠久のとき」、萩原英雄記念室「無垢な表現」のテーマと連動し、ワークショップ制作作品の一部を展示。なお、展覧風景の記録動画、および、小池アミイゴ氏による制作動画は、吉祥寺美術館のYouTubeチャンネルにて動画を配信。コロナ禍において、自宅からでも子どもたちが家族と一緒に、展覧会の模様を体験できるようにした。

1-2 常設展示 浜口陽三記念室・萩原英雄記念室

	会期	浜口陽三記念室 展覧会名	萩原英雄記念室 展覧会名
平成 24 年度(2012)			
33	2012年2月23日(㊦)ー7月1日(㊦)	開館10周年記念 見つめるちから -ここ・そこ・どこか-	
34	7月5日(㊦)ー11月4日(㊦)	僕の好きなもの	On the way -その途上で-
35	11月8日(㊦)ー2013年2月17日(㊦)	パリに暮らして	はじまり
36	2月21日(㊦)ー3月26日(㊦) (引き続き6月23日(㊦)まで)	海をわたってみえたもの	哀愁のサーカス
平成 25 年度(2013)			
36	2013年2月21日(㊦)ー6月23日(㊦)	海をわたってみえたもの	哀愁のサーカス
37	6月27日(㊦)ー10月20日(㊦)	花をめぐりて	魅惑の女
38	10月24日(㊦)ー2014年2月23日(㊦)	闇に浮かぶフォルム	美しい色を求めて
39	2月27日(㊦)ー3月25日(㊦) (引き続き6月29日(㊦)まで)	ただよう果実	いつもと違う世界へ
平成 26 年度(2014)			
39	2014年2月27日(㊦)ー6月29日(㊦)	ただよう果実	いつもと違う世界へ
40	7月3日(㊦)ー11月3日(㊦)	グルメの食卓	戯れる線の創出
41	11月6日(㊦)ー2015年2月22日(㊦)	水の情景	冬の旅
42	2月26日(㊦)ー3月24日(㊦) (引き続き6月28日(㊦)まで)	ひとみの引力 振れる眼差し	版の顔、線の表情
平成 27 年度(2015)			
42	2015年2月26日(㊦)ー6月28日(㊦)	ひとみの引力 振れる眼差し	版の顔、線の表情
43	7月2日(㊦)ー10月18日(㊦)	ささやかに、閃光	あじさいの頃 …萩原英雄の青い世界
44	10月22日(㊦)ー2016年2月28日(㊦)	静と動の対比	木っ端の宇宙
45	3月3日(㊦)ー3月29日(㊦) (引き続き7月18日(㊦)(㊦)まで)	南桂子ー遠くをみる	ギリシャ神話への眼差し
平成 28 年度(2016)			
45	2016年3月3日(㊦)ー7月18日(㊦)(㊦)	南桂子ー遠くをみる	ギリシャ神話への眼差し
46	7月21日(㊦)ー11月13日(㊦)	語り始める線 ー浜口陽三のメゾチント、中島邑水の書	木版画革命
47	11月17日(㊦)ー2017年2月26日(㊦)	静かに、想う	風景と心
48	3月2日(㊦)ー3月28日(㊦) (引き続き5月28日(㊦)まで)	色の効果、魅せるグラデーション ー浜口陽三、沢田哲郎	天空を翔る色
平成 29 年度(2017)			
48	2017年3月2日(㊦)ー5月28日(㊦)	色の効果、魅せるグラデーション ー浜口陽三、沢田哲郎	天空を翔る色

49	6月1日㊦-10月15日㊧	1つのさくらんぼ、たくさんのさくらんぼ	冷たい石
50	10月19日㊦-2018年2月25日㊧	黒の表情	木と色、銅と線
51	3月1日㊦-3月27日㊨ (引き続き7月8日㊧まで)	かすかなざわめき	星ふる夜
平成30年度(2018)			
51	2018年3月1日㊦-7月8日㊧	かすかなざわめき	星ふる夜
52	7月12日㊦-11月11日㊧	浜口陽三とメゾチント -南桂子の新収蔵品とともに	萩原英雄と富士-私の生きた証
53	11月15日㊦-2019年2月24日㊧	ここにしろす ころろをしろす	抽象、無垢なるもの
54	2月28日㊦-3月26日㊨ (引き続き6月9日㊧まで)	女と鳥…孤高の瞳と銅の鳥	女と鳥…貴婦人とイソップ絵噺
平成31/令和元年度(2019)			
54	2019年2月28日㊦-6月9日㊧	女と鳥…孤高の瞳と銅の鳥	女と鳥…貴婦人とイソップ絵噺
55	6月13日㊦-11月10日㊧	パリからサンフランシスコへ …刷るといふこと	美の造形言語
56	11月14日㊦-2020年2月23日㊧	浮かびくるかたち	抒情としての空間
57	2月27日㊦-3月24日㊨ (引き続き6月7日㊧まで)	静謐な世界	線の表現 一木版による凹版
令和2年度(2020)			
57	2020年2月27日㊦-9月22日㊨㊩ (新型コロナウイルス感染症拡大防止により3月2日 から5月31日まで臨時閉館したため会期延長)	静謐な世界	線の表現 一木版による凹版
58	10月1日㊦-2021年2月28日㊧	ぶどうとレモン	物語をカタチにする
59	3月4日㊦-3月30日㊨ (引き続き5月30日㊧まで)	黒のうちとそとに	心のむこう
令和3年度(2021)			
59	2021年3月4日㊦-5月30日㊧ (新型コロナウイルス感染症拡大防止により4月 25日から臨時閉館のまま会期終了)	黒のうちとそとに	心のむこう
60	6月3日㊦-10月3日㊧	まなざしの軌跡	色彩と線 —《イソップ絵噺》
61	10月16日㊦-2022年2月27日㊧	終わらない情景	色に浮かぶ
62	3月3日㊦-3月29日㊨ (引き続き2022年度へ)	悠久のとき	無垢な表現

2 教育普及事業

2-1 ワークショップ

平成 24(2012)年度

40) カラフルミニしゃみせんをつくろう

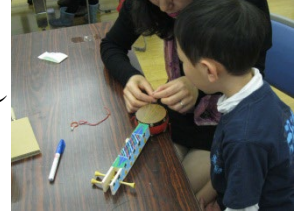
2012年5月3日(土)祝

吉祥寺音楽祭にちなみ、でんでん太鼓を応用した「ミニしゃみせん」を親子で作って弾いて楽しむ。

講師：平山佳子(小唄・三味線奏者)、松尾由佳(デザイナー)

対象：小学生以上のお子様と保護者 15組 30名 参加費：一組 1000円

参加者：8組 16名



41) たのしもう、リトグラフ

2012年6月9日(土)、16日(土)、23日(土) [3日間]

企画展「追悼・一原有徳展 ヒラケゴマ」にちなみ、リトグラフやモノタイプ版画に挑戦。

講師：楚山俊雄(版画家)

対象：3日間参加できる方 15名 参加費：2000円

参加者：14名



42) 傘のワークショップ 星空のパラソルをつくろう☆

2012年7月16日(月)祝

消しゴムはんこに星などの形を彫り、ビニール傘に押しつけてオリジナル傘を作る。

講師：小川綾子(デザイナー)

対象：小学生以上 10名(保護者同伴可) 参加費：1000円

参加者：9名



43) 傘のワークショップ 傘をリサイクルしておさかなをつくろう

2012年7月28日(土)

不要になった傘を再利用しておさかなのマスコットを作る。

講師：井上萌子(CASA PROJECT)

対象：小学生以上のお子様とその保護者 15組 30名 参加費：一組 500円

参加者：7組



44) 初めての水彩画・秋の草花を描こう

2012年10月20日(土)

平成 24 年度企画展「深沢紅子展 野の花によせて」にちなんだ初心者対象の水彩画講座。

講師：須藤由希子(画家)

対象：小学生以上 15名 参加費：1000円

参加者：16名



45) 手作りフラワーで秋の花雑貨をつくろう

2012年11月3日(土)祝

平成 24 年度企画展「深沢紅子展 野の花によせて」にちなんで、不織布を素材にした花飾りを作る。

講師：森ゆり子(ラッピングコーディネーター、airy*works 主宰)

対象：小学生以上 15名 参加費：1000円

参加者：17名



46) **木版画講座・年賀状をつくろう**

2012年12月1日⊕、12月15日⊕ [2日間]

常設の萩原英雄記念室に関連して、本格的な木版画で年賀状を制作する。

講師：井上厚(木版画家)

対象：両日参加でき、彫刻刀を使用したことがある方 20名 参加費：2000円

参加者：17名



47) **クリスマスワークショップ サンタクロースシカをつくろう**

2012年12月23日ⓂⓃ

クリスマスを彩る、サンタクロースの形をしたオリジナルマトリョーシカを作る。

講師：宮崎民子(グラフィックデザイナー、おもちゃコンサルタント)

対象：小学生以上12名 参加費：1000円

参加者：13名



平成 25(2013)年度

48) **動物たちの音楽会**

2013年4月28日⊕

吉祥寺音楽祭にちなみ、佐々木マキの絵本に登場する変な動物たちを想像しながら身近なもので楽器をつくる。

講師：橋本リエ(クリエイティブディレクター)、松尾由佳(デザイナー)

対象：小学生15名 参加費：1000円

参加者：4名(+保護者)



49) **親子ワークショップ はじめての銅版画**

2013年5月4日⊕

常設の浜口陽三記念室に関連して、銅版画制作に挑戦する。エッチングを中心に、様々な技法を学び、創作について理解を深めるとともに親子で楽しむ。

講師：光平伴治(銅版画家)

対象：小学生(高学年)~中学生とその保護者 10組 20名 参加費：ひとり1500円

参加者：6組 11名(+同伴1名)



50) **手刷りでオリジナルの豆てぬぐいをつくろう**

2013年7月27日⊕(大人の部)、28日Ⓜ(子どもの部)

はさみやカッターで思い思いに紙を切り抜き、それを型にして、シルクスクリーン印刷で手刷りのオリジナル豆てぬぐいをつくる。

講師：やまさき薫(シルクスクリーン版画作家)

対象：高校生以上、小・中学生 各日10名 参加費：1000円

参加者：



51) **親子ワークショップ 土人形絵付け体験**

2013年8月24日⊕

企画展示室で開催中の「佐藤真生展」の作家本人が講師となり、出品作品のモチーフのひとつでもある金魚の人形に絵付けをする。

講師：佐藤真生(出展作家)

対象：小学生以上の親子 10組 20名 参加費：一組1000円

参加者：9組 18名



52) **型染で葉づくり**

2013年9月14日⊕

型紙を彫って型をつくり、天然顔料で柄を染める伝統的型紙技法で、読書に必須の葉をつくる。

講師：岸本花弥子(みはに工房)

対象：小学生以上10名 参加費：1000円

参加者：



53) **足袋作り教室**

2013年9月23日(月)祝、28日⊕

着古した服などの端切れを持ち寄り、世界で一つのデザインでオリジナルの足袋を縫う。

講師：藤山美紀子、藤山憤頭(着物・和雑貨・リメイク『ワモノヤトウキョウジョウ』主宰)

対象：小学生以上10名 参加費：1000円

参加者：



54) **ワークショップ 銅版画体験講座**

2013年10月26日⊕、11月2日⊕

常設の浜口陽三記念室に関連して、銅版画技法のうち、線の表現をするエッチングと面ごとに明暗トーンをつけるアクアチントに挑戦する。

講師：光平伴治(銅版画家)

対象：小学生以上15名 参加費：2000円

参加者：13名



55) **紙版画制作体験**

2013年11月23日⊕(祝)

特殊な紙を使って、ニードルで引っかく、手でやぶる・はがす、紙やすりやルーレットでこするという易しい技法で銅版画のような趣ある版画を制作。

講師：さかたきよこ(版画家)

対象：小学生以上10名 参加費：500円

参加者：12名



56) **羊毛フェルトでティーコゼー作り!**

2013年12月23日(月)祝

羊毛に石鹼水を含ませ摩擦することでつくるフェルトを実体験し寒い季節のティータイムに欠かせないティーコゼー作りを行う。

講師：太田有紀(NICO)

対象：小学生以上10名 参加費：1000円

参加者：12名



57) **ワークショップ 部屋に飾る木版画**

2014年1月26日⊕、2月23日⊕

ベニヤ板に色々なく(かたち)を彫り、版を回転させたり色を変え重ね刷りをすることで、思いがけなく生み出される文様のような美しい木版画作りに挑戦する。

講師：井上厚(版画家)

対象：小学生以上15名 参加費：2000円

参加者：13名



58) はじめての影絵

2014年3月21日(金)祝

色紙、セロファン、カラーフィルター等を組み合わせて、ファンタスティックな影絵をつくる。完成後はライトアップして鑑賞会をおこなう。

講師: 浜崎ゆう子(影絵作家)

対象: 小学生以上 15名 参加費: 2000円

参加者: 17名



平成 26(2014)年度

59) 木版画ワークショップ

大人の部「小さな木版で作る紙小物」

2014年5月4日(土)

川上澄生展に関連して実施。小さくシンプルな木版を彫り、摺り方を様々に応用して、便箋やポチ袋などの実用小物をつくる。

講師: 二宮美由紀(木版画家)

対象: 中学生以上

参加費: 1,000円

参加者: 15名



60) 木版画ワークショップ

親子の部「彫らないから怖くない！ペタペタ木版画に挑戦！」

2014年5月5日(月)祝

川上澄生展に関連して開催。彫刻刀を使用せず、木版にバルサ材を切り貼りして、紙版画のような味わいの作品をつくる。

講師: 二宮美由紀(木版画家)

対象: 幼稚園以上か小学生以下の子どもとその保護者

参加費: 一組 1,000円

参加者: 3組 5名



61) 映像ワークショップ

吉祥寺の〈今〉を記録しよう！remoscope workshop in 吉祥寺

2014年6月14日(土)

「われわれは〈リアル〉である」展に関連して開催。remoscope とは、remo が考案した映像ワークショップ。リュミエール・ルール*に則って撮影すれば、初心者・経験者を問わず「作品」をつくることができ、制作された作品を、みんなで鑑賞し句会のように楽しむ。

*リュミエール・ルール(6つのルール)… 固定カメラ/無音/無加工/無編集/ズーム無し/最長1分

講師: remo[NPO 法人 記録と表現とメディアのための組織]

対象: 中学生以上 参加費: 1,500円

参加者: 8名



62) あなたもデザイナーになろう！オリジナルパターンで壁紙づくり

2014年7月21日(月)祝

クリアファイルを利用してステンシルの版を作り、大きな紙に反復させてオリジナルの壁紙を作る。インテリアとしてはもちろん、模様紙として工作にも活用できる。

講師: 小川綾子(インテリアコーディネーター)

対象: 中学生以上

参加費: 1,000円 参加者: 5名



63) 乙女の宝物入れ！？ 手縫いでがま口小物入れをつくる

2014年9月6日㊥

当館に常設展示されている乙女の宝物入れに関する展覧会に関連して開催。講師の用意する古布、和洋のヴィンテージファブリックから表地を選び、がま口の小物入れを手縫いで製作する。

講師：sova* (イシカワカオル 布作家)

参加費：1,000円

参加者：12名



64) 紙版画でつくるクリスマスカード

2014年12月13日㊥

紙を「きる・ひっかく・はがす」というやさしい技法で銅版画のように魅力的な凹版画を作る。刷り上がった版画を窓付きの台紙にはさみ、表紙にアルファベットのハンコを押して、オリジナルのクリスマスカードを作る。

講師：タダジュン(イラストレーター)、さかたきよこ(版画家)

対象：小学生以上

参加費：1,000円

参加者：13名



65) 浜口陽三の技に触れる メゾチント体験講座

2015年3月7日㊥、14日㊥

当館に常設展示されている浜口陽三の技法を体験するとともに、作品の鑑賞と理解に繋げていく。

講師：光平伴治(銅版画家)

対象：小学生以上

参加費：2,000円

参加者：14名



平成 27(2015)年度

66) 井の頭池モチーフで手刷りのミニバッグをつくろう

2015年5月9日㊥

はさみやカッターで紙を切り抜き型にして、シルクスクリーン印刷で手刷りの布バッグをつくる。

講師：やまさき薫(シルクスクリーン版画家)

対象：小学生以上

参加費：1,000円

参加者：5名



67) ガリ版でポストカードをつくろう

2015年8月23日㊥

今では販売されていない30～40年前の道具を使って、その頃の時間を味わいながらガリ版でポストカードを印刷する。

講師：玉村塔(謄写堂主宰)

対象：小学生以上

参加費：1,500円

参加者：9名



68) 漆喰鏝絵(しっくいこてえ)制作体験

2015年9月12日㊥(午前・午後計2回)

伊豆の長八展に関連して開催。鏝を使って漆喰のレリーフをつくる。

講師:伊豆の長八美術館

対象:中学生以上

参加費:1,000円 参加者:24名



69) 光る泥団子づくり

2015年9月13日㊥/10月3日㊥

伊豆の長八展に関連して開催。
漆喰を磨いてピカピカのカラーボールをつくる。

講師:東京都左官職組合連合会青年部平成会(9/13)

伊豆の長八美術館(10/3)

対象:小学生以上

参加費:1,500円 参加者:55名(2回計)



70) 柿渋であずま袋を染めてみよう

2015年11月7日㊥

高い防水・防腐効果もあり、古くから庶民生活に根付いてきた”柿渋”。好きな模様を柿渋で描き、オリジナルの”あずま袋”を作る。

講師:武井春香(染織家)

対象:小学生以上

参加費:1,000円 参加者:14名



71) カンパセーション_ピース展 『あとを追う』関連ワークショップ

3つの読書会 その1 『あとを追う』

2016年2月21日㊥

本展のために制作された『あとを追う』を題材に、「記録を読むこと」について考える。

3つの読書会 その2 『十六歳の日記』

2016年2月26日㊥

川端康成『十六歳の日記』を題材に、「人間が過去に失つて行くもの」について考える。

3つの読書会 その3 『ペン習字 軍人模範慰問文』

2016年2月27日㊥

戦時中に出版された慰問文の文例集を題材に、「なぞること」について考える。

(3回共通) 進行:AHA! 資料代:各回500円 参加者:8名(3回計)

平成 28(2016)年度

72) ゾウの「はな子」と撮影した写真の募集

2016年～2017年

2016年5月に69歳で亡くなった井の頭自然文化園のゾウのはな子。幅広い世代の人びとによって、様々な時期に撮影されてきたはな子の記録と記憶の収集・保存・活用を通して、はな子の、武蔵野市周辺の、さらには戦後日本の歩みをたどることを目指した。約550点の写真が集まる。集まった写真を編集し、記録集『はな子のいる風景』として2017年秋に発刊。

企画 AHA! [Archive for Human Activities / 人類の営みのためのアーカイブ]
共催 (公財)東京動物園協会 井の頭自然文化園



73) 『チリとチリリ うみのおはなし』より

親子でおそろい！貝殻ペンダント&ブローチ

2016年10月9日㊥

どいかや展に関連して開催。『うみのおはなし』で紹介される、チリとチリリにぴったりのたからものをイメージして、親子でおそろいの貝殻のペンダント、ブローチを制作した。

講師:中安麗(ジュエリー作家)

参加費:1,000円 参加者:20名(親子10組)



74) 『チリとチリリ ちかのおはなし』より

羊毛フェルトでお花の小物づくり

2016年10月22日㊥

どいかや展に関連して開催。『ちかのおはなし』で紹介されるおはなばたけをイメージして、小物づくりを行った。

講師:吉谷美世子(染織造形作家)

対象:中学生以上

参加費:1,000円 参加者:32名(親子15組)



75) 『チリとチリリ はらっぱのおはなし』『チリとチリリ ゆきのひのおはなし』より

親子でお料理教室 ミックスジュースとおんせん蒸しパンに挑戦

2016年10月29日㊥

どいかや展に関連して開催。『はらっぱのおはなし』『ゆきのひのおはなし』で紹介されるミックスジュースとおんせんむしパンをイメージしたものを、合成着色料を使用しない、野菜を使った料理として、講師がデモンストレーションを行った後、親子で試食。

講師:浅倉ユキ(ゆるベジ料理研究家・「another~kitchen」主宰)

場所:「another~kitchen」吉祥寺スタジオ

参加費:800円

参加者:19名(親子9組)



76) どいかやと一緒に“チリとチリ”のかんたん絵本づくり

2016年11月3日(木)祝

どいかや展に関連して開催。色鉛筆を使い、オリジナリティあふれる“チリとチリ”の絵本づくりを実践した。

講師:どいかや(出展作家)

対象:小学生以上

参加費:1,000円 参加者:23名(親子11組)



77) 『チリとチリ まちのおはなし』より
お花色の毛糸でマフラーを織ろう

2016年11月6日(日)

どいかや展に関連して開催。チリとチリのマフラーをイメージしながら、オリジナルのマフラーを作成。

講師:城達也(織作家・「手織工房じょうた」主宰)

場所:手織工房 じょうた<吉祥寺>

対象:小学生以上

参加費:1,500円 参加者:10名



平成 29(2017)年度

78) えのぐのゆくえ、パレットのおしえ

2017年4月22日(土)

北村周一展に関連して開催。キャンパスにアクリル・ガッシュをもちいてさまざまな色調の灰色を表現。

講師:北村周一(出展作家)

対象:高校生以上

参加費:1,000円 参加者:15名



79) 高島那生のワークショップ “きみのだるまはどんなかお”

2017年7月29日(土) 7月もおわり編/8月19日(土) 8月のなかば編

高島那生展に関連して開催。高島那生氏手作りの段ボールだるまに色を塗った。

講師:高島那生(出展作家)

対象:小学校1~6年生

参加費:1,000円 参加者:57名(両日計)



平成 30(2018)年度

80) 鑑賞プログラム「あかちゃんといっしょに美術館！」

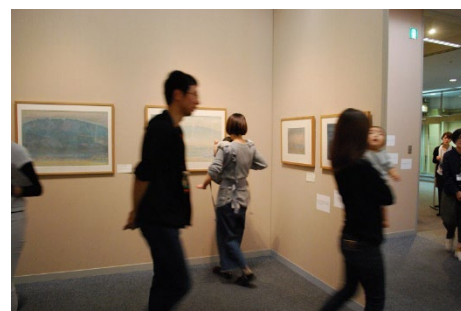
2018年6月13日(木)・6月17日(日)

江上茂雄展に関連して開催。乳児とその保護者が作品鑑賞を楽しんだ。

ナビゲーター:杉浦幸子(武蔵野美術大学教授)

対象:3~12ヶ月齢の乳児とその保護者

参加費:無料(保護者のみ要入館) 参加者:15名(両日計、親子9組)



81) 挑戦！小貫政之助の版表現

2018年9月8日㊥

小貫政之助展に関連して開催。小貫政之助の作品を参考に紙版画を制作。

講師：展覧会担当学芸員

対象：どなたでも

参加費：1,000円 参加者：13名



平成 31 / 令和元(2019)年度

82) 親子で挑戦！水彩モノタイプ

2019年5月5日㊤(2回入替制)

「移ろう季節を感じて」展に関連して開催。塩ビ板に水彩絵の具で描いた絵をプレス機で紙に転写。

講師：常田泰由(版画家・東京造形大学非常勤講師)

対象：幼稚園以上小学生以下の子どもとその保護者

参加費：1,000円 参加者：16名(8組、2回計)



83) 永沢まことのペン一本で絵を始めよう デモンストレーションと実技指導

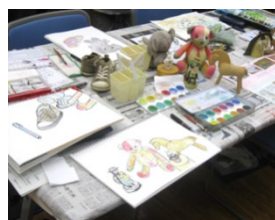
2019年5月19日㊤

「移ろう季節を感じて」展に関連して開催。愛用品など身近なモチーフをペンによる線描で描き透明水彩絵の具で着色。

講師：永沢まこと(イラストレーター)

対象：どなたでも

参加費：1,000円 参加者：15名



84) 水彩モノタイプを制作しよう

2019年5月26日㊤(2回入替制)

「移ろう季節を感じて」展に関連して開催。塩ビ板に水彩絵の具で描いた絵をプレス機で紙に転写。1点限りの版画表現を体験。

講師：常田泰由(版画家・東京造形大学非常勤講師)

対象：どなたでも

参加費：1,000円 参加者：19名(2回計)



85) 野外彫刻ミニ鑑賞ツアー

2019年7月27日㊥・8月31日㊥

小島廣志展に関連して開催。総合体育館および市役所敷地内に設置されている武蔵野市所蔵の野外彫刻作品を鑑賞。野外彫刻のあり方について意見交換もおこなった。

講師：坂口寛敏(美術家・東京藝術大学名誉教授・(公財)武蔵野文化事業団理事)

対象：どなたでも

場所：武蔵野総合体育館・武蔵野市役所

参加費：無料 参加者：13名(2回計)



86) 木でつくろう！小さな彫刻

2019年8月24日⊕(2回入替制)

小島廣志展に関連して開催。廣志の彫刻に多い樟をもちいて手のひらサイズの作品を制作。

講師：内平俊浩(彫刻家)、江幡三香(彫刻家、スタジオ鼎代表)
アシスタント：木下敦也、山添潤、政田葉子
対象：どなたでも
参加費：1,000円 参加者：15名(2回計)



87) 親子いっしょに“いきものモビール”を作ろう

2019年9月28日⊕

きくちちき展に関連して開催。きくち氏が事前に用意した“いぬ”“ねこ”“かえる”“ちょうちょ”に親子で着彩しモビールを制作。終了後、モビールは「武蔵野プレイス2階こどもライブラリー」にて、きくちちきの絵本特集と併せて展示された。

講師：きくちちき(出展作家)
対象：3歳～小学生以下の子どもとその保護者
参加費：1組 1,000円 参加者：24名



88) 『ちきばんにゃー』で絵本みたいに行進しよう

2019年10月29日⊗

きくちちき展に関連して開催。きくちちきの代表作絵本『ちきばんにゃー』(学研プラス)をテーマに歌と楽曲を良原リエ氏、振付を加藤紗希氏が創作。音楽室内で子どもたちにレクチャー後、本番は一般客のいる当館ロビーおよび、企画展示室内で披露。

講師：良原リエ(音楽家)、加藤紗希(振付師・俳優)
対象：4～6歳の幼児とその保護者
参加費：無料 参加者：24名



89) 打ち込み象嵌(ぞうがん)でコースター作り

2019年11月30日⊕

アルミ板に銅や真鍮(しんちゅう)を打ち込んで模様を付け、籐で縁取りしてコースターを作った。浜口記念室プレートやロビーに展示中の作品について作者の木寺氏から解説。

講師：木寺由布子(鍛金作家)・深井志乃(バスケットリー作家)
対象：小学校4年生以上
参加費：1,000円 参加者： 名



90) 制作体験！ワークショップ

2020年2月11日(火)祝

千田泰広展に関連して開催。2月15日から展示した作品《Room for space》の制作過程を体験。3つのグループに分かれて協力しあいながら、向かいあう壁と壁の間(長さ約17メートル)に、細い糸をゆるやかに懸垂させながら張り巡らせていく作業に取り組んだ。

講師：千田泰広(出展作家)

対象：どなたでも

参加費：無料

会場：武蔵野市民文化会館展示室 参加者：22名



令和2(2020)年度

91) 武蔵野市立吉祥寺美術館と彦坂木版工房の子ども向け動画ワークショップ

「おいしいぶどう すっぱいレモン」よくみてから、かいてみよう！

2020年10月1日より11月8日まで

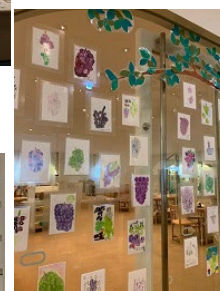
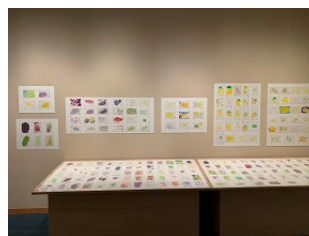
吉祥寺美術館 YouTube チャンネルで配信したワークショップ動画を渡し、ぶどうやレモンを「おいしそう」に描いたハガキ大の作品を募集。全国から218点の作品が集まり、浜口記念室で展示公開したのち武蔵野プレイス、吉祥寺図書館に巡回展示をおこなった。

講師：彦坂木版工房

対象：4歳～小学校6年生

主催：武蔵野市立吉祥寺美術館<(公財)武蔵野文化事業団>

協力：武蔵野市立吉祥寺図書館・武蔵野プレイス<(公財)武蔵野生涯学習振興事業団>



92) 墨流しワークショップ

2021年1月17日(日)(2回入替制)

阪本トクロウ展に関連して開催。水面に広がる模様を和紙に写し取り作品を作る。

講師：阪本トクロウ(出展作家)

対象：①小学生以下の子どもと保護者／②どなたでも

参加費：1,000円 参加者：18名(2回計)



93) 子ども向け公募ワークショップ 吉祥寺美術館×恐竜絵本作家 黒川みつひろ
「ムサシノサウルス発見! 恐竜の絵を描こう!」

2019年11月30日㊥

井の頭恩賜公園の井の頭池から恐竜の骨が見つかったという想定のもと、空想上の「ムサシノサウルス」の絵をハガキサイズで募集。美術館で、黒川みつひろの「恐竜トリケラトプス」シリーズの絵本原画とともに展示。応募作品のなかから、次回の子ども向けワークショップの主人公のモデルを決定。834頭のムサシノサウルスのなかから「ハジメサウルス」が選ばれた。

講師:黒川みつひろ(恐竜絵本作家)
対象:2歳から小学校6年生まで



94) 木彫りのブローチをつくってみよう!

2021年9月12日㊥(2回入替制)

はしもとみお展に関連して開催。好きな動物をモチーフにして、木彫りのブローチを制作。

講師:はしもとみお(出展作家)
対象:中学生以上
参加費:3,500円 参加者:27名(2回計)



95) ミニトーク&ワークショップ

2022年1月29日㊥・2月13日㊥

土田圭介展に関連して開催。作品制作にまつわる話や技法についての話を聞き、実際に土田氏の描き方に倣って制作体験。

講師:土田圭介(出展作家)
対象:どなたでも
参加費:1,000円 参加者:18名(2回計)



96) 吉祥寺美術館×小池アミイゴ ココロもカラダもガオー!

「小池アミイゴのだれでも絵が描けるワークショップ ムサシノジュラシック大作戦!」

2022年2月26日㊥・27日㊥

93において決定した「ハジメサウルス」を主人公に、小池アミイゴ氏のナビゲーションで絵の具遊びをしながら着彩。まん延防止等重点措置発出のため動画配信により実施し、ムサシノサウルスの世界を美術館ロビー空間に展開した。

講師:小池アミイゴ(イラストレーター)
対象:2歳~小学校6年生
参加者:161名



2 - 2 地域との連携（鑑賞授業受入・講座・講師派遣など）

年度	対象	実施場所	内容
2012	武蔵野市立第二小学校3年生	吉祥寺美術館(記念室)	鑑賞授業受入・学芸員による解説
2012	武蔵野市立本宿小学校6年生	吉祥寺美術館(企画展示室・記念室)	鑑賞授業受入・学芸員による解説
2013	武蔵野市立第二小学校3年生	吉祥寺美術館(記念室)	鑑賞授業受入・学芸員による解説
2014	武蔵野市立第二小学校3年生	吉祥寺美術館(記念室)	鑑賞授業受入・学芸員による解説
2015	武蔵野市立第二小学校3年生	吉祥寺美術館(記念室)	鑑賞授業受入・学芸員による解説
2018	きりん塾	きりん塾(吉祥寺本町)	講座「武蔵野市に生きた芸術家たち～織田一磨を中心に」
2019	お父さんお帰りのパーティー (おとぼサロン)	ボランティアセンター武蔵野(吉祥寺北町)	学芸員出張講座「わたしのまちの美術館」 企画展作品鑑賞・学芸員によるギャラリートーク
2020	きりん塾	きりん塾(吉祥寺本町)	学芸員出張講座「武蔵野市ゆかりの芸術家 鼎子・辰之助・廣志一小島家と吉祥寺」
2020	武蔵野市いきいきサロン	サウンズラボ(吉祥寺本町)	学芸員出張講座「武蔵野市ゆかりの彫刻家 小島廣志」
2020	中野区立中野東中学校2年生	吉祥寺美術館(企画展示室)	校外学習(鑑賞授業)受入・担当学芸員へのインタビュー対応
2021	武蔵野市いきいきサロン	サウンズラボ(吉祥寺本町)	学芸員出張講座「野田九浦 武蔵野市ゆかりの日本画家」
2021	武蔵野市いきいきサロン	アライブ武蔵野御殿山(御殿山)	学芸員出張講座「武蔵野に息づく芸術～野田九浦を中心に～」
2021	和光高等学校2年生	吉祥寺美術館(企画展示室)	選択授業「素描」受入・展示作品の鑑賞とスケッチなど
2021	きりん塾	きりん塾(吉祥寺本町)	学芸員出張講座「武蔵野市ゆかりの日本画家・野田九浦とその系譜」
2021	杉並区立荻窪中学校1年生	荻窪中学校(杉並区善福寺)	学芸員派遣(キャリア教育授業・社会人による講演会)



武蔵野市立第二小学校鑑賞授業



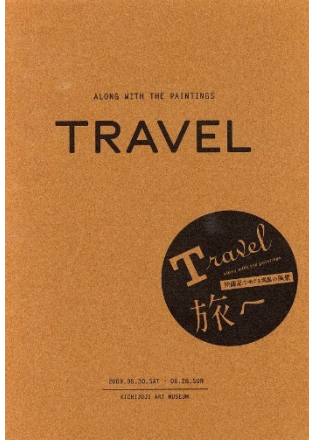
中野区立中野東中学校校外学習

3 刊行物（展覧会図録・所蔵作品図録・記録集）

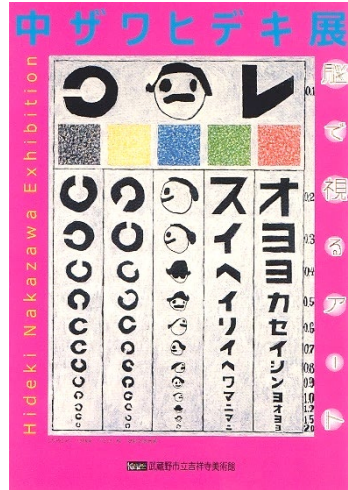
	刊行年	タイトル
1	2002	開館記念 所蔵作品お披露目展
2	2003	浜口陽三 所蔵品図録
3	2007	萩原英雄 所蔵品図録
4	2009	原研哉デザイン展「本」友人、原田宗典がモノ書きだったおかげで。
5	2009	旅へ。所蔵品でめぐる異国の風景
6	2009	上村淳之展－啖禽を描く－
7	2009	写真と民俗学 内藤正敏の「めくるめく東北」
8	2009	斎藤真一展 瞽女と哀愁の旅路
9	2010	カガヤクシゴト 棟方志功展 南砺市立福光美術館所蔵作品より
10	2010	小島鼎子展 青龍社とともに歩んだ女性画家
11	2010	知ることとは愛すること 田淵行男写真展
12	2010	草間彌生展 ワタシというナニモノかへの問い
13	2011	うたう色・あそぶ線 山喜多二郎太展
14	2011	古川タク展「あそびココロ」「1本の線から」
15	2011	池田満寿夫展 組み合わせされたイメージのなかへ（ジュニアガイド）
16	2012	紙上の技法学 筑波大学所蔵石井コレクション
17	2012	追悼・一原有徳展 ヒラケゴマ
18	2012	モジもじ文字
19	2012	深沢紅子展 野の花によせて
20	2012	中ザワヒデキ展 脳で視るアート
21	2013	佐藤真生展 家 HOME
22	2013	宇野信哉展 よみがえる江戸の情景
23	2014	生誕100年 萩原英雄展 天から与えられた僕の仕事
24	2014	鹿沼市立川上澄生美術館所蔵 川上澄生 愉しきノスタルジア
25	2014	われわれは〈リアル〉である 1920s-1950s プロレタリア美術運動からルポルターージュ絵画運動まで：記録された民衆と労働
26	2015	吉祥寺のモダニスト 小島辰之助
27	2015	小林路子の菌類画 きのこと・イロ・イロ
28	2016	カンパセーション_ピース かたちを(た)もたない記録
29	2016	デビュー20周年記念 どいこや展 チリとチリ
30	2017	青龍社の女性画家 小島鼎子
31	2017	北村周一 フラッグ《フェンスぎりぎり》一歩手前
32	2017	コンサベーション_ピース ここからむこうへ 青野文昭展
33	2017	[記録集]はな子のいる風景
34	2018	中澤弘光 明治末～大正〈出版の美術〉とスケッチ
35	2018	江上茂雄：風景日記
36	2018	没後30年・小貫政之助 語りえぬ言葉
37	2018	心をつなぐあたたかな色 柿本幸造の絵本の世界
38	2019	岩本拓郎 すべてのいろとかたち
39	2019	移ろう季節を感じて－所蔵作品より－
40	2019	小島廣志 木に呼ばれる
41	2019	きくちちき絵本展 しろとくろ
42	2020	千田泰広－イメージからの解放－
43	2020	土田圭介鉛筆画展 心の旅

44	2020	岡田紅陽 富士望景—武蔵野から
45	2021	谷充央 風景の表／裏
46	2021	千田泰広—イメージからの解放— 対談記録集
47	2021	武蔵野市平和の日条例制定 10 周年記念事業 大石芳野写真展 瞳の奥に—戦争がある—
48	2022	土田圭介鉛筆画展 心の灯り

「旅へ。」展図録



中ザワヒデキ展図録



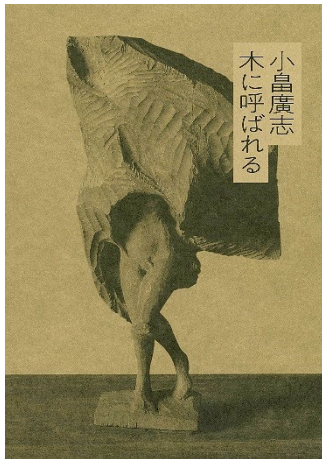
どいかや展図録



土田圭介展図録



小島廣志展図録



小島鼎子展図録



4 市民ギャラリー

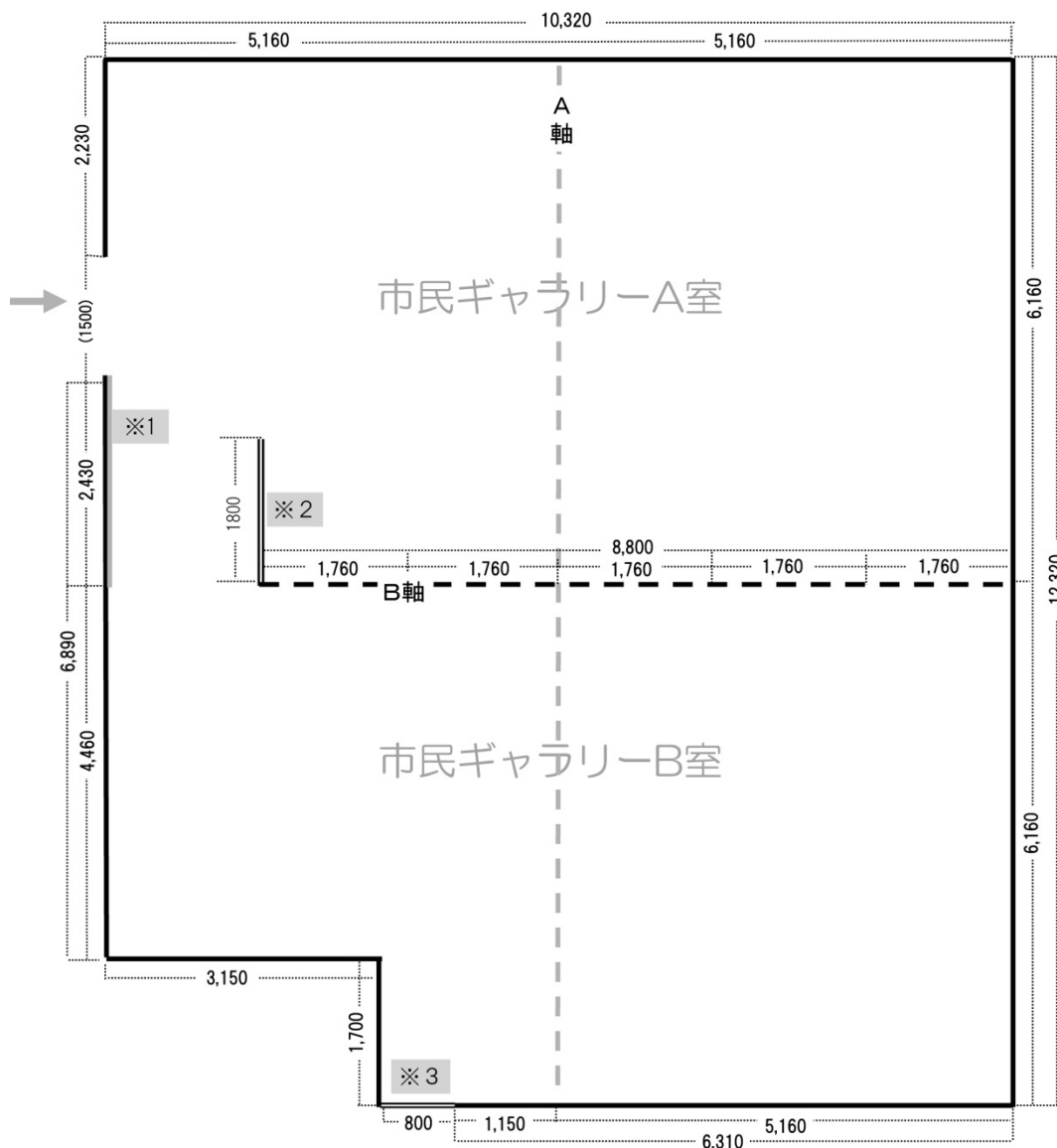
原則7月、11月、3月の指定する期間、企画展示室を市民ギャラリーとして有料で貸し出しています。

展示できる作品の範囲は、絵画、書、工芸等美術に関するもので、企画展示室に展示可能なものに限りです。

ただし、重量のある本格的な彫刻や生花等を展示することはできません。

なお、入場料など金銭を徴収する等の展覧会については、ご利用できません。

施設	面積	壁延長	天井高	6日間の料金
市民ギャラリーA室	73.8 m ²	約 34.6m	3.4m	60,000 円(※市外)
市民ギャラリーB室	73.8 m ²	約 38.4m	3.4m	60,000 円
市民ギャラリーAB室	147.6 m ²	約 73m	3.4m	120,000 円



※1 AB両室のご利用の場合以外は、B室への通路となりますので展示できません。

※2 AB両室のご利用の場合以外は、二重線部分に壁を設置します。

※3 二重線部分はバックヤードへの扉(外開き)です。この部分への展示はできません。

・点線部分はスライディングウォール(可動壁)です。(1枚 幅1.76m、高さ3.25m)

ギャラリーA室またはB室のみのご利用時は、各部屋A軸上に2枚まで使用できます。

AB両室をご利用の場合は、A軸上に6枚まで、B軸上に5枚まで使用できます。

5 入館者数

年度	展示開館日数(日)	入館者数(人)	入館者数累計(人)
平成 13 年度(2001)	52	6,132	6,132
平成 14 年度(2002)	336	19,250	25,382
平成 15 年度(2003)	338	24,783	50,165
平成 16 年度(2004)	334	23,318	73,483
平成 17 年度(2005)	326	19,273	92,756
平成 18 年度(2006)	327	37,449	130,205
平成 19 年度(2007)	333	41,863	172,068
平成 20 年度(2008)	308	53,581	225,649
平成 21 年度(2009)	319	43,187	268,836
平成 22 年度(2010)	318	71,554	340,390
平成 23 年度(2011)	306	32,293	372,683
平成 24 年度(2012)	317	33,941	406,624
平成 25 年度(2013)	308	36,231	442,855
平成 26 年度(2014)	301	27,484	470,339
平成 27 年度(2015)	306	53,688	524,027
平成 28 年度(2016)	299	60,857	584,884
平成 29 年度(2017)	300	23,551	608,435
平成 30 年度(2018)	297	38,171	646,606
平成 31 / 令和元年度(2019)	245	22,196	668,802
令和 2 年度(2020)	213	9,604	678,406
令和 3 年度(2021)	244	32,563	710,969

※貸出施設(市民ギャラリー、音楽室)のみの利用者は含まない。

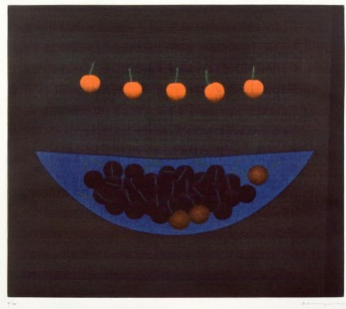
※緊急事態宣言発出による臨時閉館期間(令和 2 年度 47 日間、令和 3 年度 34 日間)は展示開館日数に含まない。

6 武蔵野市所蔵作品概要

武蔵野市には、大正期から昭和期にかけて多くの画家や文芸家が集まり、活発な芸術運動が展開されてきました。1972(昭和47)年に日本画家・野田九浦の作品および遺品を受贈、以降も武蔵野市ゆかりの作家やその遺族、ゆかりの方から作品が寄贈されたほか、浜口陽三・萩原英雄両作家からの寄贈などによって、特徴をもったコレクションが出来上がりました。現在の収蔵作品数は約 2,600 点にのぼります。

<概要>

版画	浜口陽三、萩原英雄、織田一磨、清水昭八、南桂子、沢田哲郎、一原有徳 他
日本画	野田九浦、小島鼎子、永田春水 他
油彩画	江藤純平、江崎寛友、大津鎮雄、小島辰之助、堀田清治、山喜多二郎太 他
彫刻	北村西望、小島廣志、高田博厚 他
書	中島邑水、上條信山 他
写真	岡田紅陽 他
ミクストメディア等	永沢まこと、岡部昭 他



浜口陽三
「さくらんぼと青い鉢」
1976年 カラーメゾチント
29.0×33.0 cm



萩原英雄
「石の花(赤)」
1960年 木版・紙
93.7×63.5 cm



織田一磨
「井之頭の池」
1931年 石版・紙
43.5×59.0 cm



1951年 絹本着色
106.5×68.0 cm



江藤純平
「母子」
1961年 油彩・キャンバス
130.0×97.0 cm



岡田紅陽
「雲表に聳ゆ」
1942年 ゼラチン・シルバー・プリント
64.5×85.9 cm

7 施設概要

建物概要：F & F（エフエフ）ビル

用途 複合商業施設
竣工年 1972（昭和47）年3月
築年 40年（2012年3月現在）
建物構造 鉄骨鉄筋コンクリート造及鉄骨造（SRC）／地下2階・地上7階建
改築歴 2006（平成18）年10月 耐震工事

武蔵野市立吉祥寺美術館：7階

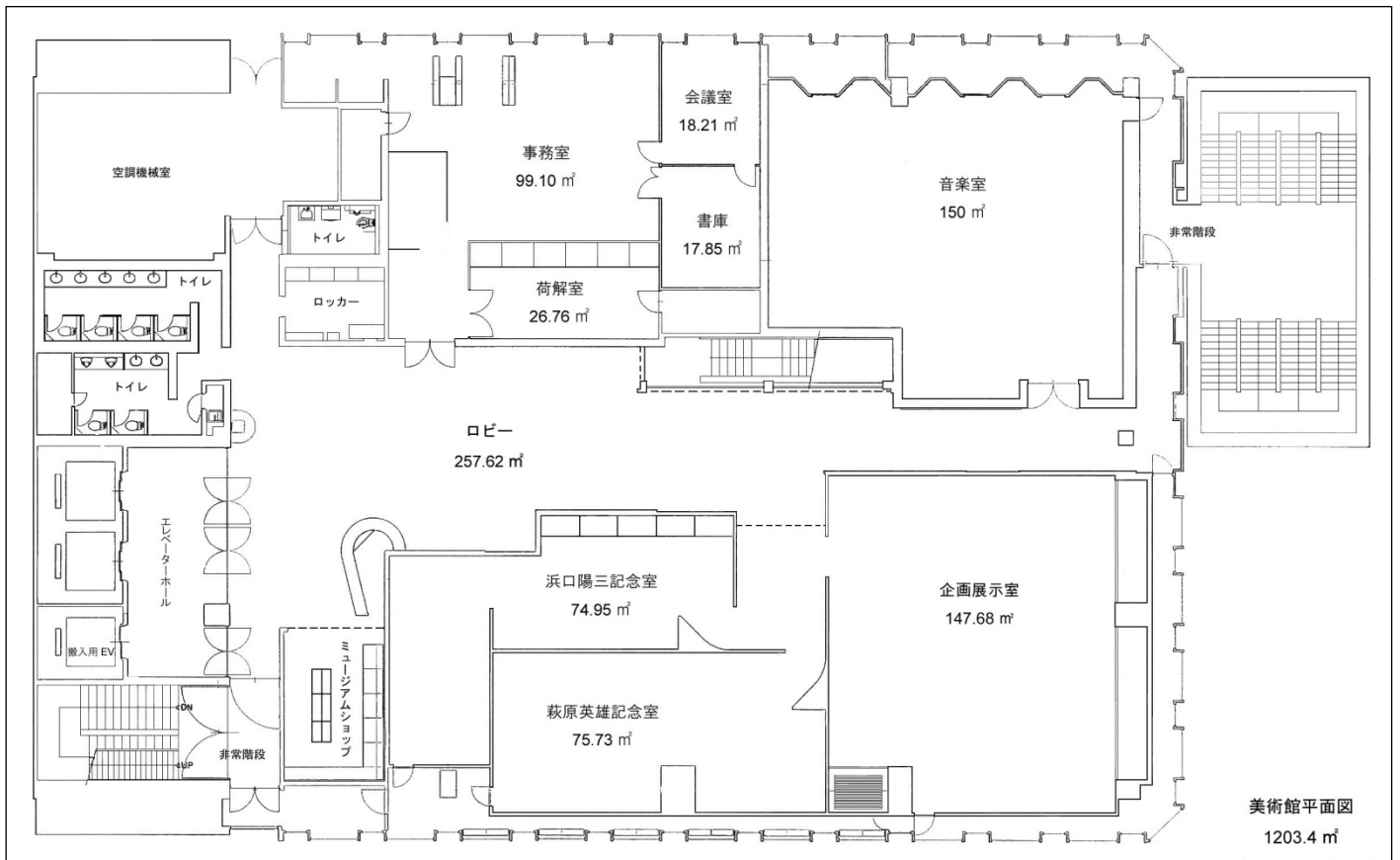
開館日 2002年2月2日
設計管理 鬼頭梓建築設計事務所
建設工事 清水建設株式会社

企画展示室	147.68 m ²
浜口陽三記念室（常設展示室）	74.95 m ²
萩原英雄記念室（常設展示室）	75.73 m ²
音楽室	150.00 m ²



F&Fビル(コピス吉祥寺A館)
2012年2月撮影

吉祥寺美術館 平面図



企画展示室



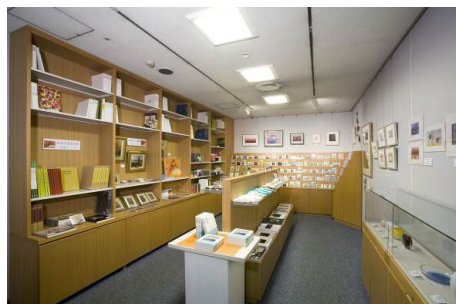
浜口陽三記念室



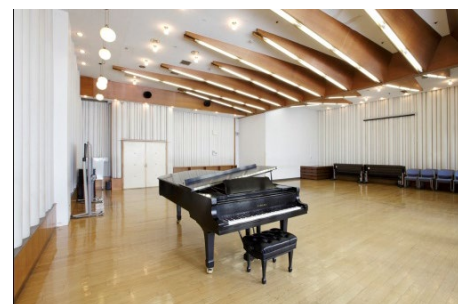
萩原英雄記念室



ロビー



ミュージアムショップ



音楽室

8 組織
8-1 指定管理者

公益財団法人 武蔵野文化事業団

The Musashino Cultural Foundation

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 3-9-11

TEL.0422-54-8822

1984年11月設立

理事長 青木 稔(2022年3月現在)

※武蔵野市の指定管理者として吉祥寺美術館を含む以下の8施設の管理運営業務を受託しています

武蔵野市民文化会館 (1984年開館)

Musashino Civic Cultural Hall

武蔵野市中町 3-9-11

武蔵野芸能劇場 (1984年開館)

Musashino Performing Arts Theater

武蔵野市中町 1-15-10

武蔵野公会堂 (1964年開館、1989年より事業団運営)

Musashino Public Hall

武蔵野市南町 1-6-22

武蔵野スイングホール (1996年開館)

Musashino Swing Hall

武蔵野市境 2-14-1

武蔵野市立吉祥寺美術館 (2002年開館)

Kichijoji Art Museum

武蔵野市吉祥寺本町 1-8-16 FFビル7階

松露庵 (2003年開設)

Musashino Teahouse *Shoroan*

武蔵野市桜堤 1-4-22 (市立古瀬公園内)

吉祥寺シアター (2005年開館)

Kichijoji Theatre

武蔵野市吉祥寺本町 1-33-22

かたらいの道市民スペース (2010年開館)

Kataraino-michi

武蔵野市中町 1-11-16 (武蔵野タワーズ スカイクロスタワー内)

8-2 外部委員会

武蔵野市美術資料収集選定委員会

所管:武蔵野市企画政策室市民協働推進課(～平成 22 年度)

武蔵野市市民部市民活動推進課(平成 23 年度～)

大久保 純一 国立歴史民俗博物館教授

岩切 信一郎 新渡戸文化短期大学教授

桑原 規子 聖徳大学人文学部准教授

任期:平成 23(2011)年 2 月 1 日－平成 25(2013)年 1 月 31 日

岩切 信一郎 新渡戸文化短期大学教授

桑原 規子 聖徳大学文学部准教授

河野 実 鹿沼市立川上澄生美術館館長

任期:平成 25(2013)年 2 月 1 日－平成 27(2015)年 1 月 31 日

岩切 信一郎 新渡戸文化短期大学教授

桑原 規子 聖徳大学文学部准教授

河野 実 鹿沼市立川上澄生美術館館長

任期:平成 27(2015)年 2 月 1 日－平成 29(2017)年 1 月 31 日

岩切 信一郎 新渡戸文化短期大学教授

桑原 規子 聖徳大学文学部教授

河野 実 鹿沼市立川上澄生美術館館長

任期:平成 29(2017)年 2 月 1 日－平成 31(2019)年 1 月 31 日

岩切 信一郎 美術史家

桑原 規子 聖徳大学文学部教授

河野 実 美術評論家

任期:平成 31(2019)年 2 月 1 日－令和 3(2021)年 1 月 31 日

岩切 信一郎 美術史家

桑原 規子 聖徳大学文学部教授

河野 実 美術評論家

任期:令和 3(2021)年 2 月 1 日－



武蔵野市立吉祥寺美術館

開館時間 午前 10 時—午後 7 時 30 分
休館日 毎月最終水曜日
年末年始 (12/29-1/3)
展示替および特別整理期間
入館料 企画展 300 円 常設展 100 円
(小学生以下・65 歳以上・障がい者の方は無料)

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-8-16
FF ビル (コピス吉祥寺 A 館) 7 階
TEL. 0422-22-0385 FAX. 0422-22-0386
<https://www.musashino.or.jp/museum/index.html>

武蔵野市立吉祥寺美術館

活動記録 2002—2022

発行：武蔵野市立吉祥寺美術館

発行日：2022 年 3 月 31 日